

平成28年度 公開園・校指導案

もみじ組 公開保育指導案
 保育者 梅原 みささ

1. 日 時 平成28年 6月 17日(金)
2. 園児数 男児 6名 女児 12名 計 18名
3. 学級の実態
 入園当初、新しい環境、生活に対する不安な気持ち強く、登園時には涙を流す姿が多く見られたが、入園式から1ヶ月がたち、少しずつ幼児にとって幼稚園が安心出来る場となり、色々な遊びに興味を持ち、笑顔で過ごす姿が見られるようになった。
 (体・生活習慣について)

入園まで家庭で過ごしていた子がほとんどである。生活習慣は個人差が大きいものの、身支度では「やってみよう!!」「自分でする!!」と意欲的に取り組む姿が見られ始めている。排泄も入園式までオムツで過ごしていた子がほとんどであったが、すぐにオムツも外し、時間を決め誘いかけられることで排泄の習慣も身につけ始めている。「自分で出来る!!」という意欲的な思いを大切にしつつ、1つ1つの習慣がきちんと身につけられるよう丁寧に関わっているところである。食事面では食生活の偏りが大きく、個別の援助が必要である。偏食のほとんどが食べず嫌いであることは保護者も理解しているものの、甘えが見られ前に進めていないのが現状である。家庭との連携を深め、少しずつ食に対する意識を変えていきたい。

学級活動として毎日、リトミック・表現遊び、サーキットなどを行っている。体を動かすことが好きであり、色々な運動用具にも意欲的に挑戦している。やってみよう!!出来るようになりたい!!と挑戦する気持ちを大切に、遊びの投げかけを行っていきたい。
 (人間関係について)

保育者と触れ合うこと、関わるのが楽しく、楽しく、「見て見て!!」「来て来て!!」と一緒にいることで安心して生活することができている。毎朝の欠席調べの中でチームの友達に目が向き始め「なんでおってないん?」「今日○○ちゃんおやすみなん?」「と欠席している友達がいると気にする様子が見られるようになった。また、遊びの中では気の合う友達と一緒にいること、一緒に遊ぶことで友達との繋がりが広がっているところである。入園当初から優しく関わってくれた年長児も大好きな存在となり、自然な形で異年齢での関わりが深まりつつある。

(自然物とのかわりについて)
 園生活の中でダンゴムシやザリガニなど身近な生き物との触れ合いを楽しみ姿が見られるようになった。触るのは怖いけど、見てみたい…と興味を広がっている。生き物は命があることを知り、3歳児なりに大切に扱えるように扱い方を知らせているところである。

年長児、年中児の姿を見て、草花を使った水色づくりも大好きな遊びとなっている。

色々な色、形、においを楽しみながら日々、製作している。幼児の不思議や発見を受け止める自然物への興味、関心を高めたい。
 (言葉について)

話すことが好きであり、保育者にたくさんさんの思いを伝えることが出来る。やりとりする楽しさを感じ始めているので、一人一人と関わる時間を大切にしていきたい。

また、歌うことが好きであり、歌詞はわからなくても歌うことを楽しんでいく。色々な言葉、音、リズムとの出会いを大切に、たくさんさんの歌と出会う場を設けていきたい。

まだまだ、自分が!!の思いが強く、言葉も不十分であり時折友達に対して強い口調も見られ始めている。自分だけでなく、友達にも思いがあることを知り、「貸して」「いいよ」「ごめんね」「ありがと」と色々な言葉を扱い、思いが伝え合えるようトラブル時には話をしているところである。

(描いたり、つくったりについて)

学級活動で行っている表現遊びの中で、色々な動物に変身することを楽しみ始めている。「何に変身しようかな～」と保育者が投げかけると「うさぎ」「ライオン!!」「ブタ!!」と変身したいものを知らせてくれるようになった。「ブタさんって?」とさらに投げかけると幼児からどんどんアイデアが出始め、なりきって表現する面白さを感じている姿が見られるようになった。

ぬたくりやどろんこ、ローラーなど初めての事柄に少し緊張感を抱いている子ども遊びが始まると感触の心地よさ、描く面白さを知り良い表情で参加出来るようになった。一人一人の表現をあたたく受け止め、出来た嬉しさを共有していきたい。

4. 本日のねらい

○保育者と一緒、友達と一緒に喜び伸び伸びと生活する。

○いろいろな体を動かすことを楽しむ。

さく組 公開保育指導案

保育者 西野 のぞみ

1. 日時 平成28年6月17日(金)

2. 園児数 男児15名 女児8名 計23名

3. 学級の実態

進級児18名、新入園児5名の学級である。4月は担任や保育室が変わったことや新入園児も加わったことではばらく落ち着かない様子であったが、保育者や友達との触れ合いや、遊びの中でのやりとりなどを重ね、少しずつ気持ちが落ち着き着き生活を楽しみ始めている。

(体・生活習慣について)

入園前の様々な生活体験の不足や体の使い方、体を動かす遊びの経験が少ないことで、課題が大きいと感じられ、昨年度から学級でも様々な活動を経験した。しかし、まだ両足跳びが難しい、姿勢が保持しにくいなど、個人差はあるが様々な課題があり、引き続き楽しく遊ぶ中で体の作りができるように工夫していく必要がある。学級活動でリトミック、サーキットなどで様々な動きの経験をし、やりたい遊びの中でも鬼ごっこ、相撲、砂場遊び、三輪車などを動かして遊ぶことが好きで、十分に楽しめるように考えている。

生活習慣も個人差が大きいが、なかなか気持ちが向きにくかった幼児も意欲的にしようとする姿も出てきており、それぞれが自分なりに取り組んでいるところである。

(人間関係について)

友達や保育者の存在を意識することや、思いを伝える力が育んでいけるようになると4月当初から触れ合い遊びを継続して取り組んでいる。誘ったり、誘われたり、時には断られたりしながらも触れ合いの楽しさや友達の思いを感じ、子どもたちの笑顔が多く見られる時間となっている。遊びの中でも気の合う友達それぞれに見つかり一緒に遊びを楽しむ姿も多く見られる。少人数でのやりとりは増えてきたが、たくさんの友達の中では個々の遊びになったり、友達の思いには気づきにくく、受け止めにくい為いざいざになったりする。また、集団行動の際、友達を待たせしてしまう等マイペースに行動してしまう部分があり、友達への意識の低さも感じられる。

(自然物とのかかわりについて)

昨年度から保育者と一緒に世話をしていた赤ちゃんカタツムリに関心を持つ幼児がいたり、ダンゴムシ探しを思い出し楽しんで楽しんだりする姿が当初から見られた。子どもたちだけで世話を継続するほどの気持ちにはなっていないが、保育者と一緒に世話をすることで関心が深まってきており、家の近くで捕まえたカタツムリを持ってきて園で飼育することになった。同じメンバーが世話・観察をすることが多いが、学級でも変化を知らせる機会も作り、少しずつ色々な幼児が関わろうとしている。飼育の際にカタツムリの動きを表現する幼児もあり、おもしろさを感じた他児にもひろがるようになった。

草花に対しても昨年度経験した色水遊びや収集を喜び姿があり、現在は花束作り、花冠作りを楽しむ幼児がいる。

(言葉について)

少し発音が不明瞭な幼児がいたり、思いを伝えることに消極的な幼児がいるが、それぞれに伝えたい思いは育ってきている。話しやすい雰囲気を作り、様子に合わせて言葉を補ったり、言葉で知らせることを伝えたりしながら関わっているところである。

(描いたり・作ったり・踊ったり)

カタツムリの動きの表現が刺激となり、カエル、チョウチョ、ダンゴムシなど知っている生き物の動きを真似る遊びも生まれた。その表現が増え鬼に入り、カエル鬼ごっこ、かいじゅう鬼ごっこと名付けて楽しむ姿も見られる。

4月の下旬から製作コーナーで遊びを楽しみ姿が見られ出し、のびのびと自分のイメージを表現する幼児が他児への刺激となり、女の子を中心にヘアアクセサリー、手紙作りをしている。着飾って保育者に驚いてもらうこと、やりとりをすることも楽しいようである。

自分らしくのびのびと表現していることや工夫している様子が感じられたところなどを認めていき、一人一人の良さが十分に発揮できるようにしていきたい。

道具や用具の扱いについては個人差が大きく、一人一人丁寧に関わって知らせていきたい。

4. 本日のねらい

○やりたい遊びを見つけて夢中になって遊ぶ。

○友達に思いを伝えたり聞いたりしながら一緒に遊ぶ楽しさを感じる

きく組 4 歳児 黄色組子 ☆保育者の援助 ◇評価の視点

●ねらい ○環境の構成

作ったり、作ったものを使って遊んだりする。
やりたいたい遊びの中で自由に製作し、接着剤で貼ったり、折り紙を折ったりする経験が積めるようにと製作コーナーを設けたい。

●自分の作りたいものをイメージに合わせて作る事を楽しむ。
●作ったものを身につけ、踊ったり、楽器を鳴らしたりして楽しむ。
○製作しやすいように材料や机などを整えておく。
○天候に合わせて楽器や音楽なども使って表現を楽しめるようにしておく。

相撲 ※雨天時

昨年冬、年中が相撲遊びをしていたのを見て、やってみようという刺激になり年々子どもたちも楽しんで遊んでいる。今年度、雨天時に遊戯室に行くことになり、相撲の姿を楽しく見せたい。
●勝って嬉しい気持ちや、負けて悔しい気持ちを表現できるようにしてあげる。

鬼ごっこ ※雨天時は遊戯室

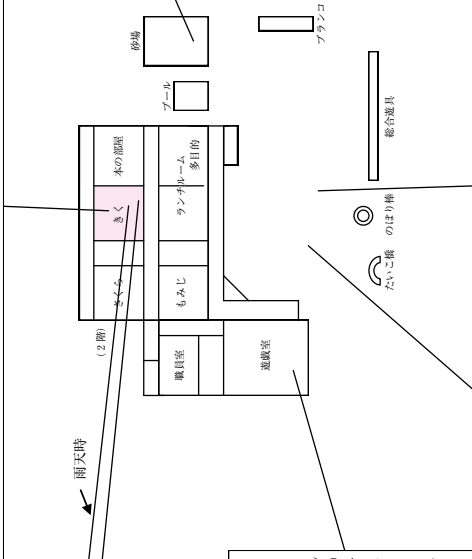
昨年度から楽しんで遊んでいたバナナ鬼ごっこをルールを守って遊ぶ楽しさを感じてほしいと学級活動で継続して取り組んでいる。走ったり、友達の動きを見て逃げたり、思い切り走ったりと、楽しい遊びながら体を動かす事、また友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じてほしいという願いを持って、やりたい遊びの中で数人が「バナナ鬼ごっこ」と声を上げてもなかなか人数が集まらなかったが、学級活動で取り上げたことや、かいいゅう鬼(増え鬼)・リンゴ鬼など子ども達の姿から出てきた鬼ごっこをする中で楽しさを感じている。

カタツムリの世話 (→表現)

昨年度から園庭で見つけた赤ちゃんカタツムリの飼育を保育者と一緒に経験し、少しずつカタツムリへの関心が出てきた。家の近くでつかまえたカタツムリを持ってくる幼児がおり、現在もカタツムリの世話をしている。その際にカタツムリの動きを真似て、殻に見立てた道標を背負い服は表現する姿に、それを見ておもしろさを感じた幼児にも広がっていた。カタツムリの様子や動きを見たり、触れたりして親しみをもちようとしている。

●カタツムリの様子や動きを見たり、触れたりして親しみをもちようとしている。
○世話がしやすいように世話ができるセットを飼育ケースの近くに用意する。
☆変化や様子に気がつく声を拾い、共感したり、新たな気づきにつながるように注目するところを知らせたりする。
☆イメージが表現しやすいように、カタツムリの動き方を問いかけたり、おもしろい動きをしている幼児を認めたり、一緒に表現したりする。

◇日、口、体の動きやうんちの色、何を食べたかなど気付きを言葉にしていく。
◇どんな動きを表現しているかや、どんなところがおもしろいかなんかお話をしているか。



水を使った砂場遊び

暑くなってきた頃から盛り上がりが出てきて、繰り返しスコップで掘ったり、じょうろで水を入れたりして、水たまりができていたり、友達と一緒に遊んでいるところが多くなっている。水を喜んで遊んでいる。水を組み合わせて水の流れる方を変えたり、板を使って橋や船、水のすべり台にするなど道具を工夫して使おうとする姿も見られており、その中で友達と同じイメージで遊んだり、自然に役割分担ができていくこともあ

る。また砂や泥を使ってのアイスクリューやカレー、納豆ご飯などを作る遊びで友達や先生とのやりとりを楽しんだりも継続している。
●「すべり台」「アイスクリュー」「アイスクリュー」などのイメージを友達に伝えたり、友達が理解し、同じイメージを持って遊ぼうとする。
●道具を子どもたちなりに工夫して使おうとする。
●道具や水を運んだり、スコップで掘るなど、楽しみながら色々な体の動きを経験する。
○水のすべり台の角度を変えられるようなビールケースや土管なども目につくやすい場所に準備する。
○ごちそうを作り、友達に食べさせてもらうやりとりがしやすいように、砂場の近くに机、椅子などを準備しておく。
☆したいと思うことが実現できて嬉しいと思えるように、視線を捉えたり、どうしたらいいか一緒に考えていく。
☆自然と役割分担ができていたり、友達と一緒に遊んだことなどで遊びが楽しくなったことを言葉にして知らせ、友達と関わる楽しさを感じられるようにしていく。
◇したいことができているか。
◇「やった!」「やった!」などと言ったり、笑顔になっているか。
◇友達に「アイスクリューです」「納豆ご飯食べて」など自分のイメージを話したり、友達が作ってくれたことを喜んでいたりする。

三輪車 (いろんな道を通ってみよう!)

運動会で課題のある子どもが多いクラスであり、昨年度末によく乗れるようになった幼児もいた。そのような経験もあり、今、三輪車に乗ることがとても楽しいよう。白線で書かれたコースや狭いところを探して進んだり、友達とペースを合わせて追いかけたり、競争しながら走り回ったりしている。また、二人乗りの三輪車で友達と一緒に乗ることや、どこに乗るかの取り合いや交代ができていなくなったりしながらも、喜んで毎日のように遊んでいる。経験していきうちに土山から乗って降りる遊びも盛り上がりつつある。

●ペダルを漕いで進んだり、ハンドルの向きを変えて曲がったり、足でブレーキをかけたけりなど三輪車に乗って色々な道を通むことを楽しむ。
●友達に「漕いで」と思いを伝えたり、聞いたり、進みや距離を競争したりしながら友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
○白線やコーンを使ってコースを作ったり、洗車機やガワリンスタンドなどを、子どもたちのイメージに合わせて子どもたちと一緒に準備していく。
○速さの競走用直線のコースを準備しておく。
○土山から乗って降りる遊びでは、進んだ距離にも目が行き競争につながるように石灰でラインを引いておく。
☆コースや人の動きを見て進んだり曲がったり止まったりしている姿に驚いてみたり認めたりし、次の意欲や達成感につながる。
☆自分のしたいことや困っていることを言葉にし、伝えると分かっていることを知らせたり、どう言えば相手に伝わるか知らせたりする。
☆速さや土山から下って進んだ距離に驚いて見せたり、保育者も競争に参加したりして、友達との競争につながるようにする。
◇コースや人の動きを見て進んだり曲がったり、止まったりする楽しさや達成感を感じて笑顔になっているか。

さくら組 公開保育指導案

保育者 坂根 由香

＜描いたり・作ったり・踊ったり＞

表現することが大好きであり、いろいろな素材や自然物で自分のイメージしたものを作り、出来上がりを認めてもらうことで満足感を得ている。また友達とイメージを共有しながら作りそれを使ってごっこ遊びを楽しむこともある。

リトミックでいろいろな動きをしていく中で小動物や動物になりきって表現することを楽しんでいる。毎日の日課として降園前当番が好きなものをつみくみに伝えてそれになりきり表現することを楽しんで後さよならの挨拶をするようにしている。繰り返しの経験の中で友達からも良い刺激を受けている。その題材として出てくるのはよく関わっているザリガニやカタツムリである。

4. 本日のねらい

- ・身近な生き物に自分から関わり大切にしようとする。
- ・友達と一緒に共通の目的を持って遊びを楽しむ

1. 日時 平成28年6月17日(金)
2. 園児数 男児5名 女児8名 計13名
3. クラスの美観

＜生活の様子＞

進級児12名、新入園児1名の学級である。4月は進級したことを喜びつつも年長になったことへの緊張や不安な気持ちが見られたりもしたが前年度からの継続したやりたい遊びを楽しむ時間を大切にすることによって気持ちも落ち着き新しい生活を楽しみ始めている。年長になった緊張が喜びに変わりつつある。

＜基本的な生活習慣について＞

身支度や食事については個人差はあるが見通しを持てるようにすることでめあてを持ち自分自身でしようとする姿が見られるようになる。できることが増えることと生活の中で必要なことに気がついて自分でしようとする子もいる。そのような姿を認め褒めることで自信に繋がるようにしている。

＜人間関係について＞

気の合う友達とイメージを共有しながら遊びを進めていく姿が見られるようになってきた。自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりすることができるようにはなってきたが、思いはあるけれどもうまく伝えられない子などまだまだ個人差が見られるので個々に応じて援助している。いろいろな友達(異年齢児)と関わり楽しくすることを知ったり頼りみを持ち過ごすことで年長になった喜びを感じているようである。

＜自然物との関わり＞

色水遊びを通して自然物に目を向けることが多くなり草花を集めていく中で様々な虫を見つ、そこから虫さがしが始まった。譲り受けたカタツムリの世話を続けることで4歳児の時のように飼育の方に関心がなく死なせていた様子とは違い、親しみをもち世話ができるようになってきている。園外に出かけたザリガニ釣りでは自然の中における小動物などの姿を見る良い機会となった。この体験を大切に自分達で飼育の仕方を考えたり観察していき中で気づきや疑問を持ち調べようとしていたり考えてみたりできるように思いを引き出していきたい。

＜言葉について＞

一人一人が話したい、伝えたいという思いが強くなり自分の思いを言うこと・聞いてもらうことで満足を得ていることが多い。その中で相手の思いを聞くことができるように保育者も適宜言葉をかけて意識できるようにする。そうすることでやりとりをしながら遊びが進められるようになってきている。また強い口調や汚い言葉使いなどもあるのが場面に添じた言葉を伝えていくようにする。

さくら組(年少) 公開保育指導案

担任 藤本 友美

- 1 日時 平成28年7月15日(金)
- 2 園児数 男児 14名 女児 8名 計 22名
- 3 学級の実態

4月当初より慣れない環境の不安から、泣いて登園する子や入室を拒む子が数人いたが、個別に関わっていくことで少しずつ信頼関係ができてきた。今では、安心して幼稚園生活を楽しむ子が増え、色々な活動や遊びに興味を持って行動している。

〈健康〉

生活習慣には個人差があるものの、生活の流れが分かるようになってきており、教師の助けを得ながら、身の回りのことに意欲的に取り組む姿が見られている。その一方で「できない」「次は何するん」などの戸惑いがある子もいるので、一人一人に応じた支援を心がけているところである。

〈人間関係〉

友だちのしていることに関心を持って見ている子、まねをして遊ぶ子、一緒にごっこ遊びをする子などの姿が見られるようになってきた。しかし、自分の思いと違うときやほしい物の取り合いでトラブルになることもある。その中で「～したらあかんで」「痛いのでやめなよ」と友だちの立場に立って声かけをする子も出てきている。

思いを言葉や態度で伝えようとする姿を受け止め、温かく見守りながら子ども同士の関わりをつないでいきたい。

〈環境〉

年長組や年中組の子が生き物の世話をしている姿に興味を持ち、傍で見て、教えてもらったことや初めて知ったことなどを教師に話しに来る子がいる。

最近では、カニやザリガニの本を開き楽しむ姿や、庭にいるダンゴ虫探しに夢中になり生き物への関心が深まってきている。

また、ブルーベリーの実を食べたい子も多く、登園後、実が紫になっているか観察している子もいる。スイトピーの種を収穫し、秋に種まきをすることを楽しみにしている。

〈言葉〉

友だちを誘って一緒に遊べるようになり言葉のやり取りが増えてきている。遊びや生活の中で必要な言葉をその都度教え、会話が楽しめるようにしている。

絵本の読み聞かせが大好きで、読んでほしい本を持ってきたり、話の中で好きなところを話したりする子もいる。

話をしたり聞いたりする中で色々な言葉との出会いを大切にしていきたい。

〈表現〉

歌やリミックなどの音楽遊びが大好きで、リズムに合わせて歌い、感じたとおりに表現し楽しんでいる姿が見られる。

砂遊びから泥遊びへと発展し、園庭に雨水がたまり、池のようになったことに気付く、海づくりをはじめた。「山から水を流したい」「道もつくるよ」と話をしながら友だちと一緒に遊んでいる。

泥や水の感触を十分に味わわせながら、日々楽しく遊ばせたい。

時間	主な活動	予想される幼児の姿・反応	指導上の留意点	評価の観点
10:40	○振り返り ○片付け ~教室~ ○着替え	<ul style="list-style-type: none"> 他のことに興味をもち、その場を離れる子もいる そばでままごと遊びをする子もいる 順番が守れなかつたり、同じ物を使いたくてもトラブルになることもある 今日の遊びを振り返り、自分がしていたことや思ったことを話す 自分で使っていた物を片付ける 片付けを速中でやめて、入室しようとする 自分で着替えをする 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽をかけることにより、集会が始まることを知り、広場に集まれるようにする 広い海を作ろうと関心をもっている 子どもたちの思いを受けとめながら、今日も楽しく遊べるように話をする 友だちと一緒に活動する楽しさを味わえるようにする 子どもがつぶぶやきや動きを飛ばさず、認める言葉をかける 作った魚や様々な素材が自由につかえるようにしておく 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの思いが言葉などで伝えられている 水や泥の気持ち良さを感しながら何度も触っている

時間	主な活動	予想される幼児の姿・反応	指導上の留意点	評価の観点
9:30	○集会 ・歌を歌う ・英語遊び ○クラスへ入室 ・排泄・水分補給をする ・出欠確認 ・今日の活動の話を ・着替え	<ul style="list-style-type: none"> 集会に参加するために片付けをし、広場に並ぶ 体を動かしながら、歌や英語遊びを楽しむ 周りの様子を伺っている子もいる トネルを作りたい 水入れするわ 何をしたいか話し始める 着替えができたら、喜んで外へ行く 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽をかけることにより、集会が始まることを知り、広場に集まれるようにする 広い海を作ろうと関心をもっている 子どもたちの思いを受けとめながら、今日も楽しく遊べるように話をする 友だちと一緒に活動する楽しさを味わえるようにする 子どもがつぶぶやきや動きを飛ばさず、認める言葉をかける 作った魚や様々な素材が自由につかえるようにしておく 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いが言葉などで伝えられている 水や泥の気持ち良さを感しながら何度も触っている
10:00	~園庭~ ○泥・水遊び 【大きな海を作ろう】	<ul style="list-style-type: none"> 海を大きくするために、スコップや手で穴を掘る 水運びに興味をもち、思い思いの道具に水をくみ海に流す したいことや思いを友だちと会話をしながら楽しむ子もいる 水が流れる様子が嬉しくて、水路を増やそうとする やまもつくりたい お魚 おおるで 船もつかべたい 大きな海を作ったこと(赤土で固めるなど)をしてみようとする 様々な素材で作った魚や船、身近な自然物を水の中に浮かべてみる 気づいたことや思いを教師に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 準備物 水タンク、スコップ、バケツ、ペットボトル、牛乳パックなど 友だちと一緒に活動する楽しさを味わえるようにする 子どもがつぶぶやきや動きを飛ばさず、認める言葉をかける 作った魚や様々な素材が自由につかえるようにしておく 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いが言葉などで伝えられている 水や泥の気持ち良さを感しながら何度も触っている

教師の環境構成

子どもの思い

ばら組(年中) 公開保育指導案

担任 梅本 佳恵

- 1 日時 平成28年7月15日(金)
- 2 園児数 男児 10名 女児 9名 計 19名
- 3 学級の実態

4月当初は、新しい生活に楽しみを持ちながらも、不安を抱き確認を取る様子が見られた。園生活の一日の流れが分かるようになると、自分からやりたい遊びを見つけて遊ぶようになってきている。

〈健康〉

身の回りの始末や片付けなど自分のことは自分でしようとするが、時間がかかったり最後までできないことが多かった。日が経つにつれて自分のことは自分でやらなければならない意識がでて、以前より早くできるようになってきた。

運動面では個人差があり、様々な課題が見られるため、サーキットや鉄棒など体全体を動かせる活動を取り入れているところである。

〈人間関係〉

4月当初は、一人で遊ぶ子、教師の傍にいる子などもいたが、友だちへの関心が出てきて、気の合う友だちと一緒に遊ぶ姿が見られるようになってきた。その中で、自分の思いを強く出そうとする子がいて、トラブルになることもある。

自分中心の思いだけで行動するのではなく、相手にも思いがあることに気付かせ、友だちとのかかわりを大切にして、仲良く協力して遊べるようにしていきたい。

〈環境〉

ザリガニやクワガタなど身近な生き物を家から持ってきたことで、生き物に対する興味が広がり、自分達で世話をするようになった。偶然にも青虫が成虫になる姿を見たときには「わあ、チョウチョになった」「せんせい、見に来て」と部屋中で大喜びの歓声が上がった。

生き物を観察しながら不思議に思ったことや分からないことを図鑑で調べ、成長や変化を楽しんでいる。

〈言葉〉

発音が不明瞭な子や友だちとかかわって遊ぶのが消極的な子がいるが、気付いたことや楽しかったことは、友だちや教師に話したいという思いが強い。一人一人に合わせて教師が言葉を補うことで少しずつ元気に友だちとかかわれるようになってきている。

絵本を好み、自分達で読んでほしい絵本を選んだり図書室で絵本を読んだりしながら絵本の時間を大切にしている。

〈表現〉

絵を描くことがとても好きな子が多く、じゆうがちょうや部屋に置いてある紙に自分の思いのまま楽しんで描いている。ザリガニやカメのえさについても自分で感じたことや思ったことを自主的に描いていた。

外遊びは、砂と赤土の性質の違いに気付き、水を含ませたり泥団子を作ったりして泥遊びを楽しんでいる。また、年少組の海づくりの活動を見て、「赤土を入れたらかたまるよ」と教えに行き子や赤土をパラパラとかけてやっている子がいる。そうして砂遊びをしている中で船づくりに発展していき、自分達でイメージを共有しながら楽しんで活動している。

ねらい	砂、土、水などの感触を知り、友達と一緒に試したり、比べたりしながら、泥遊びを楽しむ	指導上の留意点	評価の観点
時間 9:30 4歳児 ばら組	<p>主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集会 ・歌 ・英語遊び <p>～クラス入室～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○朝の挨拶 ・出欠確認 	<p>予想される幼児の姿・反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会に参加するため、広場に各自集まり整列する ・体全体でリズムをとったり、歌ったり踊ったり楽しく参加する ・各自、排泄・水分補給をすませる 	<p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽をかけることにより、スペースに広場に集まれるようにする
時間 10:00	<p>主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○泥遊び用の服に着替える 	<p>予想される幼児の姿・反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の予定を確認し、自分たちがしたい遊びのイメージをもつ ・早く遊びたい気持ち強く、着替え終わったら喜んで船の所へ行く 	<p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動に興味をもっている
時間 10:10	<p>主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ～園庭～ ○泥遊び <p>【硬くて壊れない船を作ろう】</p> <p>砂や赤土に水を混ぜたり、固めたりすることで、様々な土の違いに気づき、感触を楽しむ</p> <p>カチコチやあ～</p> <p>ふいよぶいよぶ</p> <p>固まってきたな</p> <p>気持ちいいなあ</p> <p>砂で作った船が壊れないように土を選び、砂のかかけ方、力加減を工夫している</p> <p>・家庭から持参した材料で作った旗や自然物などで船に飾りをつける</p> <p>さら砂担当!</p> <p>おふちもいれもあるん</p> <p>船長は○○くん</p> <p>丸い船が1番号</p> <p>ゆり組さんものせてあげよな</p> <p>うみもいるで!</p> <p>子どもの思い</p>	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スコップ、バケツ、型など、自分で出し入れできるように配置 ・なんで固まったのか、赤土と砂とどう違うのか、比べられるような言葉がけをする 	<p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂、水、泥に触れ感触を味わいながら、その性質をとらえている

教師の環境構成

ねらい	砂、土、水などの感触を知り、友達と一緒に試したり、比べたりしながら、泥遊びを楽しむ	指導上の留意点	評価の観点
時間 10:40	<p>主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○振り返り 	<p>予想される幼児の姿・反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の土で泥団子を作り、土の色や質感の違いに気づく ・作った泥団子を転がしたり、水を流したり、友だちと強度や転がる速さを比べたりする ・転がりやすい角度を考えながら、坂作りをする ・ケークや泥、自然物などでカレーやケーキを作り友だちに振る舞う 	<p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出上りがついでに泥団子や船に喜びを感じている
時間 10:40	<p>主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○振り返り 	<p>予想される幼児の姿・反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がしていた遊びや楽しかったことを自分の言葉でみんなに伝えようと意欲的に発表する 	<p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の話にも興味をもっており、次の活動へ期待をもっている
時間 10:40	<p>主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○片付け ～教室～ ○着替え 	<p>予想される幼児の姿・反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使った道具は、水洗いし、元の場所に片づける ・自分で足を洗い、教室に入っている替えをする ・着替えが終わったら、絵本を見て静かに待つ 	<p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この後どうしていきたいか、次へのステップになるように話を進める ・年少組の片付けを手伝っている姿を見逃さず、感謝の気持ちを伝える

ゆり組(年長) 公開保育指導案

担任 林 裕美子

- 1 日時 平成28年7月15日(金)
- 2 園児数 男児 5名 女児 9名 計 14名
- 3 学級の実態

あこがれていた年長に進級し、自分の得意なこと、好きなことには意欲的に取り組む一方、緊張や不安を感じる姿も見られたが、グループ活動、当番活動を通して、仲間意識も芽生え、お互い助け合いながら楽しく生活している。4月から逆上がり、縄跳びに力を入れ、毎日取り組む中でほとんどができるようになってきた。

〈健康〉

身支度、食事については、個人差があり、自分で気付き、見通しを持って進めようとしている子が多い中、数名においては、言葉かけが必要な場合もあった。2ヶ月が経ち、周りを見て合わせようとする姿も見られ、生活の中で必要な事に気付きはじめている。

運動面では個人差があるので、できるだけ外で元気に遊ばせ、鉄棒にぶら下がったり縄跳び遊びをして進んで体を動かすことができるように声かけをしているところである。

〈人間関係〉

大きなトラブルもなく、気の合う友だちと好きな遊びを見つけて楽しむ姿が見られる。その中でも、自分の思いを伝えられる子とうまく伝えられない子があり、まだまだ見守り、声かけなどの支援が必要である。

グループ内で助け合ったり教え合ったりする姿もあり、友だちが上手くできたこと、できるようになったことに対して、素直に「すごい」と褒め合い、自分もできるようになりたいと思い、頑張ったり練習したりできるという自信につながったりしている。

〈環境〉

畑や園庭にひまわり、ゴーヤ、万願寺とうがらし、さつまいも、プチトマトなどを植え、毎朝、水やりをし生長を楽しみにしている。春には、昨年植えたイチゴが赤くなって大きな実になったので、毎日収穫し、食べることの喜びを味わった。栽培への興味は深い。4月から、ザリガニやカニの世話を通して生き物の生態に興味を持ち、自分達で飼育の仕方を考えて世話をする中で気付きや疑問が生まれてきている。

〈言葉〉

自分の思いをスムーズに言葉にして話ができる子と単語だけで話す子や言葉が不足していて、友だちに自分の思いがきちんと伝わらない子がいる。ゆっくり話を聞いてあげるようにしながら教師が言葉を補い、話している子が話ができよかったですと思えるようにして自信をつけていきたい。また、一日の振り返りなどで話す機会を作り、友だちの前で話ができるようにすると共に話している人の思いをくみ取りながら話が聞けるようにしていきたい。

〈表現〉

歌がとても好きで、すぐに覚えて友だちと楽しく歌ったり、楽器に慣れ親しんだりしている。リズムでは、リズムに合わせ、体で表現を楽しんでいる。

暑くなり水遊びからシャボン玉に発展した。既成の物では物足りなくなり、自分達で道具を作るようになった。活動が楽しくなりはじめ、自分の工夫した道具で遊んでいる。中には友だちの飛ばしたシャボン玉を見て「シャボン玉のシャワーみたい」と満面の笑みを浮かべている子もいる。

ねらい	時間	主な活動	予想される幼児の姿・反応	指導上の留意点	評価の観点
シャボン玉の不思議さ、面白さに気づき、作ることを楽しむ					
シャボン玉の不思議さ、面白さに気づき、作ることを楽しむ	10:40	○振り返り 感想交流	<ul style="list-style-type: none"> どのグループの液が割れにくいかなどを比べてみる どんな道具を使えば大きなシャボン玉ができるか、いろいろ試している シャボン玉の大きさや数、とぶ高さや距離などを友達と競い合っている 自分がシャボン玉液を作る上で工夫したこと、発見したことを話す みんなで協力して作れたことを話す 困ったことや次にやりたいことを話す 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの多様な気づきを認め称賛し、気づきを共有させる 各グループの作り方を認めたり、気づいたことを評価する 自分が気づいたこと、不思議に思ったこと、発見したことを振り返らせる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が発見したことや思いを言葉で伝えられている 友だちの意見を聞き自分の思いと照らしあわせている
		○片付け			<ul style="list-style-type: none"> 保管しやすい容器等を日頃から準備

ねらい	時間	主な活動	予想される幼児の姿・反応	指導上の留意点	評価の観点
シャボン玉の不思議さ、面白さに気づき、作ることを楽しむ					
シャボン玉の不思議さ、面白さに気づき、作ることを楽しむ	9:30	○集会 ・歌 ・英語遊び		<ul style="list-style-type: none"> 音楽をかけ、スムーズに広場に集まれるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 集会の時間に気づき自分たちで広場に集まっている
	9:50	○クラス入室 ・出欠確認 ○昨日までのシャボン玉遊びで気付いたことなど話す ○今日の活動の流れを確認	<ul style="list-style-type: none"> 今日ばどんなものかとぼそうかな 割れんようにしたいな 	<ul style="list-style-type: none"> 準備物 ..ぬるま湯、のり たらい等 今日の活動について話をし期待が高まるように声をかける 子どもたちの思いをくみ取り、今日の目標を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 今日のめあてのイメージができている
	10:00	【シャボン玉で楽しく遊ぼう】 ～園庭～ ○シャボン玉液を作る ○とばす道具を選ぶ、作る	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれ、必要なものを自分たちで準備する あわだたないよう、そうとまぜよう 自分で家庭から持ってきた遊具や、使ったことのある道具を選ぶ、モールや針金を使って作ろうとする子がいる 大きすぎるのは、うまく作れんしなあ 	<ul style="list-style-type: none"> いつでも確認できるように量や手順を貼り出しておく 子どもたちのつぶやきや発見を見過さず、認める言葉をかける 準備物...ハンガー、針金、モールなど 子どもが家庭から持参するものもあり 自分の作りたい物のイメージをもって工夫している姿を認める 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで進んで考え、準備しようとしている グループで協力しあい助け合いながら作っている
	10:20	○実際にとばしてみる	<ul style="list-style-type: none"> シャボン玉とばしをする 大きなシャボン玉になあれ たかーくとぶかな 	<ul style="list-style-type: none"> 長細いのに、何でもなるのかなあ 子どもたちの驚きや発見に共感し、気づきを止めたり、言葉をかけたりして、活動が広がるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> シャボン玉を作りとばすことで、水や泡の性質や不思議さを感じている

子どもの思い

教師の環境構成

平成28年度

平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所

0歳児 ばな組【11か月~1歳4か月】12名(男児 4名 女児 8名) 【担任】坪倉 宇野 水口 久保

子どもの姿~遊び・生活・発達~

【生活】

○お腹が空いた、眠たい等の生理的欲求を泣いて訴えたり、「アー、アー」「マンマ」等、片言で伝えようとする姿が見られる。

○自分でコップに手を添えて飲めるようになってきた。

○手づかみや、時々スプーンを使って意欲的に食べる子が多い。



【発達】

11か月~1歳2か月

○はいはい、伝い歩きで自分の行きたいところへ行き、自分で玩具を選んで手に取る。歩き始めたばかりの子は、不安定ながらも自由に移動できることを喜んで、活動範囲を広げている。転んでも、すぐに立ち上がって、また歩き出す。歩きはじめて両手はまだバランスをとって歩き、体の下には下りていない。

○玩具を棚から引っ張り出して全部バラバラにする。玩具を口に入れて舐めたり、玩具を叩き合わせたりする。

○「アー、アー」と声を出して自分の思いや欲求を喃語や身振り、泣いて知らせる。

○食べ物を見て、手づかみや手で感触を確かめ、口に運び、意欲的に食べている。

○好きな保育士のところへ自分からはいはいなどで移動して来て抱っこを求めたり、「アー、アー」と声を出して保育士を自分のそばへ呼ぶ。



1歳2か月~1歳4か月

○歩行が安定し、自分で行きたいところへ行き、自分で玩具を選んで手に取る。

○「アー、アー」「コー、コー(抱っこ)」「ワンワン」「マンマ」など声を出して自分の思いや欲求を片言や身振りで伝えようとする。

○同じ種類の玩具を集めて手に持ち歩いたり、他児が持っている玩具を触ったり、引っ張ったりする。引っ張られると、「イー」と声を出して拒否したり、泣いて保育士の顔を見て訴える。

○指先を使いながら、つまむ、拾う、出し入れする等を何度も繰り返す。

○手づかみやスプーンを使って意欲的に食べている。何でも食べていたが、様々な味がよくわかってきて、嫌いな食材も出てきた。

○特定の保育士との関わりを求め、遊びの区切りに保育士のところへ来て抱きついたり、玩具を見せに来たり、保育士の膝に座って甘える。



平成28年度

平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所

0歳児 ばな組【11か月~1歳4か月】12名(男児 4名 女児 8名) 【担任】坪倉 宇野 水口 久保

子どもの姿~遊び・生活・発達~

【遊び】

11か月~1歳2か月

○箱の中の物、棚の中の物を出したり、ひっくりかえしたりしている。

○玩具を手に取って口に入れ舐めている。

○玩具を両手に持って打ち付けたり、叩き合わせたりしている。

○歩きはじめたところで、一人歩きをしようとする意欲的に自分から立ち、歩く。転んでもすぐに立ち、笑顔で歩く。

○手押し車を押して歩くが、途中で膝をついて、膝をつきながら押して進む。

○戸板やすべり台を自分の力で登る。すべり降りる時に階段の方へ頭から降りようとしたり、斜面を頭から滑って降りる。

○音楽が流れたり、保育士の歌が聞かえると、笑顔になり拍手をする。



1歳2か月~1歳4か月

○手押し車を押して歩く。方向転換が難しく、直線で走ることが多く、物や壁に当たって止まる。

○戸板やすべり台を自分の力で登ったり、降りたりする。登って上で立ち上がり、危なっかしい。

○他児が使っている物を触りに行ったり、引っ張って自分で使おうとする。

○引っ張って歩く玩具を、玩具が倒れながらも引っ張って歩く。

○ぽつとんと落とした後、下をのぞき込んで見ては、また上からぽつとんと落とす。

○出してばかりだったのが、入れたり出したりを繰り返すようになってきた。

○入れる穴に合わせて集中して入れようとしたり、入れた物を腕を入れて取り出すとする。

○音の鳴る太鼓やマラカスを自分で手に取り、振って音を出し楽しむ。音が流れたり、保育士の歌声に合わせて体を上下に揺らす。時々、「あっ」「おっ」など声が出る。



時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自由に玩具を選んで遊ぶよう、取り出しやすいようにしておく。 手、指を使った遊びを用意する。 ぼつとん落とし太鼓 マラカス つまむ、引く張る等。 体をつかかった遊びを用意する。 戸板すべり台 マット 手押し車 引く張って歩く等 	<ul style="list-style-type: none"> 予想される幼児の姿 ・気になる玩具のところに遊びに行く。 ・ハイハイおもちゃを棚から引く張りする。 ・つまむ、握る、入れる、出す、叩く、振る、めくる。 ・両手に持った打つたり叩き合わせたりする。 ・玩具の入っているカゴをつまむ、引く張る等。 ・体をつかかった遊びを用意する。 ・戸板すべり台 ・マット ・手押し車 ・引く張って歩く等 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分から玩具や遊びを選び、関わろうとする姿を褒める。 ・優しい笑顔と語りかけで見守る。 ・玩具の誤飲やケガなど安全面には十分気を付ける。 ・ひっぱり出したり、ひっくり返したり、ばらまいたりしても叱つたりせずに、この時期ならではの姿と捉え、安全面に気を付け、すばやく集めて元に戻す。 ・一人だけでじっくり遊んでいる時には静かに見守り、子どもの話に保育士に伝えたい様子を見守る。 ・「できたね」「じゃあもう一言」など言葉を添える。 ・階段や斜面を自分の力で登ろうとする。 ・滑って降りる。 ・手押し車を押して直線で走る。物や壁にあたって止まったり、他児の車を触りに行ったり、引く張ったりする。 ・「あーあー」「ばいばい」などの言葉や、言葉で言い表せないことなど、自分の気持ちを指差しや身ぶりで伝えようとする。 ・周りの様子や他児に目を向け、興味を示し近づいていく。他児の持っているおもちゃを触ったり、引く張ったりする。 ・自分の思いを声や表情で知らせようとする。 ・保育士に抱っこを求めたり、隣に座ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から様々なものに手をのぼして触ったりし、関わっているか。 ・手、指の状態(全ての指で握る親指と入差し指でつまむ) ・両手に持った打つ合わせしているか。 ・玩具を触って肌や口で確かめているか。 ・中から出す行為を繰り返しているか。 ・入れたり、出したりを繰り返しているか。 ・最後に「できた」の言葉を保育士に伝えるか。(保育士の顔をみる) ・のぞき込んだり、触つてみたり、何だろ?と興味を示しているか。 ・困った時には保育士に助けを求めているか。 ・指差し、身振り、表情、「あー」「あー」などの言葉などで自分の気持ちを伝えようとしているか。 ・他児の姿に関心をもち、近づいていこうとしているか。 ・他児の玩具を触つたり、欲しがったりする姿を見守っているか。 ・保育士とのスキンシップを喜んでくれているか。

生活	発達	遊び
<ul style="list-style-type: none"> ○食事では手づかみやスプーンを使って、好きな物は自分で意欲的に食べており苦しみ食材も出てきて保育者の援助で食べたりしている。果物や豆の皮をむくことと興味があり、自分でむいたり、むいてみようとしている。 ○口よりでスプーンがはけはけの子、保育士と一緒にはいてみる様子もある。自分でロッカーから服を取り出し「これ!」と着たり服を主張する姿もある。 ○個人差はあるが排便間隔も長くなってきて、トイレに誘うと嫌がらず行き座っている。その姿を見て他児も座りたがる姿もある。 ○毎日繰り返される言葉や動作は覚えており、場面に合った発語をしたり、片付けが始まると手を洗いに水道に近づいたりしている。 ○手洗いは、自分で泡石鹸を出したり、水道の蛇口をひねられるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のしたい事、してほしい事を言葉で表現する子、言葉でまだ伝えられない子は指差し、身振りなどで伝えようとしている。 ○生活やあそびの中で「自分で」「自分の」「いや」と強く自己主張するようになってきた。 ○保育者や周りの子の行動を模倣したり、同じ物を欲しがったりしている。 ○言葉が増え、言葉を盛んに真似したり、発音も明確になってきている。 ○指先の機能も発達してきており、力を込めて押さたり、ひっぱったりしている。 ○重量感のある物を持ち上げようとしていたり、積んだり、全身の筋力を使い身体のパランス感覚も発達してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○～感触あそび～ スライム、片栗粉、だんご粉、えのぐ ・触覚が準備している興味をもつてのそぎに来て、手を出してみたり、保育者が触っているのをジッとみている姿がある。指先で押したり、ちぎったり、のぼしたり「ぶいぶい」「びよん」「びよん」…と保育者が言うように繰り返している。動作と言葉が結びつき子どもたちからの発音も聞かれる。 ・片手であそんでいた姿が、のびることに気づくと両手を使ってのぼしたり、立ち上がって喜ぶつけあそびしている。驚いたことを表情や「あっ」「見て!」と言葉で保育士に伝えようとしている。 ○木の玩具、ポットン落とし ・転がしたり、落としたり、つまんだりして楽しんでいる。同じあそびを何度も繰り返して、落とすこと、転がすこと、型に合わせるなど夢中になっている。 ・入ったものを振って音を楽しんむ姿もある。友達の中味をみせてくれる。人形があつても友達の手で遊んでいる物がある。驚いたことを表情や「あっ」「見て!」と言葉で保育士に伝えて喜んでいる。 ○まごことあそび ・ポワルにチューリングを入れてスプーンで混ぜたり、ジャラジャラと音を楽しんだり食べようとしている。人形とおもちゃも持っている。「せんせー!」して「おせんべい」を伝えてくれる姿がある。おんぶしてカバンを持って部屋を歩き回り、みつけた玩具を入れたり、保育者がいらつらつ「おい!」お買い物の?」など語りかけたり「ハイハイ」と手を振ったり、カバンの中味をみせてくれる。人形を壊かしつけたり、自分たちが普段使ってもらっていることを再現したり見立てたりあそぶ様子もみられてきた。段ボールの乗り物に乗ったり、牛乳パックの積み木を詰め込んで遊んでいる。

平成28年度
平成28年9月13日(火) 9:30~11:30
うみべのもり保育所 1歳児 ほし2組 15名(男児 11名 女児 4名) 1歳6ヶ月~1歳10ヶ月 【担任】鎌部・宮田・松岡

子どもの姿～遊び・生活・発達～







【生活】
○自我が芽生え、今までやってもらっていたことを“自分で！” “やりたい！”と表出し、紙ハンツやスポンなどはこうしている。
○牛乳遊びに誘われ、便座に便り排泄する時もある。
○食事面では、手つかみやスプーンを使って、意欲的に食べている。苦手な食材も出てきて、嫌がる子どもがいるが、中にはデザートを励みに1口食べられる子もいる。

【発達】
○歩行がしっかりしてきて行動範囲が広がり、自ら環境に関わりあうとする意欲が高まっている。
○一人歩きを繰り返す中で、脚力やバランス力が身に付き、自由に手が使えるようになったり、手指の機能も発達してきた。
○応答的な大人との関わりによって自ら呼びかけたり、拒否を表す片言や一語文を言ったり、言葉で表せないことは、指差しや身振りなどで示し、保育者に自分の気持ちを伝えようとする。
○友だちや周囲の人への興味や関心が高まる。その中で、玩具の取り合いでトラブルになったり、相手に対し拒否したり、簡単な言葉で不満を訴えたりもする。

【遊び】
○スライム、片栗粉、だんご粉、えのぐ
感觸あそびでは、個人差がよく見られ、よくあそぶ子、苦手な子、近づこうとしない子、来ると逃げたり、少し触れただけで泣いてしまった子が自ら触るようになってきた。性質の変化に驚き「わー！」「おっ！おっ！」など声をだし表現している。
○木の玩具、ポットン落とし
木のバズルは少しづつはめるところが分かってきて、向き合わせてはめれるようになった。タイヤが付いた玩具は以前は持ち運んでいてはめることが多かったが、手で持ち腕を動かしてはめたり、「はっはっ」と言いながら動かしてあそんでいる。ポットン落としでは、穴に入るようにしっかりと見えて入れようとする姿が見られる。上手く合ひ、ほとんと落ちると嬉しくて、近くにいる保育者の顔を見て思いを共有している。
○ままごと
フードやお皿などを持って食べる真似をしたり、保育者にどうぞと渡してくれる。保育者が「いただきます」と言ってから食べると同じように手を合わせてから食べる。まだ、実際に口に入れてしまったり、おんが紐や布団、ベゴ、エプロンを手作りしたこと、赤ちゃんをおんが紐でかばんを持って出かけようとして、赤ちゃんに布団をかけてトントンしたり、エプロンをつけてキッチンの前に立ったりするなど、再現したり見立てたりしてあそんでいる。
○絵本
絵本を見るより、ページをめくってあそぶほうが多かったが、水や猫など知っているものが出てくる絵本だと一人で見てたり、保育者に読んでほしいと持ってきて、膝の上に座って一緒に見ている中で「わんわん！」「にやー」等の一語文をよく話すようになってきた。

平成28年度
平成28年9月13日(火) 9:30~11:30
うみべのもり保育所 1歳児 ほし1組 12名(男児 6名 女児 6名) 【担任】濱田・水谷

遊びのねらい	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
<p>・感觸あそびや見立てあそびを通して保育者とのやりとりを楽しむ</p> <p>《前室劇用ラス》 *スライム、カップ 机、フルージートを用意しておく。 ・ひとりひとりが満足してあそべるようスライムを作っておく。 ・立ってあそぶ子、座ってあそぶ子に合わせ、机とフルージートを用意する。 ・足が濡れたら拭く用の足ふきマットを用意しておく。</p> <p>《ほし1組・前室》 *子どもたちの興味に合わせた木の玩具などを置いておく。 ・木のバズル ・ポットン落とし ・電車・フロック ・段ボールの乗り物 ・牛乳パックの積み木</p> <p>*ままごと用の机、椅子などを用意しておく。 ・キッチンセット ・エプロン ・人形 ・ベッド ・布団・おんが紐</p> <p>《ほし2組》 *運動遊具を設定する。 ・すべり台・マット ・こぼし道 ・牛乳パックのトンネル</p>	<p>○スライムであそぶ。 ・スライムを指先でちぎったり、のぼしたりする。 ・自ら触りに来て楽しむ子や保育者と一緒に触る子、していることに興味をもって近寄ってくる子が多い。</p> <p>・無理にはさそわず、興味をもって見に来るタイミングを大切に、声をかけたり、誘ったりする。 ・子どもたちの要求やあそびに応じてスライムの量を加減したり、カップを用意しておく。</p> <p>・余計な言葉をけせず、集中してあそぶ様子を見守る。</p> <p>・子どもからの要求にしっかりと応えたり、ひとりひとりの気持ちを受け止めて共感しながら関わる。</p> <p>・一緒にあそぶなかで「いいだきます」「ちようだい」「これなあに？」「...」など、子ども達から言葉を引き出していきけるよう言葉をかけを意図しながら関わる。</p> <p>○ままごとあそびをする。 ・人形をおんが紐したり、寝かしつけたり、おんが紐を食べてあそぶ。 ・再演あそびをする。</p> <p>○段ボールの乗り物に乗ったりや牛乳パックの積み木であそぶ。 ・段ボールの乗り物に乗ったり、押したり、引っ張ったり、積み木や玩具を入れて運んであそぶ。 ・牛乳パックの積み木を並べたり、高くつんで壊したりする。</p> <p>○運動あそびをする。 ・滑り台をのぼったり、滑ったり、トンネルをくぐったり、体を使ってあそぶ。</p>	<p>・保育者と一緒にあそぶ言葉かけをする。</p> <p>・口に入れないよう見守ったり声をかける。</p> <p>・無理にはさそわず、興味をもって見に来るタイミングを大切に、声をかけたり、誘ったりする。 ・子どもたちの要求やあそびに応じてスライムの量を加減したり、カップを用意しておく。</p> <p>・余計な言葉をけせず、集中してあそぶ様子を見守る。</p> <p>・子どもからの要求にしっかりと応えたり、ひとりひとりの気持ちを受け止めて共感しながら関わる。</p> <p>・一緒にあそぶなかで「いいだきます」「ちようだい」「これなあに？」「...」など、子ども達から言葉を引き出していきけるよう言葉をかけを意図しながら関わる。</p> <p>○ままごとあそびをする。 ・人形をおんが紐したり、寝かしつけたり、おんが紐を食べてあそぶ。 ・再演あそびをする。</p> <p>○段ボールの乗り物に乗ったりや牛乳パックの積み木であそぶ。 ・段ボールの乗り物に乗ったり、押したり、引っ張ったり、積み木や玩具を入れて運んであそぶ。 ・牛乳パックの積み木を並べたり、高くつんで壊したりする。</p> <p>○運動あそびをする。 ・滑り台をのぼったり、滑ったり、トンネルをくぐったり、体を使ってあそぶ。</p>	<p>△自分からざわりに行っているか △何度も繰り返しているか △手指でつまんだり、のぼしたり、ちぎったりしているか △驚いたり、鼻でほいことを言葉や表情で伝えようとしているか △ぶにぶにと自ら発語したり、保育者の言葉を真似しているか △保育者と一緒に行っていたり、あそびの真似をしようとしているか △「バイバイ」と言っ手を振ったり、保育士とのやりとりをしようとしているか △食べ物に見立ててあそんでいるか △寝かしつけたり、ごはんを食べさせたり、善段してもらっていることを再現してあそんでいるか △友達と同じ物を欲しがったり、取ろうとしたり自己主張しながらあそんでいるか △高く積んでみようとしたり、倒れることを楽しんでいたり繰り返してあそんでいるか △保育者と一緒にか体を動かしているか</p>	

遊びのねらい	・感触あそびを通して保育者とのやりとりを楽しむ。			
時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30	《前室劇テラス》 * スライム、カップ、机、フルージートを用いてあそぶ。 * 一人ひとりが満足してあそべるようスライムを作っておく。 * 立ってあそぶ子、座ってあそぶ子に合わせ、机とフルージートを使ってあそぶ。 * 足が汚れたら拭く用の足ふきマットを用意しておく。	○スライムであそぶ。 ・感触を味わい、指でつついたり、ちぎったり、伸ばしたりする。 ・保育者の言葉を真似て発音しようしたり、「あつ、あつ！」などと言う。 ・スライムがほしいと手を出した時、他児があそんでいるスライムを取ろうとする。	◎口に入れようとする子もいるので、入れないように声をかける。 ◎保育者も一緒に楽しみながら「ぶにぶにするね」「ちろん」「わらわらかいね」など、感触が感じられる言葉をかける。 ◎子どもからの訴えに丁寧に言葉で返したり、視線や身振りなどで訴えを言葉で代弁していく。 ◎感触を嫌がる子には、他児があそんでいる様子を見られるようにしたり、興味を持たせるようにあそびに誘いかけたり、保育者と一緒に少しずつ触ったりするなどして楽しめるようにする。 ◎子どもの要求やあそびに応じてスライムの量を加減したり、カップを用意しておく。	◇形の変化や感触を味わい、声に出して表現しているか。 ◇保育者のあそびを真似たり、やりとりを真似しているか。 ◇スライムをぎゅつと握ったり、伸ばしたりして何度も触っているか。 ◇あそびたいところへ行き、あそんでいるか。 ◇自分がほしいな事を「あーあー」と言ったり指さしながらの行動で表現しているか。 ◇積んだ物が倒れることを楽しみ、繰り返しあそんでいるか。 ◇保育者と一緒に体を動かしているか。
	《ほし1組 前室》 * 子どもたちの興味に合わせた玩具を置いておく。 ・木のバズル ・ポットン落とし ・電車 ・ボールの乗り物 ・段ボールの積み木 ・牛乳パックの積み木 * ままごと用の机、椅子などを用意しておく。 ・キッチンセット ・エプロン ・人形 ・ベッド ・布団 ・おんぶ紐	○木の玩具やバズルやポットン落としなどの指先を使ったあそびをする。 ○ままごとあそびをする。 ・玩具を食べる真似などし、てあそんだり、「どうぞ」「おいしいね」などと言いが保育者とのやりとりを楽しむ。 ○段ボールの乗り物や牛乳パックの積み木であそぶ。 ・段ボールの乗り物に乗り、引つ張ったり、動かしてもらって遊ぶ。 ・牛乳パックの積み木を高く積んだり、壊すことを楽しむ。	◎余裕な言葉がけをせず、集中して遊ぶ様子を見守る。 ◎子どもからの要求にしっかりと応える。 ◎保育者が原本となり、「ちよーうたい」「いだけます」「どうぞ」「あそぶ」「どうぞ」とも簡単に言葉を添えて、やりとりを楽しむようにする。 ◎床にあそんでいない玩具があれば、そっと片付ける。 ◎牛乳パックが倒れた時に他児がいて危険がないか注意する。	◇あそびたいところへ行き、あそんでいるか。 ◇自分がほしいな事を「あーあー」と言ったり指さしながらの行動で表現しているか。 ◇積んだ物が倒れることを楽しみ、繰り返しあそんでいるか。 ◇保育者と一緒に体を動かしているか。
	《ほし2組》 * 運動遊具を設定する。 ・すべり台 ・マット ・トンネルくぐりやコの字の椅子に乗って動かしてあそぶ。 ・牛乳パックのトンネル	○運動あそびをする。 ・滑り台の階段を上ったり斜面上り下りを楽しむ。 ・トンネルくぐりやコの字の椅子に乗って動かしてあそぶ。	◎危険がないように見守りながら保育者も一緒に体を動かして楽しむことを共有する。	◇保育者と一緒に体を動かしているか。

子どもの姿～遊び・生活・発達～

<p>【生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スプーンを使い、こぼすこともあるが自分で食べようとする ○簡単な衣服の着脱など「ソフアン子！」「とやろうとする ○「おしこでる！」「と知らせ、トイレに向かうようになってきているが、パンツの中で出てしまうこともある ○「いや！」「しんたい」と要求を相手に伝えたり「おはよう」と保育者や友達にあいさつする姿がある ○お菓子の匂み紙やバナナの皮を自分でむこうとする ○他児と玩具の取り合いになった時に「しゅんばんな！」「○○ちゃんが先な！」と話す子も出てきている 	
<p>【発達】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分のからだを思うように動かすことができるようになり、跳んだり走ったりぶら下がったり、様々な姿勢で身体を使った遊びを楽しんでいる。 ○ひっぱる、ねじる、まげる、まげる、など細かい手指の操作の遊びを繰り返している。 ○自分の意志や欲求を言葉や態度で表わすなど自我の育ちが厚られ、思いが通らないと泣いたり叫んだりして強く自己主張をして思いを通そうとする。 ○自分で着脱ができるようになってきたこと、トイレへ行く回数も増え、排泄が成功することが増えている。 ○盛んに言葉を使うようになり簡単な二つ遊びの中で「～のつもり」「～みたい」と見立てたり、大人への行動を模倣したり、日常生活において経験したことを二つ遊びで再現している。 ○簡単なストーリーが分かるようになり、絵本に登場する人物や動物と自分を同化して考えたり、つもりになって楽しんでいる。 	
<p>【遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運動遊び ○巧技台からジャンプしてみたい、うんてい遊びしてみたい、平均台を進んでみたい、など好きな運動遊具のコーナーを選んで楽しんでいる。「みてー！」「と保育者に見てもらったり、友達が進んでいる様子を見てやってみようとする姿がある。難しいところは保育者に援助してもらってやってみたり、「自分でできた！」「の満足感を味わい」「もういっかい！」「と繰り返したりする。順番を待つことが難しく友達を押ししたりする姿もあるが、保育者が仲立ちとなり、一緒に「かわつて」と言ったり「順番な！」「と話すなど、待てば自分の番がやってくるということを知りつつある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○シール貼り ○ホワイトボードに貼った長方形、三角、台形など様々な形のビニールテープをはがし、厚紙に貼り付けて楽しんでいる。ただひたすらにはがして貼る子や、重ねて貼ったり、色別でかためて貼ったり、形を組み合わせて貼る、身近なものに見立てるなど、思い思いに遊んでいる。8月にピザ作りをしたことを思い出して、貼ってきたものをピザに見立てて遊ぶ姿もある。そのピザをままごとコーナーへ持って行き、料理をしたり、お店屋さんで売ったりと遊びを広げていっている。 	

平成28年度
平成28年9月13日(火) 9:30～11:30
うみべのもり保育所 2歳児 12名(男児12名 女児14名) 【担任】森下、菅野、由里、草野、藤原(支援)

遊びのねらい	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の役割と配慮	評価の観点
<p>・感触遊びを楽しむ中で感じたことを言葉や身振り、手振りで伝えようとする</p> <p>・保育士や友達と関わって遊び、つもり、見立てを通じて 保育士や友達とのやりとりを楽しむ</p>	<p>・夜祭りコーナー (にじ1)</p> <p>・手作り玩具のからあげ、ポテト、ジュース</p> <p>・屋台の台、机、いす</p>	<p>◀好きなコーナーで遊ぶ▶</p> <p>○夜祭りごっこ ・保育者の模倣をしてお店屋さんになる</p> <p>・お店屋さんさんに品物を買ってくる</p> <p>・買った物を机に持って行って、食べる真似をする</p>	<p>◎思いや要求を丁寧に受け止める、安心して遊べるようにする</p> <p>◎したい遊びが見つけられるように、保育者や友達と遊ぶ姿を見せたり、遊びに誘ったりする</p> <p>◎保育者も一緒に遊び、お店屋さんごっこをする中で、やりとりを楽しめるようにする</p> <p>◎使いたいものを貸してほしい時に模倣しやすい言葉で一緒に伝える</p> <p>◎したいことをして遊べるようにしようと思つたことと合わせておんぶひもの援助をしたり、ついでに場所を子どもたちの思うところに一緒に動かすなどして場を整える</p> <p>◎「おいしいね」「あついかい」「ふーふーして共感し、子どものイメージに共感し、丁寧に返す</p> <p>◎子どもの感じたことや思っていることを言葉で表現するところを褒めたり、受け止めて、受け止めていながら言葉で通じ合える喜びを共有していく</p> <p>◎友達と同じ空間で一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように保育士も一緒に遊ぶ</p> <p>◎子ども同士の会話や要求をしっかりと聞き、保育士が仲立ちとなり、足りないところは補いながら言葉を交わすことを楽しむようにする</p> <p>◎子どもの見立てや、想像を受け止め、イメージを自由に膨らませて遊べるようにする</p> <p>◎一緒に遊び、イメージをつなげたり、共感したりする</p> <p>◎子どもがおもしろいと思つているところに共感しながら読む</p> <p>◎子どもたちが満足するまで十分シール貼りが楽しめるようにする</p> <p>◎ビザに昇立てる子は、作ったビザで隣のままごとコーナーや夜祭りごっこコーナーでも遊べることを知らせしていく</p>	<p>◊遊びはじめたり、好きな玩具を手に取っているか</p> <p>◊好きなあそびを選んでいるか</p> <p>◊保育者の真似をして「いらいやいませ！」「何がいらいませ？」「ジュースくたさい」など保育者や友達と一緒にやりとりしているか</p> <p>◊保育者と一緒に「貸して」「など友達に伝えようとしているか</p> <p>◊「こうして」と要求を保育者に身振り手振りで言葉で伝えてくるか</p> <p>◊友達や保育者と「おいしいね」など笑って話したりしているか</p> <p>◊名前を呼んだり友達を見たりしているか</p> <p>◊友達のごさや遊びを真似したり、同じことをしようとしていたりするか</p> <p>◊友達と友達に話しかけるか</p> <p>◊自分の要求を保育者に伝えたり、友達と関わってやりとりしてみたり、話すなど自分の感動や思いやイメージを表現できているか</p> <p>◊その場で遊びが継続しているか</p> <p>◊絵本をじっと見たり、気付いたことや感じたことを話したりしているか</p> <p>◊繰り返しシールはがしをじたり貼ったりしているか</p>
9:30	<p>* 夜祭りコーナー (にじ1)</p> <p>* 手作り玩具のからあげ、ポテト、ジュース</p> <p>* 屋台の台、机、いす</p>	<p>○ままごと遊び</p> <p>・エプロン、三角巾をつける</p> <p>・キッチンで料理を作る</p> <p>・作った物を保育者にたべってもらう</p> <p>・料理を机に並べる</p> <p>・人形を寝かせる</p> <p>・人形をおんぶひもでおんぶする</p> <p>○電車で遊ぶ</p> <p>・線路の上を好きな電車を走らせたり、つなげたりして走らせたりする</p> <p>・「ガタン、ゴトン」と電車の走る音を話したり、ハン屋さんいっく！と描かれた絵のお店へ電車を走らせる</p>	<p>◎子ども同士の会話や要求をしっかりと聞き、保育士が仲立ちとなり、足りないところは補いながら言葉を交わすことを楽しむようにする</p> <p>◎子どもの見立てや、想像を受け止め、イメージを自由に膨らませて遊べるようにする</p> <p>◎一緒に遊び、イメージをつなげたり、共感したりする</p> <p>◎子どもがおもしろいと思つているところに共感しながら読む</p> <p>◎子どもたちが満足するまで十分シール貼りが楽しめるようにする</p> <p>◎ビザに昇立てる子は、作ったビザで隣のままごとコーナーや夜祭りごっこコーナーでも遊べることを知らせしていく</p>	<p>◊遊びはじめたり、好きな玩具を手に取っているか</p> <p>◊好きなあそびを選んでいるか</p> <p>◊保育者の真似をして「いらいやいませ！」「何がいらいませ？」「ジュースくたさい」など保育者や友達と一緒にやりとりしているか</p> <p>◊保育者と一緒に「貸して」「など友達に伝えようとしているか</p> <p>◊「こうして」と要求を保育者に身振り手振りで言葉で伝えてくるか</p> <p>◊友達や保育者と「おいしいね」など笑って話したりしているか</p> <p>◊名前を呼んだり友達を見たりしているか</p> <p>◊友達のごさや遊びを真似したり、同じことをしようとしていたりするか</p> <p>◊友達と友達に話しかけるか</p> <p>◊自分の要求を保育者に伝えたり、友達と関わってやりとりしてみたり、話すなど自分の感動や思いやイメージを表現できているか</p> <p>◊その場で遊びが継続しているか</p> <p>◊絵本をじっと見たり、気付いたことや感じたことを話したりしているか</p> <p>◊繰り返しシールはがしをじたり貼ったりしているか</p>

平成28年度
平成28年9月13日(火) 9:30～11:30
うみべのもり保育所 2歳児 12名(男児12名 女児14名) 【担任】森下、菅野、由里、草野、藤原(支援)

遊びのねらい	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の役割と配慮	評価の観点
<p>・感触遊びを楽しむ中で感じたことを言葉や身振り、手振りで伝えようとする</p> <p>・保育士や友達と関わって遊び、つもり、見立てを通じて 保育士や友達とのやりとりを楽しむ</p>	<p>子どもの姿～遊び・生活・発達～</p>	<p>○ままごと</p> <p>・エプロン、三角巾をつけてキッチンで料理し、作ったものを保育者に「先生食べて～！」と持ってくる姿や、「あついかい！」「など料理の具体的なイメージを持っている子もいる。おふろごっこでは「ごしごしする」とお家の風呂で体を洗う様子を再現したりする。また、ままごとの玩具を介して、隣で遊ぶ、他児の遊びを模倣する姿がある。色水の入ったベットのボトルや手作りフーズなどでお店屋さんごっこを楽しんでいる。はじめは保育者がお店屋さんになり、子どもたちがお客さんとしてやりとりをしていたが、次第に「いらっしやいませ！」「何がいらいませ？」と子どもたちの中で店員とお客さんにわかれて遊ぶ姿がある。</p> <p>○泡遊び</p> <p>「ふわふわ」「ぽつぽつとん、ぽつとん落ちる」と感じたことを表現したり、手をタライの中で動かしてみたり、自分の腕や足につけたり泡の感触を味わっている。用具を使って泡の立て方を先輩見なりに工夫する姿もでてきた。人形の服を洗うせんたくごっこを楽しんだり、食紅を入れて「ケーキやで」「プリン！」と見立てて遊んでいる。</p>	<p>◎思いや要求を丁寧に受け止める、安心して遊べるようにする</p> <p>◎したい遊びが見つけられるように、保育者や友達と遊ぶ姿を見せたり、遊びに誘ったりする</p> <p>◎保育者も一緒に遊び、お店屋さんごっこをする中で、やりとりを楽しめるようにする</p> <p>◎使いたいものを貸してほしい時に模倣しやすい言葉で一緒に伝える</p> <p>◎したいことをして遊べるようにしようと思つたことと合わせておんぶひもの援助をしたり、ついでに場所を子どもたちの思うところに一緒に動かすなどして場を整える</p> <p>◎「おいしいね」「あついかい」「ふーふーして共感し、子どものイメージに共感し、丁寧に返す</p> <p>◎子どもの感じたことや思っていることを言葉で表現するところを褒めたり、受け止めて、受け止めていながら言葉で通じ合える喜びを共有していく</p> <p>◎友達と同じ空間で一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように保育士も一緒に遊ぶ</p> <p>◎子ども同士の会話や要求をしっかりと聞き、保育士が仲立ちとなり、足りないところは補いながら言葉を交わすことを楽しむようにする</p> <p>◎子どもの見立てや、想像を受け止め、イメージを自由に膨らませて遊べるようにする</p> <p>◎一緒に遊び、イメージをつなげたり、共感したりする</p> <p>◎子どもがおもしろいと思つているところに共感しながら読む</p> <p>◎子どもたちが満足するまで十分シール貼りが楽しめるようにする</p> <p>◎ビザに昇立てる子は、作ったビザで隣のままごとコーナーや夜祭りごっこコーナーでも遊べることを知らせしていく</p>	<p>◊遊びはじめたり、好きな玩具を手に取っているか</p> <p>◊好きなあそびを選んでいるか</p> <p>◊保育者の真似をして「いらいやいませ！」「何がいらいませ？」「ジュースくたさい」など保育者や友達と一緒にやりとりしているか</p> <p>◊保育者と一緒に「貸して」「など友達に伝えようとしているか</p> <p>◊「こうして」と要求を保育者に身振り手振りで言葉で伝えてくるか</p> <p>◊友達や保育者と「おいしいね」など笑って話したりしているか</p> <p>◊名前を呼んだり友達を見たりしているか</p> <p>◊友達のごさや遊びを真似したり、同じことをしようとしていたりするか</p> <p>◊友達と友達に話しかけるか</p> <p>◊自分の要求を保育者に伝えたり、友達と関わってやりとりしてみたり、話すなど自分の感動や思いやイメージを表現できているか</p> <p>◊その場で遊びが継続しているか</p> <p>◊絵本をじっと見たり、気付いたことや感じたことを話したりしているか</p> <p>◊繰り返しシールはがしをじたり貼ったりしているか</p>

平成28年度
平成28年9月13日(火) 9:30~11:30
うみべのもり保育所 2歳児 にじい、2組 28名(男児12名 女児14名) 【担任】森下、菅野、由里、草野、藤原(支援)

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
10:00	<p>* 感触遊びの用意をしておく</p> <p>・砂場</p> <p>・どろんこ遊び…土山前</p> <p>・池遊び…水道前</p> <p>(※雨天の場合軒先に用意する)</p> <p>* 原立てが、やすいようにカップやスプーンなど用意しておく</p> <p>* ごっこ遊びがさらに展開するように子どもたちがつんできた草花を用意する</p> <p>* 池がさらにふわふわになるようにガムシロップを入れる</p> <p>* 感触遊びが苦手な子のためにほし組保育室を開放する</p> <p>(ままごと、人形、木のおもちゃ、スライム)</p>	<p>○好きな遊びを見つけて楽しむ</p> <p>○感触遊びを楽しむ</p> <p>・どろんこ水の中で陸ったり水面を手でたいたたりして気持ちよさを感ずる</p> <p>・感触に気が付いたり、またそれを保育士に伝えようとする</p> <p>・池をカップにのせたり、食べる真似をして見立てあそびを楽しむ</p> <p>・見立てたものを商品にして保育士を通して友だちとお店屋さんごっこを楽しむ</p> <p>・スライムをのばしたりちぎったりして自在に変わる楽しさを味わう</p> <p>○感触遊びが苦手な子はほし組保育室で遊ぶ</p>	<p>◎共に遊びを楽しむ中で子どもたちの声を傾け、受け止める</p> <p>◎友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感ずられるように保育士も一緒に遊ぶ</p> <p>◎子どもの感じていることや感ずる簡単な言葉で代弁し、やりとりを楽しめるようにする</p> <p>◎「気持ちいいね」「ふわふわだね」子どもたちとやりとりしながら、そばにいる他児とも共感できるように丁寧に関わる</p> <p>◎まずは保育士がお店屋さんになり、お客さん役の子どもとやりとりをする</p> <p>◎子どもも原立てを止め、イメージの中で遊ぶように関わる</p> <p>◎無理のないように子どもを誘い、楽しみながら心地よさが味わえるようにする</p>	<p>◇好きな遊びを選択できているか</p> <p>◇泥、水の感触を何度も確かめたり、笑顔になつていたり</p> <p>◇保育士の言葉を繰り返しているか</p> <p>◇友達の様子を見て同じように行動したり、話しかけたりするなど互選に関心を持って遊んでいるか</p> <p>◇保育士に「気持ちいいね」など感触を感じる言葉がでてくるか</p> <p>◇「いらっしやいませ」「何がいいですか?」などおもいっきり話しているか</p> <p>◇「おだんご」「ケーキです」など見立ての言葉が出てくるか</p> <p>◇繰り返して遊んでいるか</p> <p>◇スライムに何度も触れているか</p>

子ども姿～遊び・生活・発達～

【生活】	【発達】
<p>○生活の流れ、保育室に慣れ、自分で遊びを戻すつたり、身の回りのことを自分でしようとする子が増してきた。</p> <p>○着脱に手助けを必要としない子もいるが、服の汚れに気づき自分で替替えようとしている。</p> <p>○給食では自分で食べたい量のものを選び、自分で机まで運んでいる。</p> <p>○スプーンを使ってこぼさずに食べることはできるが、持ち方はまた上手持ちの子もいる。</p>	<p>○自分の好きな遊びや前日していた遊びを選び、それぞれが自分の遊びを楽しみながらも友達を意識するようになってきた。</p> <p>○同じ遊びをしている子の様子を見て自分の遊びに取り入れたり、ごっこ遊びなどでは言葉でのやり取りが増えている。</p> <p>○年長児、年中児の遊びに興味を持ち、近くに行ってみたり、真似をしたりしている。</p> <p>○ハサミ、ノリ、セロテープ、クレヨンなど、道具を選んで使っているが、ハサミの持ち方やノリの使い方などは未熟な面がある。</p> <p>○振り返りなどでは、楽しかったことや考えたことなど自分の思いを伝えようと、言葉に詰まりながらも話している。</p>
<p>【遊び】</p> <p>○ままごと</p> <p>・レストランでのやりとりの再現や日常生活の中での体験から料理づくり、買い物、会話を遊びに取り入れて遊んでいる。</p> <p>・自分たちで作った食べ物や物、年長児に作ってもらったコンロやフライパン、カバンなどを使い、遊びを展開している。</p> <p>・段ボールを使い、椅子を持ってきて組み立てて組み立て、「ここは寝るとこやで」「猫さんの家もあるで」など友達や保育者に話しながら遊んでいる。</p>	<p>○オバケ屋敷、オバケごっこ</p> <p>・年長児が作ったオバケ屋敷を体験したことをつきかき、オバケにつけ、オバケの絵本を好んで見たりをもち、オバケ屋敷を自分なりに原立てで作ったり、オバケの絵本を好んで見たりしている。</p> <p>・オバケに興味をもっていることを知った年長児、年中児の子たちが加わり、オバケをもつたり、隠れる場所や衣装を作ってもらったり、作るのを手伝ってもらった。</p> <p>・保育室では年長児からもらったオバケを部屋に貼ったり人形にしたりして楽しんでいたり、オバケを顔につけたりしてオバケになりきり遊ぶ姿も見られる。</p> <p>・年長児が作ったオバケ屋敷に誘ってもらい、友だちと飾りが入りながら入ったり、保育者を誘って一緒に入っている。</p> <p>・「泣かんと行つたらお菓子もええんやで」と自分たちで作ったお菓子を使ったり、「オバケの格好したい」とオバケ屋敷で脅かす側にも興味を示している。</p>
<p>○新聞紙や広告でベルト、スカート、剣、靴、腕輪などを自分の作りたいものをイメージして、丸めたり、折つたり、ちぎつたり、くっつけたりしながら形を作っている。</p> <p>・剣は自分で作ろうとするもの、一定の力を加えながらの操作は難しく、イメージする細さと硬さにならないことから、「細い剣作つて」と保育者を頼ることも多い。作られる姿も見られるようになった。</p> <p>・1つ作品ができるともう1枚取り、組み合わせるためのものを作り、剣の太さや長さ、形を工夫したり、飾りを作つたりしている。</p>	<p>○紙遊び</p> <p>・新聞紙や広告でベルト、スカート、剣、靴、腕輪などを自分の作りたいものをイメージして、丸めたり、折つたり、ちぎつたり、くっつけたりしながら形を作っている。</p> <p>・剣は自分で作ろうとするもの、一定の力を加えながらの操作は難しく、イメージする細さと硬さにならないことから、「細い剣作つて」と保育者を頼ることも多い。作られる姿も見られるようになった。</p> <p>・1つ作品ができるともう1枚取り、組み合わせるためのものを作り、剣の太さや長さ、形を工夫したり、飾りを作つたりしている。</p>



<p>平成28年度 平成28年9月13日(火) 9:30~11:30 うみべのもり保育所 3歳児うみ組26名(男児12名 女児14名)【担任】山本ま、三宅、(支援)高橋り</p>	<p>・自分の気持ちやイメージなどを自分なりに表現したり、見立てたりして、友だちに伝えようとする ・様々な素材に触れ、その物の性質を感じ、変化を不思議に思ったり楽しんだりする</p>	<p>・自分の遊びたい場所、遊びを遊ぶ ○ままごと ・調理器具や食材を使って、ままごと遊びを楽しむ ・イメージする料理に合わせ、素材を組み合わせて、調理の工程を表現したりして見立てている ・作った料理などを保育者や友達に勧めたり、友達の言葉を聞きながら、自分のイメージを伝えたりする ・自分の使いたい食材を他の友達が多く使っていることに気づき、欲しい言葉や態度で伝えようとする ・段ボールを組み合わせた、椅子を持ってきていたり、家の中を表現し、「ここは〇〇」と保育者や友達に話す</p>	<p>・子ども達と一緒に遊ぶ ・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>	<p>・自分の遊びたい遊びや一緒に遊びたい友達を探そうとしている ・友達と同じ場所を共有しながら、笑顔でかわわっているか ・遊びに必要なものを自分で用意したりしているか ・料理の名前や味、温度など、自分が用立てたもののイメージを言葉や使うおもちゃ、動作などで伝えられているか ・してほいことを保育者や友達に伝えようとしているか</p>
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

平成28年度
平成28年9月13日(火) 9:30~11:30
うみべのもり保育所 3歳児うみ組26名(男児12名 女児14名)【担任】山本ま、三宅、(支援)高橋り

子どもの姿～遊び・生活・発達～

○三輪車・ガソリンスタンド

・ベダルを測ぎながらのハンドルの操作も巧みになってきて、三輪車を年上の子たちが引いたラインに沿って運転したり、洗濯機をくわたりして楽しんでいる。
・おうちの人がガソリンスタンドや駐車場で洗濯機をくわたりして洗濯機を回し、洗濯機を作ったリスポンジなどを使って洗濯機をくわたりして楽しんでいる。
・砂の上では洗っている時に砂が付きやすいことに気づき、たたくを選んで洗っている。
・洗濯機は年長児のアイデアをかりながら一緒に作ったり、「カード入れたらここ」「お金もいる」と遊ぶ中で必要なものも考え、保育者や年上の子たちと一緒に作ったりしている。
・ガソリンスタンドをイメージした子から、「ガソリン入れるところがない」という声が上がったり、「鉄砲みたいなやつがあるんやで」「鉄砲しまつうともいる」と見たものの形を例えて伝えていたりして、形、素材を考え、給油場所を作った。
・年中児の姿や友達の様子を見ながら、同じように店員になりきり、友だちとやりとりをする様子も増えてきた。

○土遊び

・容器に砂や土を入れ、そこに石や水を加えて変化をつけ、ままごと遊びをしている。
土が水と混ぜる感触の心地よさを感じながら、水を含んだ時の色や硬さの違いに気づき、不思議さ・面白さを感じている。
・ままとまりやすくて固く作りやすい赤土に気づき、年中児の姿を見て試行錯誤しながら丸めたり、砂をかけたりにしている。
・水分が多い土を使うと団子の形を作れるようになるも増えてきて、出来た団子を飾っている。
・年上の子の団子をみて「硬い」「こんなの作れるの?」と憧れの気持ちを持っている。

○ダンゴムシ、ワラジムの飼育

・養から散歩先や保育所裏など、遊んでいるうちに見つけたり、年中児に居場所を教えられたりして見つけることを楽しんでいる。
・丸まらないワラジムの飼育にも気づき、比べたり区別しようとする姿も見られるようになり、虫眼鏡で見て観察することを楽しんでいる。
・エサは「何食べるといい?」「試してみよ」と思いいついた物を飼育容器に入れていく。





時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
10:40	<p>・水タンクの用意をしておく</p> <p>・スポンジ、布、バケツを準備しておく</p> <p>・バケツはスポンジに対して水を少なめに設置し、共同で使った後、必要に応じて道具置き場に取りにいけるようにする</p> <p>・洗濯機を子どもと一緒に設置する</p> <p>・給油場所を子どもと一緒に設置する</p> <p>・テントを張る</p> <p>・水タンクの用意をしておく</p> <p>・泥回子を保管できる容器と作品用の名札を用意しておく</p> <p>・スコップ、ざる、平皿、お飯、綿などのカゴを出しておく</p>	<p>○ガソリンスタンド</p> <p>・三輪車を増設、操作する中で、スポンジや友達に気づき、水を付けてから運転して遊ぶ</p> <p>・洗濯機を通ることを楽しんで、ガソリンを入れたり、必用に応じて道具置き場に取りにいけるようにする</p> <p>・スポンジを濡らすように、触れる部分の水を布で拭き取る</p> <p>・タイヤが濡れたまま砂の上を走ると、また砂が付くことに気づく</p> <p>○土遊び</p> <p>・土、砂、泥の感触を楽しみ、触ったり、形をつつたり、水を加えたりしている</p> <p>・年上の子の様子を見ながら、泥回子を作ろうとする</p> <p>・泥回子が作りやすい土や水を加減を探る</p> <p>・イメージ通り作り、嫌してしまふこともあるが、できた回子を容器に入れて飾っている</p> <p>・砂、泥、土、水、石、自然物などを使い、ままごとする</p> <p>・作った料理を保育者や友達に振る舞ったり食べる真似をする</p>	<p>・コースをかく年長児の姿や、そのコースの上を進んでいく年少児の姿を互いに意識できるよう言葉かけをする</p> <p>・子どもの感動や気づきに共感する</p> <p>・保育者がお客になって店員役の子のところにいたり、100円やハンカチが洗ったなど伝えたりすることで他児にも役割が伝わるようにする</p> <p>・洗った後に砂がついていることに気づけるよう声掛けをし、繰り返して綺麗になる様子と一緒に喜ぶ</p> <p>・保育者と一緒に遊びに入り、子ども驚きや発見、気づきに共感する</p> <p>・土や泥を手で触るのが苦手な子どもも楽しめるよう保育者が積極的に遊びにかかわったり、道具を使って遊べるように準備する</p> <p>・年長児、年中児のしていることが目向けられるよう、声をかけていく</p> <p>・できあがった回子を見て一緒に喜んで、作っているときの姿を言葉にして認めたりする</p> <p>・どうすれば回子ができるかを一緒に考えたり、困っている様子や年上の子たちへ伝えたりする</p> <p>・土の種類、水・石の混ざり具合による感触の違いに気づけるよう声をかける</p> <p>・保育者も一緒に片付けたり、汚れたものを洗う場所を準備したりして、最後まで取り締まるようにする</p> <p>・担任間で遊びの様子、子どもの発見、工夫などを共有し、話しやすい問いかけ、環境設定ができるようにする</p>	<p>◇人やお車を驚かし、三輪車を操作しているか</p> <p>◇必要なもの、使いたい道具を探し、用意しているか</p> <p>◇汚れが落ちていくか</p> <p>◇確かめながら、道具を操作したり、洗う場所を覚えていたりしているか</p> <p>◇物や場所を友達と共有し、笑顔ですごしているか</p> <p>◇役割を素すような言葉や動き、やりとりをしているか</p> <p>◇使う土や水、自然物などを探しながら集めているか</p> <p>◇土の感触を確かめているか</p> <p>◇土の感触を確かめながら、繰り返して試しているか</p> <p>◇土の違いに気づいているか</p> <p>◇まとまりやすい土の種類や水加減などを試しているか</p> <p>◇周りの友達の様子に関心をもちているか</p> <p>◇自分で片付けようとしているか</p> <p>◇汚れたおもちゃや気づいているか</p> <p>◇自分の思いを伝えようとしているか</p> <p>◇友達の話に耳を傾けているか</p> <p>◇明日への期待を言葉にしたり、友達の話に興味を示したりしているか</p>
10:50	<p>・片付ける場所が分かりやすいように棚やかごにイラストや写真をつけておく</p> <p>・濡れたものが洗えるように、水を貼ったタライを準備する</p> <p>・落ち着いて語に集中できるよう、椅子を円形に並べて置く</p>	<p>○振り返り</p> <p>・今日の遊びの中で楽しかったこと、気に入ったこと、面白かったこと、友達の話やアドバイスを聞く</p> <p>・自分がしていたことや考えたこと、知っていることを話し、次にしたいことなどを話す</p>	<p>・保育者も一緒に片付けたり、汚れたものを洗う場所を準備したりして、最後まで取り締まるようにする</p> <p>・担任間で遊びの様子、子どもの発見、工夫などを共有し、話しやすい問いかけ、環境設定ができるようにする</p> <p>・子ども達が戻ってきたときの面談、不思議さに共感し、次に行ったことについて皆に聞いてあげたり、話に集中しないようには例示したり、問いかけたりすることで話を促すようにする</p>	<p>◇自分で片付けようとしているか</p> <p>◇汚れたおもちゃや気づいているか</p> <p>◇自分の思いを伝えようとしているか</p> <p>◇友達の話に耳を傾けているか</p> <p>◇明日への期待を言葉にしたり、友達の話に興味を示したりしているか</p>

【生活】	子どもの姿～遊び・生活・発達～
<p>・身の回りのことを自分でしようとしているが、保育者を頼りしようとするところもある。同時に友だちの事を気にかけ、してあげようとする場面もある。</p> <p>・お当番の仕事を積極的にし、動植物の世話も相談しながら意欲的にしている。</p> <p>・片付けや活動の節目などを時計の数字で示し伝えることで風通しを持ち、時間や数を意識している。</p>	<p>○遊び</p> <p>○泥あそび</p> <p>砂と土の違いを少しずつ分かっていき始め、遊びの用途によって使い分けられるようになった。手先、手の平を器用に使い、丸くしたり自分で選択した布で丁寧に磨くことを楽しんでいる。水の加減で変化させる感触の違いや乾くと変化させる色の違いなどに興味を持ち、不思議さを感じている。年長児が遊んでいる様子を見て同じようにしてみようとする子や、聞きに行くことでさらさら砂をかけることなど面白いことがあることを少しずつ知ってきた。</p> <p>○スライム</p> <p>自分たちで分量を決めてスライム作りをしたことから、ほう砂の量によって感触が変わることを知った。何が必要か材料の名前も覚えており自分で計量して量を確認する子もいれば好きな量で作る子もいる。ほう砂の量によって固くなったり柔らかくなったりするところにも気づきはじめている。作った物を友だちと見せ合ったり比べたりするが楽しみ、ストローなどで吸いたり塊を混ぜて形や質感の変化を感じたり、そのことを自分なりの言葉で伝えている。</p> <p>○製作</p> <p>スライムあそびで作ったスライムやガムテープで作った玉を転がすために、廃材を使用して道などを作り楽しんでいる。始めは1本道であったが、年長児が遊びに加わったことから道づくりもダイナミックになり、スタートやゴールを作ったり高低差や坂道を作りだすようになったりも転がせるか、どうすればくっつくかなど考え工夫したり、友達や保育者と相談しながら作っている。自分の思い通りに作れた玉が転がっていく様子を見て喜んでいく。</p> <p>○おぼけ作り</p> <p>うみくみがおぼけ屋敷を作っている所へ手伝いに行こうとしたことから、その気持ち自分たちでもおぼけ屋敷を作りたいという気持ちに変わった。それそれや自分なりに怖いおぼけをイメージして黒い色は怖い「目が怖い」「髪の毛が長い」の中にもそれぞれ入ってわあって出たら怖いなどいろんな考えを言い合ったり、材料を使用して工夫して形にしようとしている。また保育所の夏まつりの経験から年長児が浴びけに詳しいことを知り頼ったり、真似しようとしたりしている。まだまだ作る方が多いが、年長児を見て自分自身がおぼけになっただけかということにも興味が出てきている。</p>

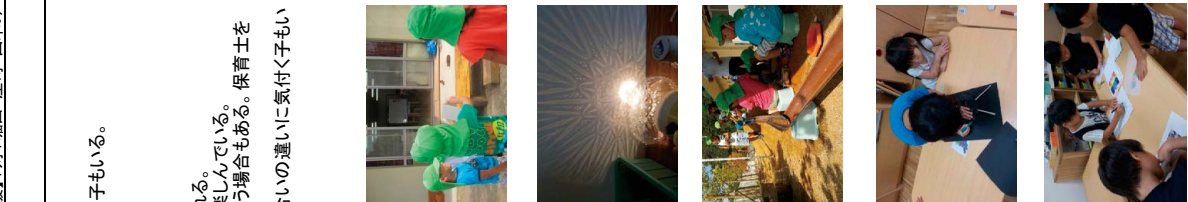


平成28年度
平成28年9月13日(火) 9:30~11:30
うみへのもり保育所 4歳児そら組 26名(男児11名 女児15名)【担任】長谷川 友枝 5期2宮前・若狭

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> 画用紙、ガムテープ、ナイロン袋、両面テープ、セロハンテープを準備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> おぼけ作り <ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージするおぼけを作るために必要な材料を選び、描いたり切ったり貼ったり自分なりに工夫して作る。 自分なりに工夫して作ったおぼけや、おぼけの作りかたを、目録を持ち、友だちと比べ、難しい部分や工夫を伝えあう。 ガソリンスタンド <ul style="list-style-type: none"> 店員さん役になり、ガソリンスタンドへ行った経験を思い出して「ありがとうささいました」などと表現する。 年少児と遊ぶ中で、遊びをすすめていく。 かたむむりのお世話 <ul style="list-style-type: none"> 水櫃やエサ入れが壊れて汚れていることに気づき、きれいにする。 今日のエサは「やな」と、食材にも興味を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や使い方を工夫しているところを認める。 「どんなおぼけがいたかな?」「どうすればいいかな?」とおぼけ作りについて話をし、おぼけの作りかたや、目録を持ち、友だちと比べ、難しい部分や工夫を伝えあうことを促す。 年少児に自分の考えを伝えようとする姿を認める。 店員さんやイメージしているようなやりとりが、子ども同士の間でみられるか。 年少児に自分の思いを伝えているか。 相談しながらきれいにしようとしているか。 食材の名前が聞かれ、友だちにも伝えようとしているか。 友だちと協力して片付けようとしているか。 何が入っているか、認めて片付けたり、汚れなどきれいにするために考えることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりに工夫して切ったり異なる素材を組み合わせたおぼけを作っているか。 自分の考えを「～しなよ」として表現しているか。 友だちと話をし、おぼけの作りかたや、目録を持ち、友だちと比べ、難しい部分や工夫を伝えあうことを促しているか。 店員さんやイメージしているようなやりとりが、子ども同士の間で見られるか。 年少児に自分の思いを伝えているか。 相談しながらきれいにしようとしているか。 食材の名前が聞かれ、友だちにも伝えようとしているか。 友だちと協力して片付けようとしているか。 何が入っているか、認めて片付けたり、汚れなどきれいにするために考えることができるか。
10:40	<ul style="list-style-type: none"> 片付けの場所が分かるように、入っている道具や材料をラミネートしたものを貼っておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 片付け <ul style="list-style-type: none"> 重いものは友だちに助けてもらえよう。自分たちから声をかけて協力して片付けようとする。 自分が使ったものだけでなく、まだ片付けが終わっていないところを、自分自身で見て、片付けが終わったら終了してしまう。子どもも出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 最後までしっかりと片付けができるよう、保育者も声をかけながら一緒に片付けをする。 片付けを意図的にしようとする姿を認める。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと協力して片付けようとしているか。 何が入っているか、認めて片付けたり、汚れなどきれいにするために考えることができるか。
10:50	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や子ども同士の顔を見ながら話が聞けるよう椅子を敷いて座る。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り <ul style="list-style-type: none"> 自分がしていた遊びや、顔を見ながら話が聞けるよう椅子を敷いて座る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの声を受け止め、次の遊びが深まりつながら声かけをする。 他の遊びにも興味を持ち「やってみよう」と聞かせる。 友だちや保育者の話を興味を持って聞いているか。 自分がやってみたいことを言っているか。 聞く人の顔を見ているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「やってみよう」「やあ、こんなした」「次、あの遊びも期待しているか。」 友だちや保育者の話を興味を持って聞いているか。 自分がやってみたいことを言っているか。 聞く人の顔を見ているか。

平成28年度
平成28年9月13日(火) 9:30~11:30
うみへのもり保育所 5歳児 やま組 26名(男児18名 女児8名)【担任】長谷川 友枝 1期1堀田・庄司・山本み

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> 画用紙、ガムテープ、ナイロン袋、両面テープ、セロハンテープを準備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> おぼけ作り <ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージするおぼけを作るために必要な材料を選び、描いたり切ったり貼ったり自分なりに工夫して作る。 自分なりに工夫して作ったおぼけや、おぼけの作りかたを、目録を持ち、友だちと比べ、難しい部分や工夫を伝えあう。 ガソリンスタンド <ul style="list-style-type: none"> 店員さん役になり、ガソリンスタンドへ行った経験を思い出して「ありがとうささいました」などと表現する。 年少児と遊ぶ中で、遊びをすすめていく。 かたむむりのお世話 <ul style="list-style-type: none"> 水櫃やエサ入れが壊れて汚れていることに気づき、きれいにする。 今日のエサは「やな」と、食材にも興味を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や使い方を工夫しているところを認める。 「どんなおぼけがいたかな?」「どうすればいいかな?」とおぼけ作りについて話をし、おぼけの作りかたや、目録を持ち、友だちと比べ、難しい部分や工夫を伝えあうことを促す。 年少児に自分の考えを伝えようとする姿を認める。 店員さんやイメージしているようなやりとりが、子ども同士の間で見られるか。 年少児に自分の思いを伝えているか。 相談しながらきれいにしようとしているか。 食材の名前が聞かれ、友だちにも伝えようとしているか。 友だちと協力して片付けようとしているか。 何が入っているか、認めて片付けたり、汚れなどきれいにするために考えることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりに工夫して切ったり異なる素材を組み合わせたおぼけを作っているか。 自分の考えを「～しなよ」として表現しているか。 友だちと話をし、おぼけの作りかたや、目録を持ち、友だちと比べ、難しい部分や工夫を伝えあうことを促しているか。 店員さんやイメージしているようなやりとりが、子ども同士の間で見られるか。 年少児に自分の思いを伝えているか。 相談しながらきれいにしようとしているか。 食材の名前が聞かれ、友だちにも伝えようとしているか。 友だちと協力して片付けようとしているか。 何が入っているか、認めて片付けたり、汚れなどきれいにするために考えることができるか。
10:40	<ul style="list-style-type: none"> 片付けの場所が分かるように、入っている道具や材料をラミネートしたものを貼っておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 片付け <ul style="list-style-type: none"> 重いものは友だちに助けてもらえよう。自分たちから声をかけて協力して片付けようとする。 自分が使ったものだけでなく、まだ片付けが終わっていないところを、自分自身で見て、片付けが終わったら終了してしまう。子どもも出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 最後までしっかりと片付けができるよう、保育者も声をかけながら一緒に片付けをする。 片付けを意図的にしようとする姿を認める。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと協力して片付けようとしているか。 何が入っているか、認めて片付けたり、汚れなどきれいにするために考えることができるか。
10:50	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や子ども同士の顔を見ながら話が聞けるよう椅子を敷いて座る。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り <ul style="list-style-type: none"> 自分がしていた遊びや、顔を見ながら話が聞けるよう椅子を敷いて座る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの声を受け止め、次の遊びが深まりつながら声かけをする。 他の遊びにも興味を持ち「やってみよう」と聞かせる。 友だちや保育者の話を興味を持って聞いているか。 自分がやってみたいことを言っているか。 聞く人の顔を見ているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「やってみよう」「やあ、こんなした」「次、あの遊びも期待しているか。」 友だちや保育者の話を興味を持って聞いているか。 自分がやってみたいことを言っているか。 聞く人の顔を見ているか。



【生活】
 ○時間を意識し、クラスで声かけをしながら見通しを持って生活している。
 ○自分で考え行動し、身の回りの事を積極的に取り組んでいる。個別の声かけが必要な子もいる。
 ○当番活動や飼育物など、決められた役割を責任を持って取り組もうとしている。

【発達】
 ○遊びの中でより遊びを発展させ、深める。友達の試行錯誤や友達同士の話し合いが促される。
 ○道具の特性や素材の違い、組み合わせ方など、物の理解と不思議な現象を繰り返して楽しむ。保育士を頼るときもままあるが、お互いに話し合っ解決できるようになってきた。
 ○興味のある生き物や物などを観察し、丁寧に描いている。細かな特徴を捉えたり、色合いの違いに気付く子もいる。

【遊び】
 ○鏡あそび
 ・科学図鑑に載っていた鏡あそびに興味を持ち、1人が実際に試したことから遊びがクラス全体へと広がっていった。鏡に太陽の光が当たると光りが反射することを知り、鏡の角度や反射する位置を変えてその変化の違いを比べていた。そのうちセロハンを鏡に貼ることで反射する光にセロハンと同じ色が付くことを知り、セロハンを様々な形に切って遊ぶようになっていった。同時に、曇りの日、雨の日は太陽の光がなく遊べないのどうにかしようとした。懐中電灯を利用して遊びたいようになり、室内でも遊びが展開されるようになっていった。
 ○「光」と「影」
 ・鏡あそびをするにつれて光と影の関係性に興味を持つようになってきた。暗い場所でもライトをつけると明るくなる一方で手や体の影が映ることに気づき、様々な物に光を当てて出来る影を楽しむようになった。暗い部屋でセロハンを巻いたライトの光を投影させて色の交わりに気付いたり光が揺らめく様子に気づいたりしている。
 ○鏡あそび
 ・大きな種と小さな種をうまく重ね合わせる目的の場所まで水が流れるように工夫してあそんでいる。種(固定)には、ガムテープや輪ゴム、紐などを組み合わせて失敗を繰り返しながらうまく固定できるように試行錯誤している。高さがないと水が流れないことにも気づき、椅子やカゴを利用して傾斜が出来るように設定している。

○おぼけづくり
 ・夏まつりややま組のおぼけおぼけ屋敷を披露したが、その影響からうみ組でおぼけアムが来ている。やま組のおぼけおぼけ屋敷を見に来た見本にしたり、おぼけを賞して下さいと一緒に作ったりする。やま組の子どもも少しづつうみ組がどんなおぼけ屋敷を作っているのか興味を持つようになってきた。うみ組だけでは難しい所もあり、やま組を頼ってくることに喜び、手伝いに行くようになり、うみ組との関わりで全部やま組がしてしまうのではなく、うみ組の子が自分で出来るように手伝うのがなかなか難しいようだった。

○お絵かき
 ・男の子の間でドラゴンボールが流行っており、友だち同士家で描いてきたドラゴンボールの絵を交換して、模写したり写し描きをしたりして楽しんでいる。鉛筆描きが出来るように色を塗って丁寧に仕上げている。完成した絵はお気に入りの箱に詰めて保管している。

平成28年度
平成28年9月13日(火) 9:30~11:30
うみべのもり保育所 5歳児やま組26名(男児18名 女児8名)【担任】長谷川【支援】1対1堀田・庄司・山本

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30	<p>・観察用におもちゃの鏡、アクリルボール、スプーンなどを用意する</p> <p>・鏡遊びの本などを鏡のコーナーで風やすいとこに配置しておく</p> <p>・教壇のカラーセロハンを用意する</p> <p>・パーテーション、黒い布などでも使えるように置いておく</p>	<p>・大小様々な形の鏡、アクリルボール、スプーンなどを用意する</p> <p>・鏡遊びの本などを鏡のコーナーで風やすいとこに配置しておく</p> <p>・教壇のカラーセロハンを用意する</p> <p>・パーテーション、黒い布などでも使えるように置いておく</p>	<p>・子どもたちが鏡遊びが出来るか、出来ないうちから判断しているのか尋ねるようになっているか</p> <p>・何卒根拠に鏡遊びが出来るか、出来ないうちから判断しているのか尋ねるようになっているか</p> <p>・1枚の時と複数枚の時で光の強さは同じなのか、弱まっているのか、その他に変化はあるか、細かな違いに気づけるようになるか</p> <p>・光の道を上手に繋げる為、工夫はあるのか様子を見て声をかける</p> <p>・色の変化、光の反射率など、セロハンをつけることで何がどう変わっているのか気づけるように援助する</p>	<p>◇虫の様子がどうなっているか</p> <p>◇友だちと上手に合っているか</p> <p>◇鏡を動かして光が反射しているか</p> <p>◇友だちと上手に合っているか</p> <p>◇色の重なるように力を含ませているか、また重なる色がどうなるか予想しているか</p>
	<p>・ライト、ペットボトル、ダンボール、布、などを用意しておく</p> <p>・暗い部屋をおぼけ屋敷と合わせて使用する</p> <p>・子どもたちの声を聞いて、時間設定する</p> <p>・完成した作品を展示できるスペースを用意しておく</p>	<p>・暗い場所でのライトの光を使って様々な影を作ってみる</p> <p>・ライトを近づけたり離したりして影の大きさが変わる様子を楽しんでみる</p> <p>・セロハンをライトに当てて光の色をつけてみる</p> <p>・ペットボトルに光を当て、水と光の揺らめく様子を眺めたとき、中にセロハンを入れて色をつけようとする</p> <p>・いくつものパターンでお気に入りの色の組み合わせを作り友だちと見せ合う</p>	<p>◇光の当てる方、影の映し方など光と影の関係性を遊びながら気づけるようになるか</p> <p>◇影の大きさが変わることに不思議さを感じ、友だちと相談し合っているか</p> <p>◇これまでと違った方法などを工夫し試しているか</p> <p>◇ペットボトルの水の量や中のセロハンなど変化をつけて違いを比べているか</p> <p>◇友だちの物と自分の物を比べ合っているか</p>	<p>◇高さや角度を調節したり水の量を調節したりしながら繰り返し試しているか</p> <p>◇上手に流れているのか相話し合っているか</p> <p>◇鏡の角度や場所に合わせて固定する道真を選択しているか</p>

平成28年度
平成28年9月13日(火) 9:30~11:30
うみべのもり保育所 5歳児 やま組 26名(男児18名 女児8名)【担任】長谷川【支援】1対1堀田・庄司・山本

子どもの姿～遊び・生活・雑達～





【遊び】
○どろ団子づくり
・保育所にある3種類の土やま組の部屋の前で偶然見つけた土、合わせて4種類の土を使い分けながらお団子作りをしている。固まりやすい土や、さらさらの土を使い分けたり、土を混ぜたりして遊ぶ。お団子を作るだけでなく、そのお団子を次の遊びへと発展させている。

○飼育
・数人の子が寮から持って来てくれたカブトムシとクワガタを、持って来た子が中心に世話を毎日している。友だちのクワガタと大きさを比べたり、虫かごの中でケンカしているのを心配して引き離したりと、大切に育てている。

○壁作りーおぼけ屋敷
・やま組の部屋とは別の暗い部屋で光遊びをしていた子どもたちが、やま組の部屋でも同じように光遊びをしたいと言いついて出たことから、ダンボールの壁作りが始まった。大きなダンボールを切って壁にして暗い部屋を完成させたところで、ちようどうみ組と一緒におぼけ屋敷ごっこをしていていたこともあり、光遊びではなくお化け屋敷として部屋を使うようになった。

・おぼけになりきる子と、進行役の子、手伝いをする子など思い思いに分かれておぼけ屋敷ごっこをしている。うみ組、そら組の子を誘いに行ったり、新しいおぼけのお面づくりをするなど日々、遊びが進展している。子ども達がおぼけ屋敷のルールを作るなど、楽しく遊ぶ為の工夫をしている。

平成28年度
平成28年9月13日(火) 9:30～11:30
うみへのもり保育所 5歳児やま組26名(男児18名 女児 8名) 【担任】長谷川 【支援】1対1 堀田・庄司・山本み

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30	・やま組の手作りお花付けグッズを見本に使えるように展示しておく ・部屋に掛かっている段ボールの壁は常時置いておく ・お花付けの服やお面を履かせる準備をするように呼ぶ自由に使わせるようにする ・光り遊びと合わせて中電灯は使えるようにしておく ・新しいお面とお花付けグッズが作れるように用意しておく ・お花付けの準備をするように呼ぶ自由に使わせるようにする ・光り遊びと合わせて中電灯は使えるようにしておく	○お花付けづくり うみ組の様子を見に行ったり、どうすればお花付け屋敷に見えるのか知らせる ・お花付けを一組に作るのを手伝って、なかなかうみ組のペースに合わせることが出来ない ○お花付け屋敷ごっこ 加減で走り回りながら遊ぶように呼ぶ ・お花付けの準備をするように呼ぶ自由に使わせるようにする ・光り遊びと合わせて中電灯は使えるようにしておく	・上手に作れない時はどうすればいいのか ・お花付け屋敷ごっこは加減で走り回りながら遊ぶように呼ぶ ・お花付けの準備をするように呼ぶ自由に使わせるようにする ・光り遊びと合わせて中電灯は使えるようにしておく	◇一人で進めず、うみ組に根気よく教えるようにしているか ◇お花付け屋敷ごっこは加減で走り回りながら遊ぶように呼ぶ ・お花付けの準備をするように呼ぶ自由に使わせるようにする ・光り遊びと合わせて中電灯は使えるようにしておく
9:30	・水の入ったタンクや砂遊び用の道具を所定の場所に設置しておく ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	○砂遊び、お花付け、お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	・お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	◇それぞれの土、砂をそれぞれから目的に合わせて種類を選択しているか ◇水、土の量や、土の種類、握り方に工夫が見られるか ◇完成したお花付けを大切にしているか ◇友だちの物と自分の物を比べて色や硬さ、ざわり心地の違いに気付いているか
10:40	・子ども用のぼうしや常時置いておく ・片付けがしやすいように用紙に写真を貼る	○片付け 片付けの時間になったこと ・お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	・お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	◇自分の言葉で気付かされたように配膳する ・お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている
10:50	・全員の前が揃えるように椅子を丸く配置する	○お花付け 片付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	・お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	◇自分の言葉で気付かされたように配膳する ・お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている

平成28年度
平成28年9月13日(火) 9:30～11:30
うみへのもり保育所 5歳児やま組26名(男児18名 女児 8名) 【担任】長谷川 【支援】1対1 堀田・庄司・山本み

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30	・水の入ったタンクや砂遊び用の道具を所定の場所に設置しておく ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	○砂遊び、お花付け、お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	・お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	◇それぞれの土、砂をそれぞれから目的に合わせて種類を選択しているか ◇水、土の量や、土の種類、握り方に工夫が見られるか ◇完成したお花付けを大切にしているか ◇友だちの物と自分の物を比べて色や硬さ、ざわり心地の違いに気付いているか
10:40	・子ども用のぼうしや常時置いておく ・片付けがしやすいように用紙に写真を貼る	○片付け 片付けの時間になったこと ・お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	・お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	◇自分の言葉で気付かされたように配膳する ・お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている
10:50	・全員の前が揃えるように椅子を丸く配置する	○お花付け 片付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	・お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている	◇自分の言葉で気付かされたように配膳する ・お花付けの準備をするように用いている ・作ったお花付けをそれぞれに保管できるように別の容器を用意する ・お花付けの準備をするように用いている

平成28年度
平成28年10月21日(金) 9:30~11:30
タンポポハウス
0歳児 うめ組 : 9名(男児2名 女児7名) 【担任】戸川・山崎・福本

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の探動と配慮	評価の観点
9:30	<p>〈オムツ交換〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びながら待つようように玩具を用意する。 ・絵本を用意する。 <p>〈おも組の部屋に移動〉</p> <p>◎ふれあい遊び 「ちよちよまきんひらひら」</p> <p>◎身体を使った遊び 滑り台 トンネル マット(山)</p> <p>◎コロコロ遊び おもむすひころりん おにぎりリユック おにぎり 筒(穴) トンネル ボール ペットボトルキャップ 芯</p> <p>◎おまごこと食べ物 コップ ポット カゴ 机 シート</p>	<p>・オムツ替えをすすめる事が分り替えでもらうことに応じる。</p> <p>・オムツ替えが終わるとスポンを履こうと足上げる。</p> <p>・玩具の入っているカゴをひっくり返す。カゴで遊ぶ。</p> <p>・好きな玩具を見つけて手に取り遊んだり口に入れて入れたらした感觸を確かめようとする。</p> <p>・友だちが持っている玩具が気に入り取りに行こうとする。</p> <p>・オムツ替えが終わった子から、保育者の傍で絵本を見る。</p> <p>・曲が流れると保育者の傍に横にならる。</p> <p>・保育者の振りを見てマネしたり、身体を揺らしたりする。</p> <p>・お友だちにしてあげようとする。</p> <p>・トンネル・滑り台・マットの山で自分の気に入った場所遊ぶ。伝え歩きやハイハイで行きたい場所へ移動する。</p> <p>・滑り台では、反対から登ろうとしたら、お友だちの横から登って行くこととする。</p> <p>・経験(運動会)からトンネルだと分かっていることを楽しむ。</p> <p>・おにぎりリユックを背負いたいと要求し背中を向ける。</p> <p>・保育者が転がすのを見て興味を示しやってみようとする。</p> <p>・自分で転がして出来た事喜び拍手をしたり、保育者の顔を見て伝える。</p> <p>・転がさずに投げける子もいる。</p> <p>・口に入れて、握ったり、引っ張ったりして感觸を確かめようとする。</p> <p>・自分の気持ちや思いを指差しや、顔の表情で知らせる。</p> <p>・好きな食べ物を見つけて食べるマネをしたり、保育者にどうぞと差し出したります。</p> <p>・おまごこと入っているカゴに興味を示しカゴを持って歩く。</p> <p>・カゴに食べ物を入れて、コップで飲むマネをして遊ぶ。</p> <p>・保育者に抱っこを求めたり、隣に座ったりする。</p>	<p>・おまごこと出てくかな? 「きれい!」のように「おまご」が持っているのと同じく声を掛け、替える事で心地よくなれることを言葉でも伝える。</p> <p>・カゴを取り合いになるので玩具を出した後は片付ける。</p> <p>・玩具の振動や音が等の安全面には十分玩具を片付けながら絵本の準備をする。</p> <p>・何に興味を示し欲しがっているか等見守り、取り合いにならない様なら仲立ちをして子どもの思いを言語化し受け止める。</p> <p>・ふれあい遊びの曲だと気付けるように歌を唄いながらそっと傍に降り、寄り添い一緒に遊びたい気持ちを引き出す。</p> <p>・個々の様子をしながら違う遊びに興味を示した時は、落ち着いて遊べる空間を用意する。</p> <p>・好きな場所をじっくり楽しめるように、遊具の配置空間作りを工夫する。</p> <p>・安全面に気を付け見守りながら、反対から登ることは危ないというところをきちんと言葉にして伝える。</p> <p>・個々の様子をしながら言葉掛けをしたり、遊びに誘ったりしながら遊びが広がるようにする。</p> <p>・「運動会でしたね!」楽しかったね!等、経験したことを思い出すような言葉掛けをしたり、思いを代弁してやり取りを楽しくさせる。</p> <p>・保育者も楽しみ遊びの仕方を見せる。</p> <p>・見守りながら個々がしたい遊びを楽しむように空間を工夫し確保していく。</p> <p>・子どもたちが楽しんだ言葉を拾い上げ、応答したり「どうぞ!」ありがとうのやり取りを楽しむよう保育者も一緒に楽しむ。</p> <p>・危なくないように見守り、おまごことに興味を向くように他児とやり取りを繰り返す。</p> <p>・甘えたい、安心したい気持ちを受け止め、抱っこしたりふれあいを多く持つようにする。</p>	

平成28年度
平成28年10月21日(金) 9:30~11:30
タンポポハウス
0歳児 うめ組 : 9名(男児2名 女児7名) 【担任】戸川・山崎・福本

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の探動と配慮	評価の観点
9:30	<p>〈生活〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活のリズムが分かるようになってきて、オムツ替え、手洗い、衣服の着脱等 保育者の言葉掛けを理解し自ら動く姿が見られる。 ・食事面では、手掴みで食べたり、コップやスプーンを自分で使おうとしたり、食べさせて欲しい時には保育者に指差しで伝えるなど意思表示が出来る。 ・午睡は、布団に自ら入り、寝かし付けをすることで安心して一定時間眠れる。 <p>【発達・遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1歳~1歳1ヶ月 <ul style="list-style-type: none"> ・握まり立ちや手を離して立てる。 ・好きな玩具を見つめるとハイハイで移動し、手に取り握んだり握ったりする。口に入れて感觸を確かめている。 ・玩具を叩き合わせて音が出ることを喜ぶ。 ・担任の保育者が分り、笑顔が見られ保育者が傍に居ると安心して遊べる。 ○1歳3ヶ月~1歳6ヶ月 <ul style="list-style-type: none"> ・歩行が安定し、行きたい場所へ一人で移動する。 ・段差が分り行きたい場所から降りる。 ・靴を履いて歩くことを喜び、散歩を楽しんでいる。 ・リズム遊びでは、曲によって動きが変わることが分かっていたりリズムをとっている。 ・ふれあい遊びを好み、歌に合わせて手を動かしたり声を出して楽しむ。 ・指先が発達し、玩具を掴まんだり、ブロックを積み上げたり、繋げたり出来、ボール遊びは、転がしたり投げたりと、遊び方が分り楽しむ。 ・言語面は、喃語が盛んになり保育者に自分の欲求や思いを伝える。 ・お友だちの名前を保育者が呼ぶと、マメで呼んでくれる。 ・「ちよちよい!」あつとー!「おいで」おいで「ハイハイ!」アンパンマン「せんせー!」「おい!」が言える。 ・友だちに興味を示し、自ら近づいたり遊んでいる様子を見て関わりを待とうとする。 <p>〈今日の活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内遊び (ふれあい遊び・身体を使った遊び・コロコロ遊び) <p>〈遊びのねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伸び伸びと身体を動かして好きな遊びを保育者と一緒に楽しむ。 ・喃語やしぐさで自分のしたい事や思いを伝えようとする。 	<p>・名前を呼ばれたり、保育者の声掛けに振り向いたり、見た反応を返して行く。</p> <p>・玩具に興味を示し自分から手を伸ばして触ったり、口に入れて確かめながら楽しんでみる。</p> <p>・友だちに興味を示し、近づいて見たり触ったりしている。</p> <p>・曲やリズムに合わせて声を出したり、体を揺らして喜んでみる。</p> <p>・保育者と触れ合うことを喜び、声を上げて喜んでいたり笑ったりする。</p> <p>・自分から好きな玩具や場所へ移動して遊ぶ。</p> <p>・他児の遊ぶ姿に興味や関心をもち近づこうとしている。</p> <p>・「出来た!」と言う思いを笑顔で伝えたり、保育者の顔を覗き込んで知らせる。</p>		

平成28年度
 平成28年10月21日(金) 9:30～11:30
 タンポポハウス
 1歳児 もも組 15名(男児8名 女児7名)【担任】西藤・太田・岸本

子どもの姿(遊び・生活・発達)

<p>【生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の際は手づかみやスプーンを使って食べ、また、月齢の高い子は正しいスプーンの持ち方を保育士に促されると持ち直せるようになってきた。 ・苦手な食材があったり、途中で眠くなる子ども気分転換を図ったり、励みをつくることで食べようとする意欲が見られる。 ・オムツに排泄がなければ、トイレに座ったり、排泄ができたりする子もいる。また、月齢の高い子は排泄を自分の口で伝えたり、尿を拭きたりして知らせることもできる。 ・ズボンや靴の脱着履きを自分でしていた子、保育士に促されてしてみようとする子もいる。屋外へ出る際は、頭を押さえて「ぼうし」と帽子をかぶることを意識したりする子もいる。 ・月齢の高い子、低い子の個人差はあるが、単語や二語文を話す子が増えてきた。子ども同士、保育士との言葉のやりとりもある。言葉で思いを伝えることが難しい子には動作を交えて特に反応する。手遊びや歌も覚え、月齢の高い子は言葉を読み取って参加する。月齢の低い子の中には、歌の語尾を歌に合わせて発音する子もいる。 ・歌の途中、違うものに興味がいき、立ち歩きや、座っていられない子もいる。 <p>【発達】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人差はあるが、少しずつ言葉が始め、簡単な単語を使い、自分の思いを伝えようとする姿が見られる。一部の子は「先生！〇〇しちゃった」と二語文を話せる子もいる。 ・保育士の行動を真似たり、動いたり、言葉を発したりする姿が見られる。そこから見立て遊びに繋がっている。 ・お友だちに対して興味が出てくる存在になる様子。それぞれの自我が出てきているので、トラブルもあるが、保育者が仲立ちをすることでやりとりも厚くなる。 ・クラス全員歩行が安定し、自由に走ったり、探索遊びをしたり、活発になってきた。 <p>【遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎感触あそび～片栗粉～ <ul style="list-style-type: none"> ・保育士が片栗粉あそびの準備をする姿に興味を持って見る。また、「〇〇もしたい」と一緒に準備をする子もいる。 ・直接手で触り、ぐちゃぐちゃにしたり、手のひらで持ったり、握ってみる子もいる。 ・カップに入れ、スプーンで混ぜて遊ぶ。 ・ベントボトルに溶かしたり、片栗粉が上から垂らすと「うわー」と不思議そうに見て喜んでいる。 ・手について嫌がったり、口に入れてしまったりする子もいる。 ◎感触あそび～寒天ゼリー～ <ul style="list-style-type: none"> ・素手で触れる子もいれば、スプーンやへらなどを使い寒天に触れる子もあり、それぞれの遊び方で楽しんでいいる。 ・直接触るのを嫌がる子も袋に入れて凍すと袋の上から触ることができ。 ・カップ、お皿などを置いておく、自分たちで寒天ゼリーを入れ、「見てー」と保育士に伝える姿がある。そこから、「どうぞ」「ありがとう」のやりとりが始まり、見立て遊びに繋がってきている。 ・星の型抜きをしたものを見せると「きらきら」「きれい」という言葉が出てきた。 ◎造形あそび～紙粘土～ <ul style="list-style-type: none"> ・自分から触りにいく子は少ないが、二歳児クラスの子が遊んでいるのを少し離れたところから見ている。 ・保育士が型抜きした物を見せると、星形には「きらきら」、ハート型には「かわいい」など、形に応じた言葉を使っている。 ◎おまごこと <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気に入った玩具を手に持ち、保育士や友達に見せながら言葉や身振りで思いを伝えようとする姿が見られる。 ・保育士の姿を模倣して遊ぶ様子も見られ、言葉にはなっていないが、子ども達どうして笑い合いながら関わって遊ぶ場面が増えてきた。 ・かごや靴など、一人ですべて「自分だけのもの」を持つことで、お友だちとの関わりも活発になり、「いっしょ」「おんなじ」などと、思いを共有しながら遊ぶ姿が出てきた。

子どもの姿(遊び・生活・発達)

<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して、保育者や友だちとの関わりを楽しむ。 ・感触を楽しむ。 ・自分の思いを簡単な言葉や身振りで伝える。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎感触あそび <ul style="list-style-type: none"> ・片栗粉あそび ・寒天ゼリーあそび ・紙粘土あそび ◎おまごこと <p>【内容選択の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春から何度も感触あそびをしており、小麦粉、片栗粉、絵の具、寒天ゼリーなど、様々な素材に触れてきた。寒天ゼリーを題材にした場合では、子ども達の中でも遊びが広がり、カップやお皿に入れて、「どうぞ」とお友だちに渡す姿が見られた。型抜きを保育士がやってみせると、真似して、触ることなく長い時間楽しめていた。一色のみの遊びから、色をつけ、おまごことコーナーを設置し、子ども達の反応を見て少しずつ環境も変えていった。おまごことコーナーを作ったことで、見立て遊びが好きなお友だちが活発になり、自由に遊ぶことができていた。片栗粉あそびについては、一歳児だけでのあそび初めは、苦手なお友だちが多かったが、二歳児クラスとの合同あそびで二歳児の楽しさを見て、やってみようとする子が増えてきた。大きいクラスの子や保育士の姿を模倣できるようになってきたり、友だちに興味が出てきたり、関わり合いながら遊ぶ姿も見られるようになってきた。そこで、子どもたちが好きな感触あそびや見立て遊びのなかで、師匠の獲得や意思の伝達に必要な力の獲得のために本内容を選択した。
--

平成28年度
 平成28年10月21日(金) 9:30~11:30
 タンポポハウス
 1歳児 もも組 : 15名(男児8名 女児7名) 【担任】西藤・太田・岸本

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30~	<p>《ホール横テラス》 ◎片栗粉あそび ・片栗粉 ・水 ・カップ ・シート(1) ・机(2)</p>	<p>・おもつを替えてもらう ・トイレに行き排泄する ・ズボンを穿こうとする</p>	<p>・一人ずつ名前を順番に呼び、おもつを順番に替えていく。その際「おもつきれいにしようね」など言葉をかけながら行う。 ・おもつが濡れていない子には、トイレに座ってみることを促し、トイレに行く習慣を身につけられるよう援助する。 ・座ることを嫌がる子には無理強いはいはしない。 ・ズボンを正しい向きに直すなどの援助は行う思いを大切にいく。しばらく風守っていく。 ・自分でやるようになった姿を褒め、うにさせる。 ・子どもたちがスムーズに移動できるように、それぞれに立ち誘導する。</p>	<p>・保育者の姿を模倣して遊ぶ姿が見られる。 ・興味を持ち、何度も触って遊ぶ姿が見られる。 ・袋に入れて触ろうとする。 ・袋に入られると触ろうとする。 ・自分の思いを伝えようとしてやる。 ・身振りや簡単な言葉でやりとりをする姿が見られる。 ・丘峰袋に入った寒天ゼリーを足で踏もうとする。 ・保育士の声かけで口に入れて遊ぶ姿が見られる。 ・自分の思いを伝えられる。</p>
	<p>◎紙粘土あそび ・紙粘土 ・カップ ・モロロ ・型抜き ・自然物 ・シート(1) ・机(1)</p>	<p>・おもつを替えてもらう ・トイレに行き排泄する ・ズボンを穿こうとする</p>	<p>・一人ずつ名前を順番に呼び、おもつを順番に替えていく。その際「おもつきれいにしようね」など言葉をかけながら行う。 ・おもつが濡れていない子には、トイレに座ってみることを促し、トイレに行く習慣を身につけられるよう援助する。 ・座ることを嫌がる子には無理強いはいはしない。 ・ズボンを正しい向きに直すなどの援助は行う思いを大切にいく。しばらく風守っていく。 ・自分でやるようになった姿を褒め、うにさせる。 ・子どもたちがスムーズに移動できるように、それぞれに立ち誘導する。</p>	<p>・保育者の姿を模倣して遊ぶ姿が見られる。 ・興味を持ち、何度も触って遊ぶ姿が見られる。 ・袋に入れて触ろうとする。 ・袋に入られると触ろうとする。 ・自分の思いを伝えようとしてやる。 ・身振りや簡単な言葉でやりとりをする姿が見られる。 ・丘峰袋に入った寒天ゼリーを足で踏もうとする。 ・保育士の声かけで口に入れて遊ぶ姿が見られる。 ・自分の思いを伝えられる。</p>
	<p>◎紙粘土あそび ・紙粘土 ・カップ ・モロロ ・型抜き ・自然物 ・シート(1) ・机(1)</p>	<p>・おもつを替えてもらう ・トイレに行き排泄する ・ズボンを穿こうとする</p>	<p>・一人ずつ名前を順番に呼び、おもつを順番に替えていく。その際「おもつきれいにしようね」など言葉をかけながら行う。 ・おもつが濡れていない子には、トイレに座ってみることを促し、トイレに行く習慣を身につけられるよう援助する。 ・座ることを嫌がる子には無理強いはいはしない。 ・ズボンを正しい向きに直すなどの援助は行う思いを大切にいく。しばらく風守っていく。 ・自分でやるようになった姿を褒め、うにさせる。 ・子どもたちがスムーズに移動できるように、それぞれに立ち誘導する。</p>	<p>・保育者の姿を模倣して遊ぶ姿が見られる。 ・興味を持ち、何度も触って遊ぶ姿が見られる。 ・袋に入れて触ろうとする。 ・袋に入られると触ろうとする。 ・自分の思いを伝えようとしてやる。 ・身振りや簡単な言葉でやりとりをする姿が見られる。 ・丘峰袋に入った寒天ゼリーを足で踏もうとする。 ・保育士の声かけで口に入れて遊ぶ姿が見られる。 ・自分の思いを伝えられる。</p>

平成28年度
平成28年10月21日(金) 9:30~11:30
タンポポハウス
2歳児(1歳児) すみれ組 : 17名(男児11(2)名 女児6(1)名) 【担任】竹内・行永・山根

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	<p>①ままごとあそび</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包丁 ・まな板 ・スプーン ・フオーク ・ハフエカップ ・コップ ・鍋 ・フライパン ・コンロ 	<p>○ままごとあそびをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥に入った玩具を手に持ち、隠せる真似をしたりして遊ぶ。 ・食べる真似をしたり、「はい、どーぞ」と言い、渡す。 	<p>・「何作ってるの？」など声をかけ、子どもたちが見立てて遊びの中心に入り込めるよう関わる。また、集中して遊んでいない場合には星守りも大切に、目や言葉で伝えようとして、「OOだね」と言葉にして返す。</p>	<p>・お気に入りの物を見つけて遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物に見たてて遊ぶ。 ・見てほしいこと、してほしいことなど、思いを言葉で伝える。
		<p>・容器から入れたり出したりして、繰り返し遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ただだきます」「ごちそうさまでした」など、日常生活のやりとりをしながら、友だち同士で遊ぶ。 ・二歳児クラスの子どもの遊ぶ様子を見ても、同じように真似て遊ぶ。 ・「これなに？」といるな物に興味を持ち、保育士に尋ねる。 	<p>・子どもたちの構子を真守りながらも、モデルになれながら言葉も意識しながら一緒にあそびを楽しむ。</p>	<p>・何度も繰り返し遊ぶ姿が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士の模倣をして遊ぶ。
		<p>・「これなに？」といるな物に興味を持ち、保育士に尋ねる。</p>	<p>・子ども同士の関わりを見守りながら必要に応じて仲立ちをする。</p>	<p>・興味があり「知っていた」という気持ちが見られた。</p>

子どもの姿(遊び・生活・発達)
<p>《生活》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目の生活の流れが分かり、落ち着いて過ごすようになってきた。 ・身の回りのことを保育者に促されながら行っている。 ・衣類の着脱など自分でできないことは保育者に「してください」と甘え、援助してもらいながら一緒に頑張っている。 ・トイレに行くことを嫌がる子もおらず、排泄できるようになった。 ・トイレにトイレットペーパーで過ごす子が増え、トイレットペーパーの成功も増えた。 ・食事面ではこぼす量が少なくなり、スプーンの正しい持ち方を意識して食べられるようになってきた。 ・苦手なものも食べたことを褒められることで、意欲的に食べられるようになった。 <p>《発達》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舐棒にぶら下がったり、アクティク平均台に上ったり、ジャンプしたりして身体を動かして遊ぶ姿が増えてきた。 ・友達と追いつけっこやごっこ遊びをするなど、子ども同士の間わりが増えた。 ・言葉の数も増え、自分の意思を言葉で表現できるようになった。 <p>《遊び》</p> <ul style="list-style-type: none"> 《片栗粉あそび》、紙粘土あそび、寒天あそび、ままごとあそび ・ストロー、ケール、カブツなどの材料を使い、イメージを膨らませ、遊びを広げる。 ・「おべんとう」「かきごおり」「へびみたい」などと見立て、友達と会話しながら遊びを楽しんでいる。 ・手で握ったり、足で踏んだりして感触を楽しんでいる。 ・色が混ざることによって色が変化することに気付いている。 ・粉に水を入れ混ぜることで、「かたい」「ドロドロ」と喜んで遊んでいる。 ・自分で水の量を調節し、気に入った固さにして遊んでいる。 <p>《ねらい》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な素材の感触を楽しむ。 ・作ったものを見立てたりして保育者や友だちとのやりとりを楽しむ。 <p>《内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 《片栗粉あそび》 ・粉だけを触ったり、水をいれて、感触の変化に気づき楽しむ。 《紙粘土あそび》 ・友達と見せ合い、こねる、ちぎる、丸めることを楽しむ。 《寒天あそび》 ・圧縮袋に入った感触を踏んで楽しむ。 《ままごと》 ・包丁やフライパン、鍋などを使い、切る、焼くなど見立て、友達と関わり、ごっこ遊びをする。 <p>《内容選択の理由》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で色々な素材に触れ、それぞれの感触の面白さを知り、身体全体で楽しんでほしいから。 ・様々な材料を使い、イメージを膨らませ、遊んでほしいから。

平成28年度
平成28年10月21日(金) 9:30~11:30
タンポポハウス
2歳児(1歳児) すみれ組 : 17名(男児11(2)名 女児9(1)名) 【担任】竹内・行永・山根

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30	<p>◎着脱用の台を用意する</p> <p>《ホール側テラス》</p> <p>◎感触あそび</p> <p>◎片栗粉あそび</p> <p>・シート(2)</p> <p>・机(2)</p> <p>・カップ</p> <p>・片栗粉</p> <p>・水</p> <p>を用意する</p>	<p>・自分のロッカーへ行き、おむつ、パンツを用意する</p> <p>・全体へ向けての指示ではわからない子もいる</p> <p>・おむつ、パンツ、ズボンの着脱を自分でしようとする</p> <p>・できるところまで自分で頑張張り、できないところは保育者に手伝ってもらう</p> <p>・好きな遊びを見つけている</p> <p>・用意された物に興味を示し手に取り、好きなあそびの場所にいく</p> <p>・遊びを迷う子がいる</p> <p>・粉だけを触る子、水を入れる子、混ぜようとする姿などみられる</p> <p>・片栗粉に触ることで見た目の違いに気づき、保育者に伝えようとする</p> <p>・水の量により感触が変化することを楽しむ</p> <p>・「ぬるぬる」と落ちた寒天も掴んで楽しむ</p> <p>・包丁で切ったり、手で掴んだり、カップに入れたりして遊ぶ</p>	<p>・分らない子には個別に伝える</p> <p>・頑張る姿を認め、見守り、できたことを褒める</p> <p>・手伝いながらもやり方を教え、次に繋がるようにする</p> <p>・保育者が遊ぶ姿を見せながら「やってみよう」という気持ちを引き出す</p> <p>・子どもたちの様子を見つつ、必要に応じてさり気なく材料を用意する</p> <p>・どる遊んでいいか迷っている子にはそばに寄り添い遊びを促し、共に楽しむ</p> <p>・子どもの言葉に耳を向け、触ることでも発見、気づきに共感する</p> <p>・感触の変化を感じられるように「固いね」「もろそうか」などやりとりを楽しむ</p> <p>・保育者も一緒に手や足での感触を楽しみ、子どもの感じたことを受け止め共有する</p>	<p>・個別に伝えること、排せつ</p> <p>・褒められたことにより、次へのやる気に繋がる。他児も褒められて嬉しそうにする</p> <p>・「やってみよう」と意欲を持って好きな遊びを始める</p> <p>・自由に気に入った材料を取りに行く</p> <p>・寄り添ってもらい一緒に遊ぶ</p> <p>・感触の変化を感じながら「つめたいね」「へびみたい」など保育者とのやりとりを楽しむ</p> <p>・保育者とともに身体で感触を楽しむ</p>
	<p>◎造形あそび</p> <p>◎紙粘土あそび</p> <p>・シート(1)</p> <p>・机(1)</p> <p>・ストロー</p> <p>・モール</p> <p>・自然物</p> <p>・カップ</p> <p>・紙粘土</p> <p>・型抜き</p> <p>◎ままごとあそび</p> <p>・シート(1)</p> <p>・机(1)</p> <p>・まな板</p> <p>・包丁</p> <p>・スプーン</p> <p>・フオーク</p> <p>・フライパン</p> <p>・鍋</p> <p>・パフエカップ</p> <p>・コップ</p> <p>・コンロ</p> <p>を用意する</p>	<p>・中身に期待を示し、アルミホイルを慎重に開ける</p> <p>・友だちと中身を見せ合い、こねる、ちぎる、丸めたりして遊びをはじめる</p> <p>・ストロー、モールなどの材料を取りに行く</p> <p>・アルミホイルやカップに紙粘土を入れて「かきごおり」「おべんとう」など見立てて保育者にみせる</p> <p>・鍋やフライパンに寒天を入れ、料理をする</p> <p>・パフエカップに寒天を入れて「おかしそう」と食べものに見立てる</p> <p>・コンロにフライパンを乗せ、「ジュエリー」「やけたよ」と保育者に見せる</p>	<p>・「おいしいね」と食べる真似をし、見立てを受け止め、喜びを共有する</p> <p>・「何が焼けたの?」「温まった?」と声を掛け、子どもの思いを言葉で表せるようにする</p>	<p>・喜び、笑顔で遊びが始まる</p> <p>・仲立ちしたことにより友だちと一緒にイメージを膨らませている</p> <p>・認められたことで笑顔になり次の遊びへと繋がる</p> <p>・見立てを受け止めることとでごっこ遊びに繋がる</p> <p>・保育者の声掛けにより、言葉で表現する</p>
			<p>・期待が持てるような言葉掛けをし、共有する</p> <p>・友だちとの関わりが持てるよう保育者が仲立ちとなり遊びが広がるように促す</p> <p>・上手にできたことを認め、達成感を味わえるようにする</p> <p>・「上手にできたね」「おいしいね」と食べる真似をし、見立てを受け止め、喜びを共有する</p> <p>・「何が焼けたの?」「温まった?」と声を掛け、子どもの思いを言葉で表せるようにする</p>	<p>・喜び、笑顔で遊びが始まる</p> <p>・仲立ちしたことにより友だちと一緒にイメージを膨らませている</p> <p>・認められたことで笑顔になり次の遊びへと繋がる</p> <p>・見立てを受け止めることとでごっこ遊びに繋がる</p> <p>・保育者の声掛けにより、言葉で表現する</p>

平成28年度
平成28年10月21日(金) 9:30~11:30
タンポポハウス
3歳児 ゆり組 : 16名(男児10名 女児6名) 【担任】清野 【支援】2対1由里・東

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30	<p>〈廊下〉 ・様々な素材を取り出し、しやよいように分類しておく。 ・アラスとふじ保育室をつなぐ通路を設置する。</p> <p>〈テラス〉 ・筆やローラーで段ボールや模造紙に色を付けたり描く。 ・友だち「こつち」にも描けるで「こんな(道具)あるで」と教える。 ・友だちや異年齢児の姿を見て真似をする。 ・段ボールや模造紙など様々な素材を用意する。 ・足拭きタオルを用意する。</p> <p>〈ふじ組保育室〉 ・ブルーシートを敷いておく。 ・各机に絵具(赤・青・黄)を設置しておく。 ・様々な素材、道具を選んで遊ぶように製作棚を設置しておく。 ・段ボールを壁に貼り、描いて遊ぶコーナーを用意する。 ・足拭きタオルを用意しておく。 ・絵画ラックを用意しておく。</p>	<p>子ども遊びの姿(遊び・生活・発達)</p> <p>【生活】 ・生活の仕方が分かるようになり、身の回りのことを自分でしようとする。 ・他児を手伝ったり、声を掛けたりなど、友だちを意識する姿が増えた。 ・排遣は、ほとんどの子が自立し、自ら尿意を感じてトイレへ行く。 ・食事は、正しい箸の持ち方が出来る子も自分ですらえようとしていたり、量を減減することで「食べた」「苦手な物も食べられる」という満足した姿が見られるようになった。 ・当番活動や喜ぶ積極的にお手伝いをしている。 ・保育室内を走り回ったり、椅子に座ることが難しくなったり、つられる子が多い。</p> <p>【発達】 ・一緒に遊びたい友だちを誘って、好きな遊びを楽しむ。 ・年中、年長児の遊びを見て真似をしたり、教えてもらいながら製作遊びを楽しんでいる。 ・身近な物での見立て遊びが増え、言葉でのやり取りが増えてきた。 ・道具の使い方が素材の速いを意識するようになってきたがまだ未熟である。</p> <p>【遊び】 ・イメージを持って「これを作りたい」と言う子は少数だが、異年齢児の姿を見て真似をしたり、そこから物作りを始めている。 ・何かを作るというよりも「貼る」「切る」「つなげる」ことを楽しんでいる。 ・他児の作っている物や、飾られた物を見て「こんなしたい」と作り始める。 ・廊下に飾られている年中、年長児の作品を見て憧れたり、作りたいという気持ちがある。 ・絵具を手につけるなど感觸を楽しんでいる。</p> <p>【ねらい】 ・作ることを通じて道具の使い方や素材を感じたりする。 ・友だちや年上の子の真似をし、自分なりに表現しようとする。 ・作った物で見立て遊びや、こつち遊びをして友だちと関わる。</p> <p>【内容】 ・絵具に直接手で触れたり、筆やローラーなど様々な道具で描き、線の太さの違い、色を混ぜると変わるこつちなど体験する。 ・単なる線や丸でも自分なりに見立てたり「〇〇みたいに見える」楽しさを味わう。 ・作りたての物にはどんな道具や素材が必要か自分なりに考える。 ・イメージは無くとも、「こつち」や「〇〇」が出来た「作る」ことを楽しむ。 ・切る、貼ることを楽しむ中で「〇〇みたい」と見立てたり、イメージに近づけようとして自分なりに作ってみようとする。</p> <p>【理由】 ・ポティンティングや、運動会に向けての道具作りを通して絵具に触れ、色を混ぜること、様々な素材に描くことを楽しんでいた。紙だけでなく違う素材、筆だけでなく割り箸など、様々な道具で描ける事を楽しんでほしい。 ・年中、年長児が作った物に憧れていた子も多かった。廃材の空き箱に紙を貼るだけでも「カバン」「宝箱」「スマイル」など様々な意図があり、それぞれに大事そうに扱っていた。作る楽しさを感じているので、次は、それを作るために何が必要か、のりが良いのかテープが良いのかなど、道具の使い方も意識しながら作ることを楽しんでほしい。 ・作るだけで満足せず、作った物を使ってこつち遊びに繋げていきたい。 ・まだまだイメージした物を描く「作る」という段階ではないので、今は、十分に素材に触れることを楽しんでほしい。</p>		

平成28年度
平成28年10月21日(金) 9:30~11:30
タンポポハウス
3歳児 ゆり組 : 16名(男児10名 女児6名) 【担任】清野 【支援】2対1由里・東

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30	<p>〈廊下〉 ・様々な素材を取り出し、しやよいように分類しておく。 ・アラスとふじ保育室をつなぐ通路を設置する。</p> <p>〈テラス〉 ・筆やローラーで段ボールや模造紙に色を付けたり描く。 ・友だち「こつち」にも描けるで「こんな(道具)あるで」と教える。 ・友だちや異年齢児の姿を見て真似をする。 ・段ボールや模造紙など様々な素材を用意する。 ・足拭きタオルを用意する。</p> <p>〈ふじ組保育室〉 ・ブルーシートを敷いておく。 ・各机に絵具(赤・青・黄)を設置しておく。 ・様々な素材、道具を選んで遊ぶように製作棚を設置しておく。 ・段ボールを壁に貼り、描いて遊ぶコーナーを用意する。 ・足拭きタオルを用意しておく。 ・絵画ラックを用意しておく。</p>	<p>子ども遊びの姿(遊び・生活・発達)</p> <p>【生活】 ・生活の仕方が分かるようになり、身の回りのことを自分でしようとする。 ・他児を手伝ったり、声を掛けたりなど、友だちを意識する姿が増えた。 ・排遣は、ほとんどの子が自立し、自ら尿意を感じてトイレへ行く。 ・食事は、正しい箸の持ち方が出来る子も自分ですらえようとしていたり、量を減減することで「食べた」「苦手な物も食べられる」という満足した姿が見られるようになった。 ・当番活動や喜ぶ積極的にお手伝いをしている。 ・保育室内を走り回ったり、椅子に座ることが難しくなったり、つられる子が多い。</p> <p>【発達】 ・一緒に遊びたい友だちを誘って、好きな遊びを楽しむ。 ・年中、年長児の遊びを見て真似をしたり、教えてもらいながら製作遊びを楽しんでいる。 ・身近な物での見立て遊びが増え、言葉でのやり取りが増えてきた。 ・道具の使い方が素材の速いを意識するようになってきたがまだ未熟である。</p> <p>【遊び】 ・イメージを持って「これを作りたい」と言う子は少数だが、異年齢児の姿を見て真似をしたり、そこから物作りを始めている。 ・何かを作るというよりも「貼る」「切る」「つなげる」ことを楽しんでいる。 ・他児の作っている物や、飾られた物を見て「こんなしたい」と作り始める。 ・廊下に飾られている年中、年長児の作品を見て憧れたり、作りたいという気持ちがある。 ・絵具を手につけるなど感觸を楽しんでいる。</p> <p>【ねらい】 ・作ることを通じて道具の使い方や素材を感じたりする。 ・友だちや年上の子の真似をし、自分なりに表現しようとする。 ・作った物で見立て遊びや、こつち遊びをして友だちと関わる。</p> <p>【内容】 ・絵具に直接手で触れたり、筆やローラーなど様々な道具で描き、線の太さの違い、色を混ぜると変わるこつちなど体験する。 ・単なる線や丸でも自分なりに見立てたり「〇〇みたいに見える」楽しさを味わう。 ・作りたての物にはどんな道具や素材が必要か自分なりに考える。 ・イメージは無くとも、「こつち」や「〇〇」が出来た「作る」ことを楽しむ。 ・切る、貼ることを楽しむ中で「〇〇みたい」と見立てたり、イメージに近づけようとして自分なりに作ってみようとする。</p> <p>【理由】 ・ポティンティングや、運動会に向けての道具作りを通して絵具に触れ、色を混ぜること、様々な素材に描くことを楽しんでいた。紙だけでなく違う素材、筆だけでなく割り箸など、様々な道具で描ける事を楽しんでほしい。 ・年中、年長児が作った物に憧れていた子も多かった。廃材の空き箱に紙を貼るだけでも「カバン」「宝箱」「スマイル」など様々な意図があり、それぞれに大事そうに扱っていた。作る楽しさを感じているので、次は、それを作るために何が必要か、のりが良いのかテープが良いのかなど、道具の使い方も意識しながら作ることを楽しんでほしい。 ・作るだけで満足せず、作った物を使ってこつち遊びに繋げていきたい。 ・まだまだイメージした物を描く「作る」という段階ではないので、今は、十分に素材に触れることを楽しんでほしい。</p>		

<p>平成28年度 平成28年10月21日(金) 9:30~11:30 タンポポハウス 4歳児 ふじ組 : 17名(男児9名 女児8名) 【担任】水上【支援】2村1千代</p>	<p style="text-align: center;">子どもの姿(遊び・生活・発達)</p> <p>〈生活〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱や手洗いがいなど、身の回りのことが身につき進んで行う姿が見られる。 ・保育者がしていることに興味津々で集まってきて、近くで見たりお手伝いを頼まれると言んで行う。 ・お当番活動を楽しみにし、意欲的に行っている。 ・物を大切にしようしたり、丁寧に扱おうとすることが難しい。 ・自分の思いを伝えたい、聞いてほしい気持ちがある。 <p>〈発達〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会に向けての取り組みの中で、鉄棒(前回り)、逆上がりやフープでのケンパ、ゴム跳びなど出来ることが増えた。様々な運動あそびに挑戦したことが自信となり、次への意欲に繋がっている。 ・友だちとの関わりが深まり「今日は〇くん(ちゃん)と遊ぶ。」と個人を特定した発言が増えてきた。その為、友だちを傷つけたり、思いがふつかりあいやラッパになることもある。 ・兄弟の子や年下の子に優しく接する姿がよく見られる。また、困っている友だちを見ると助けようとする姿も見られる。 ・散歩先で見つけた自然物を図鑑で調べたり、絵本で見つけて知っている物を発見すると、「〇〇で見つけたやつやー!」これ知ってる!と友だちや保育者に伝える。 ・年長児への憧れの気持ちが強く、和太鼓や運動会での組体操を真似て、友だちと一緒にやってみようとする姿が見られる。 <p>〈遊び〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎製作あそび ・昨年度の経験から、「製作したい!」とリクエストし製作あそびを楽しみにしている。 ・完成形をイメージして作っている子もいるが、廃材や素材を見て欲しいと思ったり、何かを作っているうちに「カバン作った。」など決める子が多数である。 ・なんでもセロテープで接着しようしたり、使用に見合った厚さがわからず使えずにしまし。 ・友だちが作ったものを真似て同じものを満足するまで作ったり、出来上がったもので「アイスクリーム屋さん」「かき氷屋さん」など、少しずつ遊びが展開し始めている。 ・年長児や保育者と一緒に、段ボールで「家」を作り、中に入ってごっこ遊びが始まっている。家にあるものを考えて「トイレ」「机」を作ってみたり「次は冷蔵庫作りたい!」など、遊びながら作りたいもののイメージが広がり、形にしようとする姿が見られる。 <p>◎絵の具あそび</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2色以上を混ぜ、「〇色と△色混ぜたら◆色になった」と色の変化を楽しむ。 ・筆やローラーを使って、段ボールや紙、透明ポリ袋などに自由に描くことを楽しんでいる。 ・染め紙が好きで、完成の色合いを覚えて染められる子が増えている。また、自分で色を混ぜ合わせている。 ・絵の具で色付けした段ボールを友だちや保育者と一緒に組み合わせていたり、並べたりして、「家」や「車」「アイス」などそれぞれイメージを伝えあっている。 ・散歩先で拾ってきた自然物に色をつけてみたり、紙や段ボールに描く・塗る以外の楽しみ方を見つけている。
--	---

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
11:00	<p>〈さくら組保育室〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが作っている物を一緒に設置する。 ・ガムテープと段ボールを用意する。 ・作業用の机を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボールの家に入ることを喜び、見立て遊びをする。 ・「どうぞ」「鍵閉めて下さい」など、ごっこ遊びを通して関わりを楽しむ。 ・ガムテープを上手にちぎれず保育者や年中、年長児にしてみせたり「作って」と保育者を頼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが興味を持っている物を用意したり、好きな遊びが出来るスペースを確保する。 ・子ども同士の関わりを見守りながら、イメージが膨らむような声掛けを行う。 ・道具の使い方を一緒に考えたり、必要に応じて手助けをする。 ・保育者も遊びに入り楽しさを共有する。 ・子どもの思いを聞きながら一緒に作りたてたい物を形にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちや異年齢児と関わって遊んでいる。 ・言葉でのやり取りを楽しむ。 ・「鍵閉めます!」ごっこ遊びなど見立てで遊んでいる。 ・困っている事を周りの友だちや保育者に伝えている。 ・作った物で遊んでいる。 ・一緒に遊びたい友だちを誘っている。
11:00	〈片付け〉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作った物を飾るスペースへ持っていく。 ・机の上や床に落ちている物を拾う。 ・使った物や、まだ使える物をどこに片づけられるか分からず、途中で投げ出す。 ・なかなか片づけに取り掛かれず、遊び続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が見本となり、片づける姿を見せる。 ・「これは、まだ使えるね!」など声に出し、意識出来るようにする。 ・頑張っている子の名前を呼んで褒め、友だちの前で認める。 ・飾る場所を伝え、次回も楽しみたい出来るような声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者を見て、片づけようとしている。 ・作った物を飾ろうとしている。

子どもの姿(遊び・生活・発達)

(わらわら)
 ・自分なりのイメージをもち、表現することを楽しむ。
 ・素材の特徴や道具の使い方を知り、試したり工夫することを楽しむ。
 ・友だちと一緒にイメージを広げながら作る楽しさを味わう。

(内容)
 ・色々な素材や道具を使い、じつくりと作ったり描いたりし、様々な方法を試す。
 ・素材や道具の使い方を考える。
 ・片付けや物を大切に扱う意味を知る。
 ・イメージしたことを友だちと伝えあう。
 ・友だちと必要なものを考えて一緒に作る。

(内容選択の理由)
 ・作りたい思いが高まり、様々な素材や道具を使おうとする姿が見られるので、作ること描くことを楽しみながらイメージを広げてほしい。
 ・道具の使い方や物の扱い方が雑なところがあり、なかなか身につかないので物づくりを通して気持ち、物を大切にすることを伝えたい。
 ・物づくりを通して、互いにイメージしたことを伝えあう姿が見られるので友だちと一緒にひとつこのことをやり遂げる達成感や互いを思いやる気持ちをもっとほしい。

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30	<p>(廊下) ・様々な素材を取り出しやすいように分類しておく。 ・テラスとふじ組保育室を繋ぐ通路を設置する。</p> <p>(テラス) ・フルシートを敷いておく。 ・机に絵の具(赤・青・黄)、ローラーや筆などを用意しておく。 ・段ボール、模造紙など様々な素材を用意する。 ・足拭きタオルを用意しておく。</p>	<p>・やりたい遊びの部屋へ移動する。 ・仲の良い友だちを誘う。</p> <p>◎絵の具あそび(大型) ・何をしようかと迷いながら、先に遊んでいる子の姿を見て遊び始める。</p> <p>・ローラーや筆を使って段ボールや紙、透明ポリ袋などに色を付けて遊ぶ。</p> <p>・色を重ねていくうちに色が変わっていくことに気付く。</p> <p>・段ボール箱に色付けした物を「家」「車」など、それぞれにイメージしたことを友だちや保育者と伝えあう。 ・レンガなど、本物に近い色を作ろうと色の組み合わせを考え、試す。 ・色の付いたボールや廃材を斜面に転がし、転がる様子を見て楽しむ。</p> <p>◎絵の具あそび ・好きな色を選んでカップをこ入れられる。 ・混ぜて出来た色を友だちや保育者に見せる。 ・製作冊から自分の使いたい道具や素材を選び、絵を描いたり色を塗る。</p> <p>・ハブラシや割り箸、筆などは違う物を使いその物ならではの色の付け方に気付く。</p> <p>・廃材を使ったスタンプをして模様が出来たのを楽しむ。</p>	<p>・始める前に、片付ける時間をホワイトボードの時計で示しておく。</p> <p>・テラスにある物を伝えたり、友だちが遊んでいる様子を見せて興味をもてるような言葉掛けをする。</p> <p>・素材によって色の付き方や描きやすさなどの違いを感ぜられるような言葉掛けをする。</p> <p>・どんな風にも色が変化した場合(色の濃淡や色味など)気付かせるような言葉掛けをしたり、一緒に発見を楽しむ。</p> <p>・互いのイメージを伝えあっている姿を大切に見守り、互いの思いにも気付けるような言葉掛けをする。 ・試行錯誤する姿を見守り、場合によっては助言する。 ・転がる形や大きさ、色の付き方にも気付けるような言葉掛けをしながら、一緒に発見を楽しむ。</p> <p>・いろいろな色を楽しめるよう、カップの使用数は限定しないでおく。 ・子どもの気付きに共感し、色への興味を深めていく。 ・選んだりするよう分類して分けておく。また、遊んでいる様子を見守ったり、いろいろな素材に興味をもてるよう一緒に遊びながら誘う。 ・集中して描いている時は見守り、子どもの気付きの瞬間を大切に促す。</p> <p>・スタンプして出来た模様の形、大きさに興味をもてるよう言葉掛けをする。</p>	<p>・友だちがしていることに興味をもち、真似して色を付けて楽しむ。</p> <p>・色が付いた所を友だちや保育者に見せて感じたことを言葉で伝える。 ・他の素材にも興味をもって描いてみる。</p> <p>・友だちが描いた上に色を重ね、色の変化を楽しむ。</p> <p>・気付いたことを友だちや保育者に伝える。</p> <p>・いろいろな色の組み合わせを試す。</p> <p>・○色と△色を混ぜたら◆色になった！と出来た色を言葉にして伝える。 ・いろいろな素材に興味をもつ、真似して試してみる。 ・気付いたこと、不思議に思ったことを自分なりの言葉で伝えようとする。</p> <p>・出来た模様を何かに見立てて描いたり、形を組み合わせて描こうとする。</p>

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
11:00		<ul style="list-style-type: none"> 絵の具あそびで作った猫を散らさず、エサを作ってお世話しようとする。 作った家の中に入れて遊ぶ。 一緒に家の外に出かけ、遊ぶ。 自分の家にある物を出し、友だちとイメージを共有しながら作る。 完成を共に喜び、工夫しているところを認める。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵の具あそびで作った猫を散らさず、エサを作ってお世話しようとする。 作った家の中に入れて遊ぶ。 一緒に家の外に出かけ、遊ぶ。 自分の家にある物を出し、友だちとイメージを共有しながら作る。 完成を共に喜び、工夫しているところを認める。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉でのやりとりが増え、欲しいものや作りたい物が浮かんでくる。 アイデアが浮かび、素材を選んで作り始める。 認めてもらったことに喜びを感じ、他の物も作ってみようとする。 時計の数字を伝えたり、年下の子に優しく教えてあげようとする。 次回を楽しみにし、意欲的に片付けを行う。 相手が喜んでくれたり、人の役に立っていることに喜びを感じる。 自分の作品を見直し、満足感を味わったり、友だちの作品にも興味をもつ。

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> 壁に貼った段ボールに気付き、描いたものを友だちと見せ合ったり、保育者に見せに来る。 染め紙用の色水を自分で作る。 自分で作った色を友だちと見せ合う。 製作あそび 自分のハサミとのりを持っている。 目的が定まらないが、使いたい廃材や素材を選び、切ったり貼ったりすることを楽しむ。 かぼん、宝箱、脚輪など作りたいものに必要材料を選びに行き、友だちや年長児が作っているものを見て同じように作ってみようとする。 素材に応じた接着剤がわからず、セロテープを大量に使う。 友だちが使っているものを使って、置いてある場所を尋ねる。 いろいろ大きなサイズの廃材を並べ、より自分のイメージに近いものを選ぶ。 自分のイメージや思いを言葉にして伝えあい、友だちと一緒に作ることを楽しむ。 出上がってきた物を保育者に見せに来る。 	<ul style="list-style-type: none"> その子なりの工夫ややり方を認めて、他児へも発信する。 自分が作った色と友だちが作った色の違いなどに気付くようになる言葉掛けをする。 ハサミを持って移動する時の注意を子どもと一緒に確認する。 楽しいと感じる気持ちを大切にしながら、物づくりに繋がっていく。 選んだ素材や自分なりの思いで作ろうとする姿を認める。 友だちや年長児が作っているものを見て同じように作ってみようとする。 セロテープ以外の接着剤があることを伝え、どれが使えようかと一緒に考える。 友だちの思いや作り方を尋ねたり、時には仲立ちとなる。 どうしてその廃材を選んだのか尋ね、イメージを言葉で伝えられるよう促す。 互いのやりとりを見守りながら、必要に応じて言葉をかけイメージを共有できるようにする。 「頑張ったね」と完成させたことを認め、次の製作への意欲に繋げる。 子ども同士の関わりを見守り、遊びながら作りたい物のイメージが広がるような言葉掛けをする。 子どもの気付きを具体的な言葉で伝え、イメージを引き出す。 テープの長さや止め方などを意識できるように促し、使い方を尋ねる。 近くにいる年長児に協力を求めたり、上手にできる方法を一緒に考えられるような言葉掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 認めてもらった喜びで満足して他の遊びに移ったり、「もっと描いてみたい！」と次に期待をもつ。 約束を守って安全に遊ぶ。 作りたいものがあるから、考えながら作る。 認めてもらった喜びで満足して遊ぶ。 わかんないことは友だちや保育者に聞き、自分自身で解決しようとする。 素材に応じた接着剤に気付く、試してみようとする。 友だちへの関心が高まり、同じものを使って自分なりのイメージを広げる。 友だちの思いに気付く、受け入れようとした自分のイメージがよりに広がる。 認めてもらったことで達成感を味わい、「また作ってみよう！」と意欲を高める。 友だちの思いを聞き、イメージを膨らませて遊ぶ。 イメージに近い素材を選び、遊び始める。 必要な物を大剣に使おうとする。 異年齢児と積極的に関わろうとする。 	

平成28年度

平成28年10月21日(金) 9:30~11:30

タンポポハウス

5歳児 さくら組 : 20名(男児11名 女児9名) 【担任】大瀬 【支援】3対1谷奥

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30	<p>〈廊下〉 ・様々な素材を取り出しやすいように分類しておく。 ・テラスとふじ保育室をつなぐ通路を設置する。</p> <p>〈テラス〉 ・フルシートを敷いておく。 ・机に絵具(赤・青・黄)・ローラーや筆など用意しておく。 ・段ボールや模造紙など様々な素材を用意する。 ・足拭きタオルを用意する。</p> <p>〈ふじ組保育室〉 ・フルシートを敷いておく。 ・各机に絵具(赤・青・黄)を設置しておく。 ・様々な素材、道具を運んで遊べるように製作棚を設置しておく。 ・段ボールを壁に貼り、描いて遊べるコーナーを用意する。 ・足拭きタオルを設置しておく。</p>	<p>・各部屋へ移動する。 ・約束事を確認する。 ・絵具が床に付かないよう、通路の上を気を付けて歩く。</p> <p>○絵具遊び(大型) ・道具を使う事を楽しみたいものを選ぶ。 ・絵具を描く紙なども質によって違う事に気付く。 ・何でも行っていることで、塗りに工夫をしたり、道具を上手に使うようになる。 ・段ボールを窓や垂り物などに見立てて色塗りを行う。塗っている中で、こっこ遊びに発展していく。 ・落ち葉にローラーで色を付け、版画をする。その模様を動物やお花などになるよう組み合わせる。</p> <p>○絵具遊び ・絵具を入れるカップを持ち、混ぜて色が変わることを楽しむ。 ・目的に合った素材や道具を選び、線や文字を描く。 ・絵具の色の変化に興味を持ち、色を足していくことで、目的に合った色作りを行う。 ・他県と見せ合うことで刺激し合い、作品作りに熱中する。 ・壁に貼ってある段ボールに、線を描いたり、色を塗ったりする。 ・描く中で、他の素材を貼り合わせたりし、イメージをどんどん膨らませて作る。 ・割り箸を平たく使い線を描いたり、歯ブラシで模様を付け、様々な道具を工夫して使う。 ・松ぼっくりや木の葉など、紙でない物にも絵具を付け、作ってみようとする。 ・自分の作品を絵画ラックに置き、残しておく。</p>	<p>・始める前に片づけの時間をホワイトボードの時計で示しておく。 ・通路を楽しみなから通れるよう工夫しておく。 ・道具を選びやすいよう見やすく並べておく。 ・感じたことを尋ね、周りにいること共有できるきっかけを作る。 ・良いところを見つけて認める。 ・見立てやすくなるよう段ボールを組み立てた物を用意したり、素材があることを伝えきかけを作る。 ・考えて行なうことについて認め、完成と一緒に喜ぶ。</p> <p>・遊び方、道具の使い方などルールを伝える。 ・選びやすいよう、早や早く配置し、子どもに任せる。 ・何色と何色を混ぜるとどうなったのかなど、尋ね伝える機会をつくる。 ・集中力が途切れない様見守り、他の子も入れるようきかけを作る。 ・机の上と壁の違いを生かして遊べるように間隔を確保。 ・イメージして形を目指す姿を認める。 ・工夫したこと、考えられたことを認め声掛けをする。 ・木の葉など使えるよう保育者も一緒に物作りを楽しむ。 ・完成した満足感を受け止め、乾燥した後どのようにしたいか尋ね、大切に出来るよう促す。</p>	

平成28年度

平成28年10月21日(金) 9:30~11:30

タンポポハウス

5歳児 さくら組 : 20名(男児11名 女児9名) 【担任】大瀬 【支援】3対1谷奥

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:30	<p>〈廊下〉 ・様々な素材を取り出しやすいように分類しておく。 ・テラスとふじ保育室をつなぐ通路を設置する。</p> <p>〈テラス〉 ・フルシートを敷いておく。 ・机に絵具(赤・青・黄)・ローラーや筆など用意しておく。 ・段ボールや模造紙など様々な素材を用意する。 ・足拭きタオルを用意する。</p> <p>〈ふじ組保育室〉 ・フルシートを敷いておく。 ・各机に絵具(赤・青・黄)を設置しておく。 ・様々な素材、道具を運んで遊べるように製作棚を設置しておく。 ・段ボールを壁に貼り、描いて遊べるコーナーを用意する。 ・足拭きタオルを設置しておく。</p>	<p>・各部屋へ移動する。 ・約束事を確認する。 ・絵具が床に付かないよう、通路の上を気を付けて歩く。</p> <p>○絵具遊び(大型) ・道具を使う事を楽しみたいものを選ぶ。 ・絵具を描く紙なども質によって違う事に気付く。 ・何でも行っていることで、塗りに工夫をしたり、道具を上手に使うようになる。 ・段ボールを窓や垂り物などに見立てて色塗りを行う。塗っている中で、こっこ遊びに発展していく。 ・落ち葉にローラーで色を付け、版画をする。その模様を動物やお花などになるよう組み合わせる。</p> <p>○絵具遊び ・絵具を入れるカップを持ち、混ぜて色が変わることを楽しむ。 ・目的に合った素材や道具を選び、線や文字を描く。 ・絵具の色の変化に興味を持ち、色を足していくことで、目的に合った色作りを行う。 ・他県と見せ合うことで刺激し合い、作品作りに熱中する。 ・壁に貼ってある段ボールに、線を描いたり、色を塗ったりする。 ・描く中で、他の素材を貼り合わせたりし、イメージをどんどん膨らませて作る。 ・割り箸を平たく使い線を描いたり、歯ブラシで模様を付け、様々な道具を工夫して使う。 ・松ぼっくりや木の葉など、紙でない物にも絵具を付け、作ってみようとする。 ・自分の作品を絵画ラックに置き、残しておく。</p>	<p>・始める前に片づけの時間をホワイトボードの時計で示しておく。 ・通路を楽しみなから通れるよう工夫しておく。 ・道具を選びやすいよう見やすく並べておく。 ・感じたことを尋ね、周りにいること共有できるきっかけを作る。 ・良いところを見つけて認める。 ・見立てやすくなるよう段ボールを組み立てた物を用意したり、素材があることを伝えきかけを作る。 ・考えて行なうことについて認め、完成と一緒に喜ぶ。</p> <p>・遊び方、道具の使い方などルールを伝える。 ・選びやすいよう、早や早く配置し、子どもに任せる。 ・何色と何色を混ぜるとどうなったのかなど、尋ね伝える機会をつくる。 ・集中力が途切れない様見守り、他の子も入れるようきかけを作る。 ・机の上と壁の違いを生かして遊べるように間隔を確保。 ・イメージして形を目指す姿を認める。 ・工夫したこと、考えられたことを認め声掛けをする。 ・木の葉など使えるよう保育者も一緒に物作りを楽しむ。 ・完成した満足感を受け止め、乾燥した後どのようにしたいか尋ね、大切に出来るよう促す。</p>	

子どもの姿(遊び・生活・発達)

【生活】
・身の回りのことを進んで出来るようになり、先々の事を考えて行動が出来るようになってきている。
・時間に関心をもち、時計を見て片付けの時間に気付いたり、給食を時間内に食べられるよう意識をしていっている。
・当番活動のお帳面配りや、給食の三色分けなどを通して文字を覚え、読んだり書いたりする姿が見られる。
・分かってながらも、けじめをつけることが難しく、なかなか静かに出来なかったり、用意に時間が掛かり周りが臭えなくなることがある。
・夏野菜作りを通して、1人1人が責任を持って育て、収穫を友だちと喜び合う中で、苦味野菜を克服しようとする姿が出てきた。

【発達】
・生き物に興味を持ち、身体の仕組みをしつくり観察したり、図鑑で調べ飼育をする。餌やりや水槽の掃除を自ら進んで行う。
・友だち同士でルールを決めたり、問題の解決に向け話し合おうとする姿が見られ始める。自分の思いを言える子が増えてきた。
・縦割りの活動を通して年下の子の面倒を見てあげたり、日々の生活の中でも気にかけて声を掛けたりするようになっている。
・数棒や縄跳び、スイミングなど、出来なかったことも目標を持って取り組み、出来るようになってきたことが増えてきた。
・絵を描く時に、人物だけでなく、背景や物など細かい部分まで描けるようになってきた。

【遊び】
○製作
・昨年度より継続しているため、日々の自由遊びで好んで遊ぶ姿が見られる。
・折紙で作るより、積数を協力して作ることが多くなり、意見を出し合って役割分担をして作っている。
・体験を返って遊びごとに熱中しており、本を厚く試行錯誤しながら作り上げ完成を喜ぶ。出来た子が教え、また出来た子が教え、良い連鎖が生まれ始めている。
・道具や備品を大切に使う事が難しく、多く使えすぎたり、出しっぱなしで片づけられぬ時もある。
○絵具
・3原色のみ使っていることもあり、混ぜて色作りすることを試している。
・ローラーや筆など、自由に使う段ボールや模造紙に描き、色の濃淡を楽しむ。描く中で足りない部分に工作紙など違う素材を貼ったりスタンプをしたりし作品作りを楽しみ始めている。
・ローラーや筆の他の描くための道具を考え、割り箸や歯ブラシなどを使って描いてみようとする姿も見られ始めた。

【ねらい】
・気付いたことや、自分なりの方法を友だち同士で伝え合う。
・絵画年齢との関わりを通して、年下の子への接し方、伝え方を考えようとする。
・様々な道具や素材を使って表現を楽しむ。

【内容】
・自分の思いだけを主張するのではなく、一緒に作る中で「こうしてみよう」「こっちの方がいい」など声を掛け合って一つの物を作りあげられる。
・作品を作り見せてあげたり、ガムテープなどをちぎってあげたり、困っている姿に気付いて手伝ってあげようとする。片付けも進んで行い手本となる。
・作りたいものをイメージに合わせて作ったり、遊びの中で必要な物を考え遊びを広げる。

【内容選択の理由】
・自分の意思を貫きたい子が多く、一緒に作っていても譲れなかったりもめが多いため、お互いにも意見を言い合えないから、子ども同士で試行錯誤しながら、作る機会を増やして行きたい。
・またまだ幼い年長児のため、年下の子と関わることで、さらに年長児である自覚を持つて欲しいため。
・年長児ならではの手伝いを任せ、自信に繋げたい。
・「作りたいたいものを作るから」遊びに必要なものは何から」を展開していきたい。

1. 日時 平成28年11月10日(木曜日) 10時00分～11時30分
 2. 対象児 6年保育 0歳児 もみじ組(男児 7名 女児 7名)
 3. 担任 高井祐香 波多野涼子 若島明美
 4. 子どもの姿
- <子どもの生活の特徴>
- 手づかみやスプーンを使って自分で食べようとする姿が見られる
 - 自分のコット(布団)にはいはいや歩行で向かい、自ら布団に入り、保育者の見守りの中、安心して眠れるようになった
 - 帽子をかぶったからお外に出る、食事の後はコットで寝るなど、次の行動に見通しをもてるようになり、自分からしようとする姿が見られるようになったりと、習慣づいてきている
- <発達・遊びの特徴>
- 10ヶ月～1歳2ヶ月
 - 腹ばいから座位へと姿勢を変えたり、はいはいで行きたいところへ行く
 - 斜面や階段をはいはいで登る
 - 柵の玩具をつかむために、はいはいで興味のある玩具に近付き、柵につかまってつかまり立ちや、つたい歩きをする
 - 興味のある玩具を手に取り、舐めたり、しゃぶったり、握ったり、また両手に持ち叩き合わせたりする
 - 友だちの遊ぶ様子を見たり、顔や体に触れたりし、関心を持ち関わっている
 - 気持ちや欲求を、笑ったり、泣いたりして全身で表現する
 - 特定の保育士のところへはいはいで行き、じっと見つめたり、微笑んだり、抱っこを求めたりする
 - 「いないいないばあ」など保育者とのふれあい遊びを喜んでいる
 - 手づかみや、保育者と一緒にスプーンを使い、意欲的に食べている
 - 1歳3ヶ月～1歳7ヶ月
 - 歩行が安定し、自分の行きたいところへ行く
 - カバンや玩具を持ち、歩くことを楽しんで
 - 階段をはいはいしたり、手すりにつかまり歩いて登る
 - 箱から別の箱へと足をまたがせて移動している
 - 園庭に出ると、大型遊具の高いところへも自分で登っていく
 - 指先で積木を持って積んだり、丸形の穴に玉を落として転がしたり、型の違いに気付く(丸・三角・四角) それぞれの型に合う積み木を落としたりすることを繰り返す
 - 簡単な言葉の意味が分かり、身振りや喃語、単語で自分の思いや欲求を表現する
 - 物をやり取りしたり、時には取り合ったりすることもありますが、保育者の仲立ちにより「ちようだい」「どうぞ」のやり取りができるようになってきている
 - 特定の保育士との関わりを喜んだり、喃語や指さしに応えてもらうことで欲求が満たされ安心して過ごしている
5. ねらい
 - 好きな玩具をみつけ、じっくり遊ぶことを楽しむ
 - ・指先をいながら、様々な感触を楽しむ
 - ・体を動かして遊ぶことを楽しむ
 - 身近な言葉を理解し、保育者とのやり取りを楽しむ中で模倣し、発話しようとする
 6. 保育の内容
 - 室内遊び
 - ・身体を使った遊び(すべり台、卵パックのマット、牛乳パックの箱)
 - ・手先を使った遊び(積み木、穴落とし、マグネット、マジックテープ)

子どもを主体とした保育 公開園【さくら保育園】

7. 実施計画

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
10:00	<ul style="list-style-type: none"> 取り出しやすいよう、大きく重たい玩具は低いところへ置く 口手先を使った遊び 積み木 穴薬とし マグネット マジックテープ 安全に遊べるように玩具の配置に配慮し、環境を整える。 子どもの目線にイラスト・写真を用意しておく 	<ul style="list-style-type: none"> 保育室内を移動し(ずり這い・はいはい・つたい歩き・歩行) 興味のあるところへ行く 様々な玩具を握む・握る・入れる・叩く・振るなどする 玩具を口に入れたり舐めたりして確かめようとする 両手に玩具を持ち、打ち付けたり叩き合わせで音を鳴らす マジックテープやマグネットを貼り付けたりはがしたりする ベビーベッドの柵にぶら下がっているものに興味を示し、手を伸ばして取ろうとする 指さしながら喃語を発し、保育者に伝えようとする すべり台などの傾斜を上り下りしたり、頂上で立ち止まったりする 柵に興味を持ってのぞこうとする 感触の違うマットの上を歩行やははいいで移動する 箱から箱へ入ったり出たりを繰り返す 	<ul style="list-style-type: none"> 遊んでいる姿を見守り遊びを見つけれない子には興味をもてる玩具で遊びに誘う 「嬉しい」「楽しい」「できた」といった肯定的な感情をたくさん味わえる遊びを提供し、子どもと共感しあう 物が床に広がりにすぎた場合にはさりげなくカゴなどに入れ、遊びが継続できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味のある玩具や場所を見つけて遊ぼうとしているか 自分から興味のある玩具に手を伸ばし、感触を確かめようとしているか 興味を持って、じつと見たり触れたりしようとしているか 登るときに、手のひら・足裏をしっかりと使おうとしているか(踏ん張っているか) 繰り返して行おうとしているか 一人の空間で落ち着いて過ごそうとしているか
	<ul style="list-style-type: none"> 口ふれあひ遊び 	<ul style="list-style-type: none"> 押入れに隠れている子に「いないいないばあ」をして喜んでいたりする 玩具を保育者に渡したり貰ったりして「ちょうだい」「どうぞ」のやりとりをする わらべ歌をうたったりい喜ぶ 周囲の様子や他児の姿に気付き、関わろうとする(顔に触れようとしたり、頭をなでたり、友だちの持っている玩具に興味を持ち、取りに行こうとする) 自分の欲求を喃語や指さし、表情で伝えようとする 保育者に抱っこを求めたり膝に座ったりしてスキンシップを求める 	<ul style="list-style-type: none"> 1対1での関わりを大切にし、スキンシップをはかる 好きな友だちがいるところに自分から近づこうとする姿を見守り、子どもの気持ちを橋渡しして、良い関係を育てていく 子どもの発している要求の意味を理解し、ひとつひとつ丁寧に言葉を掛けて受け止める 甘えや欲求を十分に受け止め、安心して活動できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友だちを真似たり、やり取りを喜んでいたりする 保育者とのわらべ歌・ふれあひ遊びを喜んでいたりする 自分の欲求を伝えようとしているか 自分だけに向けられた関わりを喜び満足しているか
10:25	<ul style="list-style-type: none"> 順次オムツ交換 ↓ 給食 			

1. 日時 平成28年11月10日(木曜日) 10時00分～11時30分
2. さくら保育園 1歳児 もも組(男児7名 女児11名)
岡山留実 井上葵 河端香

3. 子どもの姿

<子どもの生活の特徴>

- 手づかみやスプーンを使って自分で食べている。苦手な食材を嫌がる子もいるが保育者の援助や言葉掛けで食べようとしている
- 着脱を「自分でする」意欲が見られる。また、出来ないときはズボン、おむつを持って保育者に「して。」と、伝えに来る姿が見られる
- 日中パンツで過ごせる子が増えてきた。その子達の姿を見て、まだオマルで排泄できない子も興味を持って意欲的にオマルに座る姿が見られる。

<発達の特徴>

- 友だちに興味を示すようになり、友だちの持っている玩具などを欲しくなり、トラブルになる
- 保育者との簡単な言葉のやりとりが出来ようになり、自分の気持ちを言葉で伝えられる子もいる。まだ、言葉で表せない子は指さしや、嫌なことがあると、泣いて伝えようとす
- 歩行がしっかりしてきて、お散歩では友達や保育者と手をつないで歩くことが出来るようになった

<遊びの特徴>

- パズル・・・パズルの入ったケースのファスナーを上手に開けてパズルを取り出し、ピースの向きを合わせてはめている。出来ない時は自分が出来るパズルを持って来て「出来た。」と喜ぶ姿が見られる
 - おまごこと・・・花ビーズとレンガやおたまで上手にすくって花ビーズをお皿に乗せたり友だちや保育者に出来た物を食べさせてくれたりする。「何を作ったの?」と、聞くと「ごはん!」と返事が戻ってきたり、見立て遊びが出来ようになってきた。まだ、花ビーズを下に散らばせて遊ぶだけの姿も見られる
 - 米粉ねんど・・・手でコロコロと丸めたり、ちぎったりして遊ぶ姿がみられる。又、おまごことから、包丁やフォークなどを持って来て粘土を切ったり、皿にのせたり、と見立て遊びをする姿がみられる
4. ねらい
 - 手や指先を使い感触を楽しむ
 - 保育者や友だちと簡単な言葉や、身振り手振りでやりとりを楽しむ
 5. 保育の内容
 - ・米粉ねんど
 - ・手先を使った遊び(パズル、リモータ、シール貼り、ひも通し)
 - ・おまごこと(花ビーズ、おなべ、フライパン、おたま、レンガ、皿、椅子、テーブル)
 - ・運動遊び(カラーBOX、すべり台、鉄棒)

6. 内容選択の理由

- ・春からひも通しなどの手先の遊びをしていく中で根気よく遊ぶ姿がみられた。その中で手先指先の遊びを中心に考えていくことにした。夏頃から2ピースから6ピースのパズル、リモータ、シール貼りを取り入れ、色を見分けたり、枠にはめる、貼るなど、手先の器用さ、集中力を高めている。その中、粘土あそび、おまごこと遊びでも見立て遊びが出来るようになり、手先、指先の遊びも集中して取り組む姿が見られるようになった。毎日の生活の中で保育者や友だちの真似をしたり、保育者が仲立ちとなり、会話をしていく中で発語を促しているよう遊びを取り入れている。おまごことコーナーでのおたま、レンガを使った遊びでは指先、手首を使った遊び、食事のスプーンの練習へもつなげている。

7. 実施計画

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ○米粉ねん土を用意する ・机 ・カップ ・スプーン ・ナイフ ・手ふき用タオル 	<ul style="list-style-type: none"> ○ねん土で遊ぶ ・ねん土をまるめたり、ちぎったりする ・カップにつめる ・保育者や友だちの真似をする ・スプーンやナイフで切ってみる ・触るのを嫌がる子もいる ・口に入れてしまいう子もいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に遊ぶことにより子どもたちが興味・関心を持ち、感覚を味わえるように言葉を掛ける ・口に入れようとすると子には、入れないように見守ったり声をかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から触っているか ・指先を使ってちぎったり、こねたりしているか ・保育者と一緒に触ってみたい、友だちのしていることを真似ようとしているか
	<ul style="list-style-type: none"> ○指先を使った玩具を用意する。 ・バズル ・リモーザ ・シール貼り ・ひも通し 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなバズルを選び、バズルをする。 ・友だちがしているバズルに興味を持つ ・リモーザ、シール貼りをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して遊べる空間を用意し、出来るところまで見守る ・出来た時には一緒に喜び合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・形を合わせているか ・指先でつまんでいるか ・友だちがしていることに興味を持っているか ・目的の場所にピンをはめることができるか ・レングやおたまで花ビーズをすくっているか ・簡単な言葉や身振りでやりとりが出来ているか ・自分の思いを言葉などで表しているか ・花ビーズを食べ物などに見立てているか ・レングやおたまで花ビーズをすくっているか
	<ul style="list-style-type: none"> ○ままこと遊び コーナーを設定しておく ・なべ、フライパン ・トング、花ビーズ ・ちゃぶ台、お皿 ・イス 	<ul style="list-style-type: none"> ・トングやおたまで使いい、花ビーズをおなべに入れる ・食べ物に見立てて保育者や友だちに「どぞ」「あーん」などの言葉を使い、やりとりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の仲立ちでやりとりや遊びを楽しむながら友だちとの関わりをもてるようにしていく ・子どもが動作や言葉で伝えようとする気持ちをうけとめじっくり聞き取り、「そうだね、○○だね」と共感し、やりとりをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを言葉などで表しているか ・花ビーズを食べ物などに見立てているか ・レングやおたまで花ビーズをすくっているか

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
11:30	<ul style="list-style-type: none"> ○運動遊具を設定する ・カラ―BOX ・すべり台 ・鉄棒 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべり台をのぼったりすべったりする ・鉄棒にぶら下がって遊ぶ ・から―BOXからとぶ・くぐる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもからの言動一つ一つ丁寧に関わっていく ・危険がないよう遊びを見守り、必要に応じて援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友だちと一緒に体を動かしているか ・とんだり、くぐったりして楽しんでいるか

1. 日時 平成28年11月10日(木曜日)10時00分～11時30分

2. さくら保育園 2歳児 たんぽぽ組(男児 16名 女児 9名)
担任 村田陽子 高瀬菜実 山内優香

3. 子どもの姿

<子どもの生活の特徴>

- 毎日の繰り返しの中で衣服の着脱や、朝やお帰りの準備等、身の回りのことを保育者に促されながら自分でしようとする姿が見られる
- 「おしっこがでる」と排泄の前に知らせられるようになり、自分のタイミングでトイレに行けるようになってきた
- ほとんどの子どもがスプーンを持って一人で食べようとする姿が見られる。
- 戸外あそびの後や食事の後に服が汚れたら「汚れた」と自分で気づき着替えようとする姿が見られる

<発達の特徴>

- つまむ・貼る・押す・切るなど指先を使ったあそびを集中して遊んでいる
- 自分の思い通りにならないと叫んだり泣いたりすることで気持ちを表現している。しかし、少しずつ保育者を介して言葉で伝えられるようになってきた
- 平行あそびからイメージを共有し、友だちを意識しながらあそぶ遊びに変わってきた
また、同じ空間で1人で遊ぶことを満足している子もいる
- 言葉が増えてきており、友だちや保育者と「〇〇しよ」「先生こっちで食べて」など会話を楽しむ姿が見られる。また「なぜ」「これ何？」の質問が多くなり外の世界の物事に関心が広がってきている
- 鉄棒にぶら下がったり、ジャンプしたり、登る・転がる・など身体を動かして遊ぶ姿が増えてきた

<遊びの特徴>

- おままごと 保育者を介してのごっこあそびから、友だち同士で「かき氷屋さん」等見立てあそび、つもり遊びが始まっている。また、お料理を作り「熱いですよ」「辛いですよ」と言葉がけが具体的になってきた
- 運動あそび 初めは怖がる様子があった。しかし友だちがのぼり棒や鉄棒、跳び箱等遊んでいる姿を見て、それを真似して全身を使って遊ぶ姿が見られるようになってきた
- 小麦粉粘土 粉の感触を楽しんだ後、食紅を入れて水を加えると、色が出てきたことに驚いたり水の量によって柔らかさの違いに気づき「堅いでお水入れて」等、柔らかかさなど触れた時の感触を言葉で表現している。丸めたり引張り張ったり伸ばしたり押したり、いろいろな材料を使うことによって、ケーキやハンバーグと見立てて遊んだり、「今日先生の誕生日」等イメージしてあそぶ姿が見られる

4. ねらい

- いろいろなあそびを楽しむ中で、保育者や友だちとイメージを膨らませながら、会話やごっこ遊び・見立て遊びを楽しむ
- 造形遊びを通して自分の思いを言葉や自分なりの表現で伝えようとする

5. 保育の内容

- 小麦粉粘土
- 電車あそび
- おままごとあそび
- 運動あそび
- 造形遊び

6. 内容選択の理由

- 個々の遊びから友だちと一緒に遊ぶことへの興味関心が向いてきたので、友だちの模倣をしたり、やってみたいという気持ちや伝えたい自分なりの思いを表現してもらいたい。また、見立てあそびやごっこあそびに発展していく中で、友だちや保育者との関わりの楽しさを感じてほしいため
- 丸めたり、伸ばしたり、ちぎったりと素材の変化を楽しんだり、見立てあそびをしながら遊んでいる姿が見られる。その中で触覚や視覚を使い、色の変化や感触を味わってほしい

7. 実施計画

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
10:00	<p>○小麦粉粘土</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机にシートをひいておく ・好きな素材を取りに行けるように準備する 	<p>○好きなコーナーで遊ぶ</p> <p>○小麦粉粘土</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小麦粉粘土の感触を味わいながら自分なりの遊びを見つけ楽しむ ・好きな素材を選んで埋め込んだり突き刺して組み合わせを楽しんでいる ・丸めたり伸ばしたりちぎったりすることを楽しむ ・出来た物を保育者や友だちに見せる ・友だち同士でお互いの物を意識して模倣する ・自分がイメージしたものを保育者と一緒に作る <p>・いろいろな色の粘土を組み合わせて色の変化に気づく</p> <p>○造形コーナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな素材を選んでビニールテープを使って貼ったりくっつけたりする事を楽しむ。 ・物と物とをくっつけよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの思い要求を丁寧に受け止め安心させてあそべるようにする ・小麦粉粘土の感触や形の変化に気づいているか ・子どものイメージを受け止め子どもの発想の豊かさを言葉に置き換えて子どもに返している ・作ったものをイメージしてあそびが広がるような声かけをする ・友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように保育者も一緒に遊ぶ。「やわらかいね」「気持ちいいね」等、他児との感触を共感できるような言葉で関わる ・いろいろな素材を用意しておき自分たちで選んでさらにイメージが膨らむような言葉かけをする ・色が変わったことに共感し、色の変化に関心が持てるような言葉かけをしていく ・自分で作った達成感を味わえるような援助・言葉かけをする ・子どもの話をよく聞き、表現したい気持ち 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で好きなあそびを選択できているか ・小麦粉粘土の感触や形の変化に気づいているか ・保育者や友だちに感触を感じ、それを伝えられているか ・「ケーキ・お団子・お肉等」等、言葉が立って出てくるか ・色が変わったことに気づいているか ・言葉や表情で出来た喜びを表現しているか ・自分なりの表現をし、作った物を何かに例え、表現したことを保育者に伝えているか

<ul style="list-style-type: none"> ・色々な素材に触れ、作ることを楽しんでいるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに興味を引くような素材を用意しておく ・子どもの気持ちに共感し、満足感を味わえるようにする ・友だちと一緒に作る様子を見守り、トラブルに合った時には本時の思いをしっかりと受け止め言葉にする ・また状況に合った言葉を知らせ、相手の思いを丁寧に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うとずするがテープがうまく貼れず、困っている ・うまく貼れなくて困っている時には保育者に声を掛け手伝ってもらえる ・出来た物を友だちや保育者にみせる
--	--	---

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
11:30	<ul style="list-style-type: none"> ままごとあそび 机 いす キッチン用品 花はじき 人形 エプロン 	<ul style="list-style-type: none"> ままごとあそび エプロンをつける フライパンに花はじきを入れて料理する 料理を盛りつけ保育者や友だちに食べさせてもらう 「辛い」「甘い」等味覚を言語化する 人形を使い、赤ちゃんの世話をする 他児が持っている物を貸してほしい時、言葉で伝えられずに玩具を取ることがある 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが持っているイメージを大切に共有しながら、遊びが広がるような言葉かけをする 保育者も一緒に遊びを楽しむ子ども同士のやりとりを見守りながら見立て、つもりの世界が味わえるようにする 「あついですよ」「からい？」等、子どもの問いかけに共感し丁寧に返す トラブルが起きたときは保育者が子どもの思いや考えを受け止め代弁して仲立ちしていく 保育者が仲立ちとなつて友だち同士をつなぎ、言葉を交わす 	<ul style="list-style-type: none"> 「何がいいですか?」「美味いですか?」等の保育者や友だちへの会話のやりとりをしているのか 料理の名前や味等、見立てたもののイメージを言葉や動作で表現しているか 「賞して」等自分の思いを友だちに伝えようとしているか

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> 運動あそび 跳び箱 マット 階段 鉄棒 	<ul style="list-style-type: none"> 運動あそび 鉄棒にぶら下がってあそぶ マットから転がったり、跳び箱からジャンプをして楽しんでいる 保育者を通じて順番に並ぼうとしているが押されたり抜かされたりとケンカになる 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄棒やマット等危険がないよう劇について十分注意をする 体を十分に動かして遊べるように保育者も一緒に楽しむ 「○○ちゃんの次ね」等声をかけ待たせれば自分の番が来るといふ安心感をもてる間わりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ぶら下がったり、飛んだりと全身を使って遊んでいるか 「自分もやりたい」という思いを言葉で伝えたり表現しているか
	<ul style="list-style-type: none"> ○電車コーナー 線路 電車 木の人形 駅 	<ul style="list-style-type: none"> 電車コーナー 好きな線路を選んで組み合わせて繋げていく 「こっちにつなげよ」等友だち同士で声をかけ合いながら線路をつなげている 視線を線路の高さに落としながら電車を走らせている 電車が貸してもらえずに取り合いになる 	<ul style="list-style-type: none"> 気の合う友だちとイメージを共有させて会話をしながら遊べるように関わる 友だちと一緒に遊んでいる時には見守り、時々声をかける等して楽しさを共感する 子どもの要求を聞き、仲立ちとなり横並びしやすい言葉で一緒に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを言葉や仕草で伝えようとしているか 自分の思いやイメージを表現しているか

- ・いろいろな材料や道具（ハサミ・のり・クレヨン・テープなど）を使い、貼ってつなぎ合わせたり、作ったり、絵を描いて楽しむ姿が見られる
- ・「〇を作る」という目的はなく、好きな廃材をいくつか選び、紙などにビニールテープで貼ったり、ただハサミで廃材を切って楽しむ子ども多い また、切り刻まれた廃材をおまごごとで食べ物やジュースに利用するなど遊びが発展していく様子も見られた
- ・細かく切ったものや細々とした廃材を無造作にポンドやビニールテープなどでくっつけて「ケーキ」「ハンバーガー」などと見立てる製作あそびをする姿もある
- 指先を使った遊び・構成あそび
- ・個々に集中をして遊ぶ姿が見られる中で、「〇〇ちゃんのキレイ」「〇〇君、同じようにしよ」「真似してもいい？」など近くにいた友だちを意識したり、友だちとの言葉のやりとりをしている
- ・役割を決めて一つ一つのものを形にしたり完成させようとする姿が見られる

4. ねらい
 - 自分の好きな遊びを見つけて楽しむ
 - あそびを通じて自分なりのイメージを持ち、工夫したり、表現する楽しさを感じる
5. 保育の内容
 - まごごとを使ったごっこ遊びをする
 - いろいろな材料を使って製作をする
 - 自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ（マンダラぬりえ・お絵かき・積み木・リモ一ザ）

6. 内容選択の理由
 - ・ごっこあそびの中で、友だちと一緒に関わりながら言葉のやりとりをしたり、自分で作ったものを使ってごっこ遊びを楽しんでほしい
 - ・廃材や用具を使って自分の作りたいものを工夫したり、表現することを楽しんでほしい
 - ・こだわりの強い子やその遊びを好む子どもたちがその遊びがあることで精神的に安定し、次の活動へスムーズにつなげてほしい

1. 日時 平成28年11月10日（木曜日）10時00分～11時30分
2. さくら保育園 3歳児 ひまわり組（男児 11名 女児 7名）
担任 石島咲里香 岡山和史
3. 子どもの姿
 <子どもの生活の特徴>
 ○毎日の生活の流れが身につき、自分の身のまわりのことを自分でしようとする姿が増えてきた
- 給食では、苦手な食べ物でも、自ら口に運ぶ姿が見られ、ほぼ毎日全員が給食を完食できるようになってきている
- 排泄は、まだ声かけが必要な子やオムツが取れていない子もいるが、ほとんどの子が自分のタイミングで行けるようになり、失敗も少なく過ごすことができている

- <発達の特徴>
- 自分が経験したことや思ったこと、驚いたことなどを保育者や友だちに伝えようとしている
 - 遊びや生活の中で友だちとの関わりが増え、一緒に遊ぶことを楽しんだり、友だちがしている遊びに興味を持ち「何しとん？」「入れて！」「どうしてるん？教えて」など言葉のやり取りも見られる
 - 保育者の手伝いや、お当番で友だちと一緒に手伝ったりすることで、役に立つ喜び、認められる喜びを感じるようになってきた
 - まだまだ自己主張が強くて友だちとぶつかり合い、自分の思いを出していく中で、保育者を仲立ちとし順番や簡単なルールなどを守って友だちと遊んでいる

- <遊びの特徴>
- まごごと
 - ・毎日の日常生活の中での体験から、レストランなどでのやりとりや食べ物再現し、廃材を使ってジュースや料理等を作っている また、「いらっしやいませ」「何食べますか？」「ハンバーグください」などそれぞれ役になりきって遊んでいる
 - ・丸テーブルの周りにイスを並べたり、テーブルクロスを敷いたりして自分たちで用意をし、廃材で作ったジュースを手に持ち「パーティーしよう」「かんぱーい」など友だち同士やそこに保育者も一緒に参加し、話をしながら楽しんでいる
 - ・ごっこあそびで「〇〇がいるなあ」「〇〇ちゃん一緒に作る」と友だち同士で話をし、保育者にも手伝ってもらいながら一緒に共通のイメージを持って作ったりしている

- 製作あそび
- ・おまごごとで使っている電話のおもちゃがあることからきっかけに、一人の子が自分の携帯電話を作り始めた それを見ていた友だちが「僕も作りたい」と真似をしたり、どうして作るのかを相談しながら作っている姿が見られた
 - ・自分なりに携帯電話をイメージしながら「数字と文字いるな」「押すボタンいる」など色々な想像や考えを話しながらダンボールや型紙等の廃材を使って工夫をし、形にしようとしている

7. 実施計画

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ままごとコーナーには調理器具(キッチン・フライパン・お皿)は出し入れしやすく ・子どもたちが作った食べ物やジュースなども置いておく ・コーナーで遊ぶ子どもたちの靴を並べておけるようなスペースを用意しておく ・料理を並べたり食べたり出来るように丸テーブルやイスを設置しておく 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊び・場所を選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安になったり、したい遊びに迷っている子には保育者から声を掛け、ゆっくりと関わりながら子どもの思いを聞けるようにする ・「赤ちゃんお腹すいてないかな」「眠たくなかったかな」など遊びのイメージが広がるように言葉がけをする ・保育士もままごとあそびに入り、言葉のやりとりを増やしていくようにする ・友だちが持っている食材や調理器具などが使いたい場合にはどのよう話せばよいのか子どもたちと一緒に考えるようにする ・ごちそうを作ってもらいたい気持ちや「次は〇〇下さい」など言葉のやりとりをして、遊びの意欲の持てるように言葉がけをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊びたい友だちや自分のしたい遊びを見つけてようとしているか ・自分の気持ちを保育者に伝えようとしているか ・ごちそう作りや人形あそびなど気の合う友だちや保育者と一緒に会話を楽しんでいるか ・調理器具や食材などを共有しながら笑顔で過ごしているのか ・役割を表すような言葉や動き、やりとりをしているか

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> 折り紙、ガムテープ、はさみ、ビニールテープ、セロハンテープ、スズランテープ、のり、クレヨン、マジック、段ボール、廃材を種類に分けて設置しておく ・製作しやすいように和紙とイスを準備しておく 	<ul style="list-style-type: none"> ○製作あそび ・友だちの真似をしたり作りかたを聞いたり、教えてもらいながら製作をする ・自分の作った物を「風で」と保育者や友だちに見せようとする ・自分で作った達成感や喜びを味わう ・自分の作りたい物にどのような廃材が必要か悩み、保育者に尋ねたり、作ってもらいたがる ・友だちと話をしながら共通の物をちろうとずる ・細かい物を無造作にポンドなどを使ってくっつけようとする ・廃材をハサミで切り刻もうとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがイメージしたものを受け止め共感する ・より具体的なものが作れるようになる ・友だちと一緒に作ろうとする気持ちを大切に、あそぶ楽しさを味わっていきけるようにする ・一人ひとりの作った作品を見えやすい所に飾り、素敵さや満足感が得られるようにする ・子どもの発想を近くにいる子に知らせるなど共有しやすいような声かけを行う ・作りたい物の廃材選びを一緒にする ・ハサミで怪我をしないよう見守りながら持ち方などの声かけをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりにイメージしたことを表現しようとしているのか ・満足できるまで集中して作品を完成させることが出来るのか ・友だちと一緒に製作あそびをする中で楽しさや喜びをかんじているのか ・自分が作ったものを保育者や友だちに見せて喜びを感じているのか ・棚に飾られる自分の作品を見て満足感を味わっているのか

1. 日時 平成28年11月10日(木曜日) 10時00分～11時30分
2. さくら保育園 4歳児 うめ組(男児9名 女児14名) 担任 梨子木理恵子

3. 子どもの姿

<子どもの生活の特徴>

○日々の繰り返しの中で身の回りのことを自分でしようとしている。声掛けにより、丁寧にしようとしていたり意識する姿もある

○片付けや、活動の節目を時計の数字で知らせることで、生活の見通しを持ち過ごしている

<発達の特徴>

○気の合う友だちとの関わりが増え、友だちの始めたことに興味、関心を持ち、仲間に加わったり、活動にやりとりをしながら遊びを展開している

○遊びの中で自分の思いとは違ったり、意見を通そうとしてうまく伝えられず、手が出たり、保育士に訴えたりする

<遊びの特徴>

○製作

・色々な素材や材料を使って試行錯誤しながら、遊びの中で必要な物をイメージして、作りたい物を形にすることを楽しんでいる

・友だちのしている事に興味を持ち、やろうとしたり、方法を教え合ったり、出来上がった物を見せ合い喜んでい

・ピタゴラスイッチでは高低差や道順を少しずつなぐと転がし、またつなげると、やってみながら工夫したり友だちや保育者と相談しながら作っている

○指先を使ったあそび・構成あそび・描くあそび
・La0では指先を使いながら考え、いろいろな部品を組み合わせて平面から立体的な構成物をつくっている

・まんだら塗り絵では色や素材に親しみ自分で決めた配色パターンを考えながら塗り上げる達成感を感じている

・作った物をごっこあそびで使ったり、ままごとで使ったり個々の遊びから集団のあそび展開することもあ

・仕上がった途中の作品を自分でままたたところに置き、友だちに見せてもらったり、互いに見せ合ったりしている

○ままごとを使ったごっこあそび

・おうちごっこやお店屋さんごっこ等経験で知り得た日常生活の体験を、模倣・再現したり、

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
11:30	・棚に積み木・リモーター・色えんぴつ・マジック・マシラ塗り絵を取り出しやすいように配置する	○指先を使ったあそび ○構成あそび ・描いた絵を自分で黒板に貼ろうとする ・色々な色を使って色を塗る ・友だちの遊んでいる姿を見て自分も真似してみたり近くにいたり友だちとのやりとりを楽しむながら遊ぶ	・保育者も子どもと一緒に片付けを行い、最後まで取り組めるように声をかける ・写真が提示してあるカゴなどを伝え、依頼の言葉でお願いする ・片付けに楽しみや達成感をもてるようにする	・好きな遊びが選択できているか ・近くにいる友だちの様子を意識し、見て話しかけたり、興味関心をもって遊んでいるのか ・出来上がった時に達成感・満足感が得られているか
	・片付ける場所が分かりやすいように入れ物などに写真を貼っておく	○片付け ・自分が使用していた物を元あった場所に片付ける ・使ったものを正しい場所へ片付けず、適当に置いたり片付けをやめて別のことをしてしまう子もいる	・保育者も子どもと一緒に片付けを行い、最後まで取り組めるように声をかける ・写真が提示してあるカゴなどを伝え、依頼の言葉でお願いする ・片付けに楽しみや達成感をもてるようにする	・自分で片付けようとしているのか

7. 実施計画

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
10:00	<p>保育者や子ども同士の間を覗きながら話が聞けるように座る</p> <p>廃材を分けて配置しておく</p> <p>・机を設置しておく</p> <p>・雑巾を用意しておく</p>	<p>・今日の予定をみんなで確認する</p> <p>・友だちや保育者の話を聞いて自分もしてみたいと思ったり、新たな考えが出てきたりする</p> <p><製作遊び></p> <p>・ピタゴラスイッチ</p> <p>・電車</p> <p>・ままごとあそび</p> <p>・様々な廃材を使用して道を作る</p> <p>・友だちと相談したり協力しながら高低差をつける方法を考える</p> <p>・自分のイメージや思いを言葉にして伝えあい、友だちと一緒に作る</p> <p>・目的に合う材料を自分なりに考え、選び描いたり、切ったり、貼ったり、工夫して作る</p> <p>・線路を作りながらイメージを広げ友だちに伝える</p> <p>・電車の運転席を占領したり場所の取り合いをする</p>	<p>・意欲的に生活できるよる</p> <p>・子どもたちの声を受け止め、「やってみたい」と、関心を持って遊ぶように遊びの様子を伝えていく</p> <p>・友だちが作ったものにも興味を持てるよう形、長さ、材料の違いに気づけるような言葉がけをする</p> <p>・子ども達のやりとりを見守り、気づきや工夫を周りの子ども達と共有し、深められるように声掛けしていく</p> <p>・材料や使い方を工夫しているところを認められる</p> <p>・子どもたちのイメージに共感する</p> <p>・トラブルの様子を見守りながら手が出たり、子どもたちでの解決が難しい時は、仲立ちとなる</p>	<p>・「やってみたい」と今日の活動に興味をもっているか</p> <p>・友だちや保育者の話を興味を持って聞こうとしているか</p> <p>・友だちに聞いたりを工夫したことを教えたり、思いを伝え合っているか</p> <p>・工夫したり、考えたことが成功したり、出来上がった時に笑顔が見られるか</p> <p>・切ったり貼ったり異なる素材を組み合わせてつかっているか</p> <p>・遊びの中でイメージした事を伝える言葉があるか</p>

- やりとりをしながらか遊んでいる
- ・ごっこあそびに必要な食べ物や小物を廃材を使って作るうとしてたり、ペンダントや指輪を作り身につけて楽しんでいる
 - ・自分たちで役割やルールを決め、その役になりきって演じ、遊んでいる
 - ・保育者も一緒に遊んで遊んで、年少児を招待したり、年長児の刺激も受けながら、少しずつ遊びに広がりが見られる
 - ・作った食べ物からお店ごっこへと発展し、カバン屋やドーナツ屋・ケーキ屋等年長児や年少児を誘ってお店屋さんごっこをしているが、作った満足感がお店のごっこあそびに繋がらない子もいる
4. ねらい
- 素材や材料用具を使い、試したり、工夫したりする事を楽しむ
 - 自分の考えを言ったり、話を聞いたりしながら友だちと関わる楽しさを感じる
5. 保育の内容
- ・ままごとを使ったごっこ遊びをする
 - ・電車ごっこをする
 - ・遊びのなかで必要なものを製作する。
 - ・ピタゴラスイッチをつなげる
 - ・自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ(La0、マンダラ、パズル)
6. 内容選択の理由
- ・遊びを楽しむ、発展していく中で友だちとイメージを共有し、自分たちの遊びに必要な物を試行錯誤しながら、作る楽しさを感じてほしい
 - ・遊びの中で友だちと意思が違ったり、ぶつかったり、トラブルになった時、思いを伝え合いながら、解決の方向を自分たちでみつけて考えられるようになってほしい

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
11:30	<p><指先を使った遊び、構成遊び、描く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーナーにラキューやパズル、カードゲーム、塗り絵を設置する。 ・机を設置する(様子をみて憎やす) ・作った作品や途中の作品を記名し、置いておける場所を設置しておく。 ・片付ける場所が分かるように入っている道具や材料を記しておく 	<p><室内遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びたい物を自分で選び、遊ぶ。 ・本を見たり、友だちが作った物をまねたりしながら作る。 ・細かいところは材料を使い分けて塗り絵をする。 ・作った物をごっこ遊びやままごとで遊ぶ。 <p><片付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が使ったものだけでなく、まだ片付けが終わっていない所を手伝いに行く。 ・自分の文が終わると友だちとじゃれあったり遊びだしてしまふ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して遊び込む姿を認め見守る。 ・誘いかけがあれば保育者も一緒に遊びを楽しめ、言葉のやりとりや気づきの仲立ちとなるよう関わる。 ・遊びを見守りながら、つながりや周りに意識が向くように関わる。 ・最後まで片付けが協力して出来るよう声を掛けながら、1人1人方法を知らせたり、目標を持つ言葉がけをする。 ・出来たら「ありがとう。」と感謝の気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びをえらんでいるか ・組み合わせを考えたり、構成しているか ・友だちの作品を見たり、見せ合ったりしているか。 ・元の場所に戻したり、使える物は次の遊びに取っておこうとしているか

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> ・コーナーに調理器具や子どもたちが作った食材やカバン、エプロンなどを設置しておく ・廃材も近くに設置する 	<p><ままごとをつかったごっこ遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理器具や食材を使ってごっこ遊びを楽しむ ・役割やルールを自分たちで決め、自分の役を演じる ・イメージする料理や品物に合わせたり、調理の工程を表現したりしながら遊ぶ ・遊びの中で必要な食べ物や小物を廃材を使って作る ・作った物を友だちに勧めたり、作ったものを持ち寄ってお店やさんごっこをする ・遊びの中で自分の思いを出す、相手が違う思いで受け入れてもらえない ・招待状をつくり年長児や年少児を誘いに行こうとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが行っている工夫や遊びを認め共感する ・イメージを膨らませている様子を見守り、他者とイメージを共有したり言葉のやりとりが楽しめるよう援助する ・互いの思いを言葉で表し、相手の思いを聞き、解決の方向を自分たちで考えていけるよう仲立ちとなる ・遊びの様子を見守りながら、さらに発展しそうな気づきやエピソードがあれば周りの子にも共有し深める役割をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで役割やルールを決めようとするやりとりがみられるか ・イメージや見立てたものを言葉や動作で伝えていけるか ・経験したことを遊びに取り入れていけるか ・自分の思いを相手に伝えていけるか ・相手の思いを聞くか ・相手の思いを聞くか

1. 日時 平成28年11月10日(木曜日)10時00分～11時30分

2. さくら保育園 5歳児 さくら組(男児 15名 女児 7名)

担任 嶋戸身知

3. 子どもの姿

<子どもの生活の特徴>

○園での生活の流れが分かり、友だちと確かめ合ったり話をすることで見通しを持ち行動している

○生活に結びついた時刻に興味を持ち活動終了時刻や片付けなど数字で示す事により時間や数に関心を持っている

<発達の特徴>

○共通の目的に向かって役割を持って遊びを楽しんでいるがまだまだ自分の意見を通したい子が多いためうまくいかずケンカになる場面もある

○お友だちがしている考え・作品の良さに気づき、真似したり認めあったり友だち同士で教え合っている

<遊びの特徴>

○お店屋さんごっこ
自分たちで作った、たこやきの製作が上手に出来たことから、お店屋さんをやりたい！と考えた女の子からお店屋さんごっこがみんなに広がった

たこやき屋さんでどんなのやった？どうしたらお客さんを呼べるんやろ？お店さんを開くためのみんなの疑問がたくさん出てきた遊びとなった
色々話し合い準備をし、実際に異年齢のクラスをお客さんとして呼び、ごっこ遊びを展開すると自分たちで遊びを進めていく事の楽しさに気づいたり、異年齢での交流が増え、ごっこ遊びに対する興味・関心もどんどん深まってきている。

○木片遊び

年中組の時から年長組さんが活動している様子を見ていた子どもたちの楽しみにしている活動であった 実際には釘や金つちを使うのは難しいと感じる場面も見られるが、友だちと協力し合ったり意見を伝え合うことで、友だちと共に作品作りを行っている子どもたちである自分たちで作った作品で遊ぶ楽しさを味わっている

○製作

職場体験で来られた中学生が作ったロケットをきっかけにみんなが宇宙について不思議に思ったり、宇宙に関する製作を行う子どもたちが増えた。自分でも作ってみたロケットの製作をお友だちと見せ合ったり、友だち同士で共通のイメージを持ち、製作を行う場面が多く見られるようになってきている

4. ねらい

○さまざまな用具や材料を使い共同製作を通して友だちと共通のイメージを持ち、作ることを楽しむ

○自分たちの遊びを通して自分の意見を表現し、友だちの意見も聞こうとするなど、協力し合う事を楽しむ

5. 保育の内容

○共同製作を行いながら、子どもたち同士で協力し合い、お店屋さんごっこをする

○木片遊びで自分たちで作った作品で遊ぶ楽しさを味わう

○子どもたち同士で共通のイメージを持ち製作する

6. 内容選択の理由

○自分たちの好きな遊びを通して、友だち同士の信頼関係が少しずつ出てきた子どもたち好きな製作を共同で作って遊びを展開させていくことが楽しいと思える場面が見られるようになってきた その中でも活動の場に異年齢との関わりがあると、年長児として友だちに優しく接しようとする姿や、相手の思いを聞こうとする場面を見ることが出来てきた
自分の意見は伝える事が出来ているのだが、まだまだ自分本位な場面も見られるため、子どもたちが友だちの意見も聞けるようになり、協力し合い、遊びが楽しく発展していきけるようになってほしい

7. 実施計画

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージが膨らむよう製作の場も使い、遊びに必要なものを自分たちで考えたり作ったりできるようにする ・実際にお客さん呼び自分たちで考えたことを試す場を設ける ・イメージが膨らむよう製作の場も使い、遊びに必要なものを自分たちで考えたり作ったりできるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ○お店屋さんごっこをする ・友だち同士で共通のイメージを持ち、お店屋さんを行うための製作をする ・お店屋さんごっこをするための案内役、お店屋の店員役は誰がするのかなど役割分担を決めるため話し合いをしているが上手く決められないこともある ・うめ組・ひまわり組に、お店屋さんに来てもらうために呼びかけを自分たちで行う ・どのようにすればお客さんが来てくれるのかみんなで作る ・さくら組にまたお客さんにお店の紹介をする ・お部屋にまた異年齢の友だちの思いを聞かず、自分の思いを通して通そうとする ・年中・年少児がお店屋さんごっこを楽しむ姿を見て「お客さん一杯来てくれたね」など感想を言い合い、達成感を味わう 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に思いを出し合いながらイメージを共有できるように声をかける ・自分の思いに自信を持ち友だちと楽しく遊びが進められるよう話し合いの場を作ったり声をかける ・遊びが発展していく姿や様子を認める ・ごっこ遊びを進めていく上で、お互いの考えを進めていく姿を認める ・異年齢の友だちの思いに優しく接していいか ・自分たちで遊びを進める楽しさを味わっているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担ではやりたい事でも、譲り合うなど、どうすれば良いか考えようとしているか ・異年齢のお友だちに優しく接しているか ・自分たちで遊びを進める楽しさを味わっているか

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> ・製作の場の腐材・材料は子どもたちの使いやすいように配置し、興味をひくものを用意する ・宇宙に関する絵本・図鑑を常時置いておく ・大・小様々なダンボールを用意する 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろなもので宇宙空間をつくる ・宇宙のイメージが広がるよう黒いポリ袋を貼りめぐらせ暗い空間を作る ・自分のイメージしたものを色々なもので作ろうと試し、どの腐材・材料を選べば良いのか考える ・宇宙について調べようとする また自分で作った物を絵本・図鑑で確かめる ・ダンボールで製作する際は、何を使い切ったり接着するのか、どこを工夫するのかお友だちと考えたり試行錯誤する ・共通のイメージを持つて共同製作を進める 共同製作の中で自分本位な考えをしてみたいな上手く製作が進まなくなる ・自分たちで作った製作をどのように飾るか考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの表現を認める ・材料にあった接着方法を考えられるよう声をかける ・子ども同士が共通のイメージを持ち製作が行えるよう、ルールを作ったり友だちの思いが聞けるようにする ・遊びの中でトラブルが生じた時は、互いの言い分をしっかりと聞き出し話し合いを見守る ・それぞれの子どもたちの得意とする場面をほめ、みんなで認めあったり個性が発揮されるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・納得のいくまで製作に取り組んでいくか ・自分のイメージや目的に合った材料を選び工夫して作っているか ・友だちと考えを出し合い遊びを進めているか ・友だちと共通のイメージを持ち製作を行っているか ・自分の思いを伝え、また友だちの話を聞いて製作を進めているか

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> ・金づち用の机を常時置いておく ・イメージが膨らむように様々な形や大きさの木片を集めておく ・釘は太さ・長さの異なる物を用意する ・作品で遊べるコーナーを設置する 	<ul style="list-style-type: none"> ○木片を組み合わせて遊ぶ ・様々な木片の中から自分の作る物のイメージに合った木片の大きさ長さを見比べ選ぶ ・金づち・釘・ボンド・カネデザインを用途に合わせて選んで使う ・上手く出来ない場合は、友だち・保育者に声を掛けアドバイスを求めたり一緒に遊びを進めていこうとする ・一人で木片あそびを集中して行う子もいれば、友だち同士で共通のイメージを進めていこうとする子もいる ・自分で作っている作品を実際に遊びながら完成させようとする ・出来た作品をお友だちに見せ達成感を味わっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで安全に遊ぶことが出来るよう確認を十分に行う ・道具・用具・材料について正しい使い方を徹底できるように一人一人に知らせていく ・保育者も遊びに加わりながら、うまくいかない所などは、子どものイメージを大切にしながら子ども自ら考えたり気づかせられるような声かけを行う ・友だち同士で意見を伝え合い、刺激を受けるような話し合いの場を作る ・自分なりの目標を持って、繰り返し挑戦する姿を認め子どもたちの喜びに共感していく ・達成感を共に感じ、他の友だちにも意欲がわくような声掛けを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・分らないところは他者に自ら聞き解決しようとするか ・自分の持っている知識や技術を友だちに伝えられているか ・難しい作業も友だちと協力し合うことで進めていくことが出来ているか ・試しながら作ることで、さらに工夫しようとする姿が見られるか ・自分たちで作った作品で遊ぶ楽しさを味わっているか

	<ul style="list-style-type: none"> ・片付けがしやすいよう用具・材料の位置を明確に示す 	<ul style="list-style-type: none"> 片付けをする ・片付けの時間になったことに気がついた子が周囲に知らせる ・自分の使ったものは、決められた所へ片付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を十分に取らせてまで力を合わせて片付けられるよう声をかけをする ・次も楽しく遊べるよう自分たちで生活の場を進んで整えようとする気持ち育てていけるような援助を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・元の場所にきちんと片付けをしているか
11:30				

生活科 学習指導案

指導者名 中舞鶴小学校 1年1組担任 濱野 伸司
 1年2組担任 小谷 堅亮
 中舞鶴幼稚園 5才児担任 杉山 智代
 中保育所 年長担任 出石真美子
 中保育所 大塚 清美

1 対 象 中舞鶴小学校 第1学年 1組・2組・ひばり 53名
 中舞鶴幼稚園 年長児 26名
 中保育所 年長児 23名

2 日 時 平成28年11月15日 火曜日 第2校時 9:50~10:35

3 場 所 体育館

4 単 元 名 たのしいあき いっぱい (『なか・あきパーティーをしよう!』)

5 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の変化にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることや、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。」(6)「身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで楽しむことができるようにする。」(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」について関連を図って指導していく。

中舞鶴小学校は豊かな自然に囲まれた学校である。裏山のたくさんの草花や、木々の秋の変化、昆虫や生きものの生きたり姿を身近で見ることのできる環境を児童には精いっぱい楽しんでほしい。見る、触る、聞くなどははじめとする五感を使って、秋を体全体で楽しみ、自然の持つ美しさややすばらしさを感じてほしい。この単元では、裏山や、あかね川の自然に十分にひたり、落ち葉や木の実などの秋の自然物を使って工作をしたり、発想を生かして活動を考えさせたりしていく。低学年の時期に十分に自然とかかわり、そのよさを感じとらせることで、それがやがて環境に目を向ける基盤となり、自然を大切にしていこうとする態度を身に付けることにつながることを考える。

また、地域の園児と一緒に秋みつけに出かけたり、一緒に工作をしたりする中で、児童の主体性を伸ばし、伝え合う力を育成したいと考える。地域の保育所や幼稚園とは、1学期から交流を重ねているが、ペアを固定することで、親しみや安心感を持ちながら活動できるように配慮している。

共同製作では、初めはテーマを決めずに製作をスタートしたところ、秋の自然物から豊かな発想を膨らませ、多様な遊びを考え出していた。木の枝を使って釣り竿を作ってどんぐりを釣って遊ぶ子、雨どいを使ってどんぐりを転がし遊ぶ子、服を作って葉っぱの服を作り着て遊ぶ子、マラカス、ギタ

一、太鼓などの楽器を作って演奏する子など、様々な遊びの姿が見られた。中には教師が想像もしないような道具の使い方や、遊び方を思いつき活動している児童がいた。2回目の共同製作からは、秋の自然物から様々な遊びを発想し、さらにその遊びが発展する遊びの姿から、「遊び(ゲーム)」「転がし遊び」「フアッジョン(服)」「楽器」の4つのコーナーを設定し、子どもの興味・関心から自由に選べば活動させるようにした。1つの遊びをとことん追求する児童や、どのコーナーの遊びにも参加する児童もいて、ペアによって様々な楽しみ方が見られた。

交流活動を重ねることで、1年生には園児への思いやりや声かけ等が、具体的な活動場面で見られるようになり、相互の豊かな関わりが少しずつ生まれてきている。相互に積極的に関わる場を設定することで、児童にとっても園児にとっても成長の場となるように活動させたい。

6 単元目標

(1年生)

- 秋の学校で、身近な自然と関わり、それらを利用して遊ぶことを通して、秋の自然や夏との変化に気付いたり、自分たちの生活を楽しくしたりすることができるようにする。
- 園児に教えてあげたり、友達と協力したりすることにより、人と関わる楽しさを味わいながら自己肯定感を感じることができよう。

(年長児)

- 身近な自然物に触れ、興味を持ちたり、作ったり遊んだりすることを楽しむ。
- 1年生との関わりを通して、信頼関係を深め一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 小学校への憧れや期待の気持ちが高まる。

7 単元の評価基準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分自身についての気付き
○秋の自然や季節の変化に関心をもち、秋の自然を利用して、みんなで楽しく遊んだり、それらを振り返って伝え合ったりするなどして、楽しく生活しようとしている。	○四季の変化や、季節によって生活の様子が変わることについて自分なりに考えたり、身近な自然やものを活用した遊びを工夫したりして、それを素直に表現している。	○夏から秋になって自然の様子が変化したり、季節によって生活の様子が変わったりしていることや、身近な自然を利用して遊びをつくり出す面白さに気付くとともに、それらを伝え合い、交流する楽しさに気付いている。

8 単元指導計画(全 15 時間)

次	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準 (評価の観点) (評価の方法)
一	<p>1 ○校内の自然の中から、初秋の草花や樹木、虫などの動植物の様子を観察したり、自然物を集めたりする。</p> <p>2 ○校内の自然物を集めながら、自然物を使った簡単な遊びを考える。 ○観察カードをかく。</p>	<p>○集めた自然物を比べる場を設定するなどし、意欲的に自然物を集める活動をさせる。</p> <p>○夏の自然の様子を思い出し、違いを感じながら活動させる。</p>	<p>○秋の自然物や虫などに関心を持ち、それらを観察したり、集めた自然物で遊んだりしようとしている。(関・意・態) (行動観察・観察カード)</p> <p>○秋の自然の様子や、夏から秋へ移り変わってきていることに気付いている。(気付き) (行動観察・観察カード)</p>
二	<p>3 ○園児と一緒に秋の自然物を拾ったり、自然物を使って遊んだりする。</p>	<p>○児童と園児のペアを作って活動させる。</p> <p>○安全に気を付けて協力して活動させる。</p> <p>○校内や近くの公園に出かけて、自然物を拾いながら遊ばせる。</p> <p>○秋の草花や樹木、虫などの動植物の様子を観察しながら活動させる。</p>	<p>○諸感覚を使って秋の自然物を集めたり、それらを使って遊びを考えたりして楽しく活動している。(思考・表現) (発言・行動観察)</p>
4	<p>4 ○「なか・あきパーティー」に向けて、1年生と園児で共同製作をする。</p>	<p>○拾った自然物を使って遊ばせたり、遊びやおもちゃや自由で考えさせる。</p> <p>○どんなものを作りたいかを話し合わせながら協力して活動させる。</p> <p>○園児や児童がどのようなことに興味や楽しさを感じていたか聞くポイント知らせる。</p>	<p>○「なか・あきパーティー」に向けて、園児や友達と協力しながら楽しく製作しようとしている。(関・意・態) (行動観察)</p>
5	<p>5 ○園児や児童がどのようなか園児や楽しさを感じていたか聞くポイント知らせる。</p>	<p>○共同製作を通して、気付いたことや感じたことを振り返らせる。</p> <p>○園児と活動していく中で、次やってみようこと、がんばりたいことと考えさせる。</p>	<p>○自分たちの作ったもの、気に入っているところや工夫したところが伝わるよう紹介を考えている。(思・表) (発言・ワークシート)</p>
6	<p>6 ○1回目の共同製作の振り返りをする。</p>	<p>○共同製作を通して、気付いたことや感じたことを振り返らせる。</p> <p>○園児と活動していく中で、次やってみようこと、がんばりたいことと考えさせる。</p>	<p>○共同製作を通して、気付いたことや感じたことを振り返らせる。(思・表) (発言・ワークシート)</p>

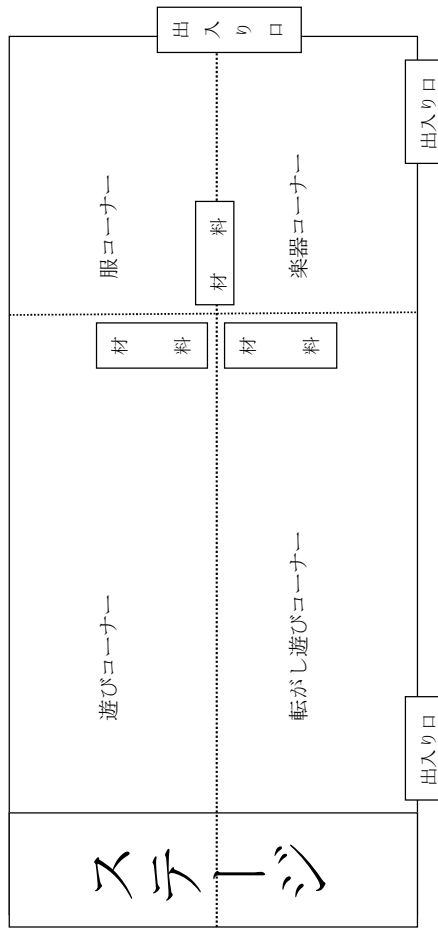
7	<p>7 ○「なか・あきパーティー」に向けて、1年生と園児で共同製作をする。</p>	<p>○2回目の共同製作の振り返りをする。</p>	<p>○「遊ぶ」「転がし遊び」「服」の4つのコーナーに分かれ、児童と園児のペアで共同製作を進めさせる。</p> <p>○一つのコーナーだけでなく、違うコーナーに移動してもよいことを伝える。</p> <p>○作ったものを「なか・あきパーティー」でどのように活躍させるかを考えさせる。</p> <p>○前時の振り返りを活かし、話し合いをしながら協力して活動できるようにさせる。</p> <p>○共同製作を通して、うまくいったこと、うまくいかなかったことを振り返らせる。</p> <p>○園児と活動していく中で、次やってみようこと、がんばりたいことと考えさせる。</p> <p>○話し合いを活かし、さらに工夫できるところや必要なものを考えさせる。</p>	<p>○「なか・あきパーティー」に向けて、園児や友達と協力しながら楽しく製作しようとしている。(関・意・態) (発言・ワークシート)</p>
10	<p>10 本時</p>	<p>○「遊ぶ」「転がし遊び」「服」の4つのコーナーに分かれ、児童と園児のペアで共同製作を進めさせる。</p> <p>○作ったもので遊びながら、さらに工夫できることを話し合わせる。</p> <p>○それぞれのコーナーの中で、作ったものの気に入っているところや頑張ったところに気付かせるようにする。</p>	<p>○「遊ぶ」「転がし遊び」「服」の4つのコーナーに分かれ、児童と園児のペアで共同製作を進めさせる。</p> <p>○作ったもので遊びながら、さらに工夫できることを話し合わせる。</p> <p>○それぞれのコーナーの中で、作ったものの気に入っているところや頑張ったところに気付かせるようにする。</p>	<p>○「なか・あきパーティー」に向けて、園児や友達と協力しながら楽しく製作しようとしている。(関・意・態) (発言・行動観察)</p>
11	<p>11</p>	<p>○ペアごとに、作ったものの紹介を考える。</p>	<p>○自分たちの作ったもの、気に入っているところや工夫したところが伝わるよう紹介を考えている。(思・表)</p>	<p>○自分たちの作ったもの、気に入っているところや工夫したところが伝わるよう紹介を考えている。(思・表) (発言・ワークシート)</p>
12	<p>12</p>	<p>○「なか・あきパーティー」を開催し、作ったものを紹介しながら、一緒に楽しく遊ぶ。</p>	<p>○コーナーの中で、前半と後半でお客さんと紹介する人に分かれて楽しませる。</p> <p>○秋の自然を利用して遊ぶ楽しさや友達や園児と遊ぶ楽しさなどに気付かせる。</p>	<p>○友達と一緒に活動することや、自分や友達のよさに気付いている。(気付き) (行動観察・発言)</p>
14	<p>14</p>	<p>○「なか・あきパーティー」の振り返りをする。</p>	<p>○気付いたことや感想などを振り返りカードに作文や絵でかき、活動を振り返らせる。</p> <p>○当日のことだけでなく、これまでの取り組みを振り返り、気付いたことを交流させる。</p>	<p>○「なか・あきパーティー」を通して、気付いたことや感想を、作文や絵に表現している。(思・表) (ワークシート・発言)</p>

備考
生活への関心・意欲・態度
活動や体験についての思考・表現
身近な環境や自分について気付かせる
・・・(関・意・態)
・・・(思・表)
・・・(気付き)

11 評価

- (1年生) ○園児や友達と協力し合い、「なか・あきパーティー」に必要な道具やあそびを楽しく作ろうとしている。(関・意・態)
- (年長児) ○秋の自然に興味を持ち、子ども同士の信頼関係を深め、一緒に作ったり、遊んだりすることを楽しめている。

12 会場設置図(場の設定)



9 本時の目標

- (1年生) 秋の自然物を用いた、工作を通して友達や園児と協力しながら、作り方や遊び方を工夫することができる。
- (年長児) 秋の自然に興味を持ち、子ども同士の信頼関係を深め、一緒に作ったり、遊んだりすることを楽しむことができる。

10 本時の展開(10/15)

過程	主な活動	予想される幼児・児童の反応	指導上の留意点
導入	1 学習のめあてを確認する。 ○ 「あそび」「ころがしあそび」「服」「楽器」の4つのグループごとに、はじまりの会をする。 ・初めの挨拶。	(5歳児) みんなできようよりよくして、なか・あきパーティーのじゅんびをしよう。 ・楽しそうだな。 ・ドキドキするな。 ・どのコーナーに行こうかな。 ・早くやってみたいな。	指 導 上 の 留 意 点 ・製作の時間を十分に取ることができるように、必要なことだけを伝える よような簡潔なはじまりの会にする。 ・年長児と1年生が対等な立場で活動し、協力して活動する楽しさを味わわせる。 ・安全に製作ができるように支援する。 ・ルールを守って、楽しく共同製作ができるように支援する。 ・共同製作の中で、困ったことがあったら自分の思いが言えるように促す。 ・子どもの気付きや、感じていたことを見逃さず、認める言葉をかけて。 ・遊びが次に発展していくように、声かけをする。 ・本時のめあてについて、振り返りをさせる。 ・児童の発言に対して、工夫したことやがんばりを引き出すように声かけをする。
展開	2 秋の自然物を使って工作をする。 ○ 「あそび」「ころがしあそび」「服」「楽器」の4つのグループに分かれて活動する。 ○ 前回の振り返りを活かし、新しい遊びやおもちゃや、製作する。 ○ 作ったもので遊びながら、さらに工夫できることはないか話し合う。 ○ はやく製作ができたグループについては、興味のあるグループに移って活動する。	(1年生) ・今日はどのコーナーに行こうかな。 ・準備は整っているかな。 ・幼稚園の子や、保育所の子は楽しんでくれるかな。 なか・あきパーティーにむけて共同製作を始めよう。 ・どうすればいいかな。 ・お兄さん、お姉さんは、どうするのかな。真似っこしてみよう。 ・上手にできてすごいな。作り方を教えてもらおうかな。 ・うまくできた。次はこうしてみたらどうかな。 ・ちがうものを作ってみよう。 ・あっちのコーナーもおもしろそう。 ・欲しい物があったらどうしよう。 ・1年生にきいてみようかな。 ・どこまで転がせるかな。 ・どんな音がでるかな。 ・合う服ができるかな。	・年長児と1年生が対等な立場で活動し、協力して活動する楽しさを味わわせる。 ・安全に製作ができるように支援する。 ・ルールを守って、楽しく共同製作ができるように支援する。 ・共同製作の中で、困ったことがあったら自分の思いが言えるように促す。 ・子どもの気付きや、感じていたことを見逃さず、認める言葉をかけて。 ・遊びが次に発展していくように、声かけをする。 ・本時のめあてについて、振り返りをさせる。 ・児童の発言に対して、工夫したことやがんばりを引き出すように声かけをする。
まとめ	3 各グループごとに振り返りをする。 ○ 終わりの会をする。 ・感想交流をする。 ・先生のお話 ・終わりの挨拶	共同製作をして、思ったことを発表しよう。 ・たくさん遊べて楽しかった。 ・作れて嬉しかった。 ・一緒に遊んでよかったな。 ・もっと、こうしてみようかな。	

余内小学校との保小連携（東山保育園） 10月31日（月）

「学びと育ちをつなげる連携教育 ～遊び込みから学び込みへ 記録と発信の重要性～」

鳴門教育大学大学院 木下 光二 教授

【はじめに】

- ・ 幼児期から児童期につながるもの1つ・・・何を思い浮かべるか？
- ・ 幼児期に遊び込めていることが、児童期の学び込みに入れる。自ら主体的に学んでいる子どもは、チャイムが鳴ってももう少しやりたいと言ひ、遊び込んでいる子どもと同じ。
- ・ スタートカリキュラムが適応指導になっていないか？「学びに向かう力」をつなげなければならない。

【本日の活動について】

- 準備（イモ洗い）のところから、両者が協力して楽しそうにやっていた。幼児が学校でもいつもと同じように変わりなくできていた。博士（校長先生）も知っていることで、安心して学校へ入学できる。
- 子どもたちの方から“協力”という言葉が出てきている。先生同士がつながったから子どもたちの段差がなくなり、ぎくしゃくすることがなかったのでは。
- 教師が徹底して手を出さない。見守っていた。失敗から考えさせ、学ばせることを大事にしたところがよい。
- 指導案に「お世話する」という表現が出てこない。お互いが対等の関係である。
- ▲ 課題としては、「導入」にあった。パーティーをしようと呼びかけているが、この活動では、「クッキング」になっていた。数量的なこと（みんなが食べられるようにするための適切な量）を考えさせることも工夫できたのでは。子どもの気付きや発見を誘う活動を工夫したい。（例）11個ずつわかる→3つの皿なら、あと8個だね。
- ・ 記録をとる。どんな学びがあったか個々に見取ることが大切。このエピソードが、小学校にとっては、入学前から子どもの様子を知ることができる利点になる。
- ・ クッキングでいくなら、バター焼きについて事前に家庭でも調べてこさせイメージを持たせておけば、探究的な活動になった。
- ・ 振り返りは、何に気が付いたかまで、教師が聞き取ってやりたい。
- ・ 机の配置、道具の数等、環境の配慮も必要。



さつまいも博士（校長先生）のお話



さつまいもを洗う



さつまいもを運ぶ



バターで焼く



振り返り

【幼児教育の現状と課題について】

- ・ 幼児期には、かかわるって楽しいな、変わるって楽しいな（異質の集団とでも）、感じられるように育てたい。
- ・ 遊びと学びの捉え、可視化と共有、学びの連続性
- ・ 次期改訂において、保育指針と幼児教育要領の整合性について整理され、幼児教育から高校教育まで柱が通った。アクティブ・ラーニングは、子どもの思いや願いに基づいて主体的に学ぶ姿を大切にしている。
- ・ 学びの芽生えは、幼児の生活の中で育っている。（例）伝えたいから、文字を書く。必要なひもの長さを身長と比べて図り取る。ザリガニを自分が描きたいから描く。子どもの思いは子どもに聞いてみないと分からない。寄り添う。

【自分の実践から】

「さつまいも大作戦」

- ・ 3つの数の計算を仕組む。
大・中・小に大きき分けしたおいもの数、全部でいくつあるかな？ $2 + 5 + 4 = ?$
その後、算数の学習がスムーズに。
- ・ 重さの概念を鍛える。
おいも 2kg分とってこよう。 図りを準備

「学校探検 オリエンテーリング」

- ・ クイズづくりをさせる。

「いかだプロジェクト」

- ・ ペットボトルを4000個集めよう。毎日集めてきては、自力で筆算する子どもたち。習っていないなくても、大きな数の計算に挑戦しようとする。
- ・ 遊びの延長だが、教科の学習が入ってくる活動にする。これがスタートカリキュラムである。
- ・ 幼児と中学生の交わりも価値があるので、関係性や出会いを作っていくとよい。

【まとめ】

- ・ 「何を学んだか」「何が育ったか」常に記録し可視化しながら学びをつなげていくことが大事である。
- ・ 連携活動を教育課程に無理なく入れていくことによって、人が変わってもしっかりと位置付くものになる。

生活科(つながり活動)学習指導案

指導者 舞鶴市立余内小学校 1年2組担任 倉本 理恵
東山保育園 年長担任 井上 絵里 塩見 恵理

- 1 日 時 平成28年10月31日(月) 13:15~14:30
- 2 場 所 舞鶴市立余内小学校 体育館
- 3 対 象 第1学年2組(男子16名 女子17名 計33名) 年長児(男子10名 女子11名 計21名)
- 4 単 元 名 「たのしい あき いっぱい」
- 5 単元のねらい
 - ・ 育ててきた作物を収穫し、みんなで収穫の喜びを分かち合う。
 - ・ きょうだいペアでかかわる活動を通して、かかわる楽しさを感じ、進んで交流しようとする思いを持つことができるようにする。

6 単元設定の理由

6月にきょうだいペアでさつまいも植えを行う際、さつまいももあさがおやひまわりのように種から育っているということを学習し、さつまいもに対する興味が高まった。その後も定期的に水やりを行い、世話をしてきている。しかし、夏休み中の世話ができなかったため、さつまいもの成長に対する気付きは多いとは言えない。そこで、さつまいもを掘る活動では、事前に植えた時の苗の様子を写真で見て思い出したり、さつまいもの特徴を学習したりすることで、育てた経験のあるあさがおやひまわりとは違った根野菜としての良さに気付かせたい。また、本時の収穫したさつまいもを焼いて食べる活動では、素材の色や形、感触、におい、熱したときの変化についても感じとらせたい。きょうだいペアとの関わりについては、さつまいもを仲良く分けて食べる場を設定する。数理的な処理を行う場を通して、互いに知恵を出し合い、どうしたら上手く分けられるか考えたり、いろいろな分け方があるという面白さに気付かせたりしたい。そのために、グループごとに場の設定をし、素材の準備をしすぎない環境を設定する。

7 本時の目標

- 1年生 調理する活動を通し、切ったときの感触や色、形、におい、熱した時の変化など、さつまいもに関する新たな気付きを楽しむことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)
- 年長児 互いに知恵を出し合い、どうしたらうまく分けられるかを考えることができる。
(活動や体験についての思考・表現)
- 年長児 さつまいもの色、形、におい、焼いたときの変化など、気付き・楽しむことができる。
(きょうだいペアで協力し合って、めあてを達成することを喜ぶ。)

8 本時の展開

主な活動	予想される幼児・児童の反応および具体的な支援	指導上の留意点	準備物
導入	1 はじめのあいさつ。 ・ きょうだいペアで座り、話を聞く。 おっきいのあるわ さつまいもあらっといたで	1年生が事前にさつまいもを洗い始める。	
	2 さつまいもについて校長先生の話を聞く。 ・ 採ってきたさつまいもを調理することを楽しみに待つ。 ・ さつまいもについて、新しい発見や気付きがある。 こっちのちいさいで	子どもたちのさつまいもへの気付きの言葉をひろい、共感していく。	
	3 今日のめあてと活動の流れを確認する。 めあて 「きょうだいで仲良く さつまいもパーティーをしよう。」 ・ これからの活動を分かりやすく伝えるために視覚支援を活用する。 「とりにいく」「きる」「やく」「バターをいれる」「わける」「さつまいもをわける」「おちやをわける」「たべる」「かたづける」	これからの活動について、危険のないよう注意事項を事前に話しておく。 今日の活動について話をし、期待が高まるようにする。	視覚支援
展開	4 調理を始める。 ・ 道具、食材の準備をする。 どれにする? 大きいのにしよ 切れるん? ・ きょうだいペアに分かれ、必要な道具・食材を相談して準備する。 A B C D 準備物が理解できている。一人で準備しようとする。他の子の活動がストップする。準備物がしっかり整えられていない。みんなで考え合い、協力し合いながら整えている。	視覚支援の教材を用意しておき、戸惑っている幼児・児童がいたら確認できるようにする。 人数を考えて、さつまいもの量や大きさを確認し、子どもたちが気付くような言葉がけをする。 準備物は種類ごとにまとめて置いておき、子どもたちが自分たちで考えて必要な物を取りに行けるようにする。	さつまいも 包丁 まな板 量り トレー 割り箸
	・ さつまいもを切る。 A B C D どう切ればよいのか、切り方や大きさについて困っている。一人で準備しようとする。他の子の活動がストップする。切ってみようとするが、うまくいかず困っている。みんなで考え合い、協力し合いながら楽しく活動できている。	準備物がその時に全て整っていないと、これから不足に気が付けばよいこととする。 さつまいもを切ったり焼いたりする中で、自らの五感を使ってさつまいもの特性に気付かせる。 「焼けたかどうか確かめるには」「上手に分ける方法は」など、子どもたちが自分たちで考えて進めていけるように言葉がけをしていく。	
	・ ホットプレートで焼く。 困っていることは何なのかを引き出す。一人の子の意欲や切り方を評価しながら、きょうだいペアで活動できているかを再確認させる。他の子の活動にも目を向けてみるように助言する。子どもたちの楽しむ姿に共感し、次の活動へ移るように助言する。	使い終わった包丁を元の位置に戻すように助言する。 安全に配慮しながら、調理中に起こる変化を見逃さずに発見できるように気を配る。	ホットプレート 竹串 つまようじ
	・ さつまいもを焼く。 あついで ふくらんできた 色がかわってきた ひっくりかえそう こげとんちやう ・ ひっくり返す道具を自分たちで試行錯誤しながら使う。 ・ さつまいもの色、形、におい、熱した時の変化など子どもたちが気付いたことに共感する。 いいにおい とけた じゅわ〜って音がする		
	・ バターを入れて焼く。 ・ バターを加えたことによって、香りが一気に広がり、自分たちが作ったものを食べてみたいという意欲を持てるようにする。 ・ きょうだいペアの数の紙皿と紙コップを持ってくる。 ・ 困っている幼児・児童には、きょうだいペアでどうすればいいか考えるように働きかける。 どうわける あまったらどうする こっちが小さいよ 同じように分けよう 一つずつ おかわりしたらいいんちやう 少しずついれよう	この活動から子どもたちの動きは一気に加速していくと考えられるので、一つ一つの活動を指示することなく、共感の姿勢で見守る。	バター(切れ目を入れておく) 紙皿 紙コップ お茶
	5 食べる準備をする。 どうわける あまったらどうする こっちが小さいよ 同じように分けよう 一つずつ おかわりしたらいいんちやう 少しずついれよう		
6 食べながら感想を交流する。 おいしくできたね ちょっとかたい いっしょにできた	食べながら、感想交流がうまく進むように言葉がけをする。		
7 食器とコップを片付ける。 ひっくりかえすんむずかしかった もう1回したい			
まとめ	8 使った道具の片付けをする。 【期待する年長児の感想】 【期待する1年生の感想】 ・ 食べたらいしかったです。 ・ きょうだいペアで一緒に作れてよかったです。 ・ じゃぶじゃぶ焼けてよかったです。 ・ バターがとけたところが、おもしろかったです。 ・ かわいかったです。 ・ また家でもしてみたいです。	今日の活動の中で見られたよさや頑張りを伝える。	
	9 振り返りをする。		
10 終わりのあいさつ。			

9 評価

- 1年生 さつまいもの感触や色、形、におい、熱した時の変化など新たな気付きを楽しむことができたか。
互いに知恵を出し合い、分け方を考え、工夫することができたか。
- 年長児 さつまいもについていろいろ発見をし、楽しめたか。
きょうだいペアと協力して活動ができたか。